

# 鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報VIII

平成 4 年度

鹿児島大学埋蔵文化財調査室

1993年3月

## 序

キャンパスのあちこちで、大は新築工事から小は電柱の移設に至るまでの多くの工事がなされています。これらの工事に際しては、各学部の御理解御協力もあり、今は、必ず埋蔵文化財調査室による調査が行われるようになっております。平成四年中に調査した結果を、ここに『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報Ⅴ』として発行する運びになりました。

ここには、平成4年1月～3月迄の試掘調査1件、立会調査11件を第I部として、同年4月～12月迄の発掘調査3件、試掘調査1件、立会調査3件を第II部としてそれぞれ掲載しております。

工学部地区の地域共同センター予定地の試掘では、情報工学科棟建設地で確認された河川跡の範囲を推定するのに資する地域であることが明確になります。また、教育学部地域の発掘調査では、古墳期のピットや溝状遺構が確認されております。さらに、図書館の樹木移植にともなう立会調査によって密度の高い遺物包含層を確認しており、同地域の本調査は時間をかけた調査の必要性を窺わせております。

このような調査の継続により、郡元キャンパスの地下の地図が次第に描かれつつありますが、毎年の発掘により出土する遺物も大量になり、その整理保管も重要な課題になりつつあります。長期的展望に立ち、各学部共同利用の「大学博物館」を設立し、そこに埋蔵文化財調査室を含めるというプランを検討する時期にきているのではないかと思います。

各学部のさらなるご協力をお願いする次第です。

平成5年3月

鹿児島大学埋蔵文化財調査委員会

委員長 安藤 保

## 例　　言

1. 本年報は鹿児島大学構内において鹿児島大学埋蔵文化財調査室が平成4年1月から12月までに行った調査活動の成果をまとめたものである。調査報告は平成3年度分（平成4年1月～3月）を第I部、平成4年度分（平成4年4月～12月）を第II部とする。ただし、平成4年度に行った郡元団地P-4・5区と郡元団地O-7区における発掘調査については、本年報においてはその概要を記すにとどめ、本報告は来年度年報に掲載する予定である。
2. 昭和60年6月1日の埋蔵文化財調査室の設置を機として、鹿児島大学構内におけるこれからの埋蔵文化財調査に便であるように鹿児島大学構内座標を郡元団地と宇宿団地とに設定した。  
その設置基準は以下のようである。
  - (1) 郡元団地では、国土座標第2座標系（X=-158.2000, Y=-42.400）を基点として一辺50mの方形地区割りを行った。（図版2参照）。
  - (2) 宇宿団地では、国土座標第2座標系（X=-161.600, Y=-44.400）を基点として一辺50mの方形地区割りを行った。
3. 層位断面図横の数値は、すべて海拔高である。
4. 本年報において報告を行った調査地点については、立合調査地点を除き、図版2にその位置を示している。
5. 付編を除く本年報の執筆は第I部については第1・2章を中村直子が、第3章を有馬孝一が担当し、第II部については第1・4章を中村が、第2章を前幸男が、第3章を大西智和が担当している。
6. 本年報掲載の遺構・遺物の実測・製図・遺構の写真撮影は中村・大西・黒木綾子・有馬・前・松村みどりが行い、遺物の写真撮影は大西・松村・中村が行った。
7. 付編は、平成3年度埋蔵文化財調査室が行った鹿児島大学工学部情報工学科棟建設地内の発掘調査の際、河2から出土した遺物の報告で、「鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報VII」に掲載の調査報告の欠を補うものである。中村・黒木が執筆した。
8. 第I部の第2章の遺物、第II部第2・3章の層位・遺物、付編の遺物の色調については、「新版 標準土色帖」（農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財團法人日本色彩研究所色票監修）の標記方法によった。
9. 稲盛ホール建設予定地内の調査に際し、森脇広氏（鹿児島大学法文学部助教授）には本調査区検出の土層の観察を中心として、多くのご教示を賜った。また、本田道輝氏（鹿児島大学法文学部助手）には地域共同センター試掘調査において、また、付編に掲載した工学部情報工学科河2出土の遺物について、数々の御教示を賜った。岡本満子氏にも同遺跡の縄文土器の底部について、貴重なご教授を賜った。
10. 本書の編集は室長上村俊雄の指導を受けて、鹿児島大学埋蔵文化財調査室が行った。

## 目 次

第Ⅰ部 平成3年度（平成4年1月～3月）鹿児島大学構内遺跡発掘調査報告	1
第1章 平成3年度（平成4年1月～3月）調査の概要	3
第2章 郡元団地H-11区（地域共同研究センター建設予定地）における試掘調査報告	4
1. 調査に至る経過	4
2. 調査組織	4
3. 調査の経過	4
4. 節序	4
5. 遺物	6
6. まとめ	6
第3章 平成3年度（平成4年1月～3月）立合調査報告	8
第Ⅱ部 平成4年度（平成4年4月～12月）鹿児島大学構内遺跡発掘調査報告	13
第1章 平成4年度（平成4年4月～12月）調査の概要	15
第2章 郡元団地K-12区（工学部応用化学工学科エレベーター建設予定地）における発掘調査報告	17
1. 調査に至る経過	17
2. 調査組織	17
3. 調査の経過	17
4. 節序	17
5. まとめ	18
第3章 郡元団地L-11・12区（福盛ホール建設予定地）における試掘調査報告	19
1. 調査に至る経過	19
2. 調査組織	19
3. 調査の経過	19
4. 節序	20
5. 遺構	21
6. 遺物	22
7. まとめ	23
第4章 平成4年度（平成4年4月～12月）立合調査	24
・鹿児島大学構内遺跡調査要項	28
・購入・受贈図書目録	29

## 付 編

I. 鹿児島大学構内遺跡郡元団地H-11・12区、工学部情報工学科建設地発掘調査河2出土遺物の紹介	41
II. 鹿児島大学構内遺跡（郡元団地H-11区地域共同センター建設予定地）におけるプラント・オパール分析結果	69

## 挿 図 目 次

・郡元団地H-11区（地域共同研究センター建設予定地）における試掘調査	
第1図 調査区位置図	4
第2図 層位断面図	5
第3図 出土遺物	6
・平成3年度立合調査	
第4図 農学部舗装工事にともなう立合調査位置図	8
第5図 電気幹線改修工事に伴う立合調査位置図	9
第6図 農学部実習地建柱工事・自家給水施設高架水槽用量水器改修工事・自家給水施設7号井戸揚水設備工事に伴う立合調査位置図	9
第7図 連合農学研究科棟前造園及び移植工事・連合農学研究科駐車場舗装工事に伴う立合調査位置図	10
第8図 銀杏並木通り側溝フタ補修等工事に伴う立合調査位置図	11
第9図 教育学部前造園工事に伴う立合調査位置図	11
・郡元団地K-12区（工学部応用化学工学科エレベーター建設予定地）における発掘調査	
第10図 調査地点位置図	17
第11図 層位断面図	18
・郡元団地L-11・12区（福盛ホール建設予定地）における試掘調査	
第12図 調査位置図	19
第13図 層位断面図	20
第14図 No.1トレンチ遺構平面図	22
第15図 出土遺物	22
・平成4年度立合調査	
第16図 鹿児島大学QTNelt回線引き込み工事に伴う立合調査位置図(1)	24
第17図 鹿児島大学QTNelt回線引き込み工事に伴う立合調査位置図(2)	24
第18図 図書館自転車置き場移転工事・樹木移植工事に伴う立合調査位置図	25
・郡元団地H-11・12区（工学部情報工学科棟建設予定地）発掘調査における河2出土遺物の紹介	
第19図 出土遺物(1)	44
第20図 出土遺物(2)	45
第21図 出土遺物(3)	47

第22図	出土遺物（4）	48
第23図	出土遺物（5）	49
第24図	出土遺物（6）	50
第25図	出土遺物（7）	51
第26図	出土遺物（8）	52
第27図	出土遺物（9）	53
第28図	出土遺物（10）	54
第29図	出土遺物（11）	55
第30図	出土遺物（12）	56
第31図	出土遺物（13）	57
第32図	出土遺物（14）	58
・郡元団地H-11区（地域共同研究センター建設予定地）におけるプラント・オパール分析結果		
第33図	プラント・オパール定量分析結果	70

## 表 目 次

・郡元団地H-11区（地域共同研究センター建設予定地）における試掘調査		
表1	出土遺物観察表	7
・郡元団地L-11・12区（福盛ホール建設予定地）における試掘調査		
表2	層の対応	21
・郡元団地H-11・12区（工学部情報工学科棟建設予定地）発掘調査における河2出土遺物の紹介		
表3	河2出土遺物観察表	59
・郡元団地H-11区（地域共同研究センター建設予定地）におけるプラント・オパール分析結果		
表4	プラント・オパール定量分析結果	69

## 図 版 目 次

図版1	鹿児島市地図	73
図版2	鹿児島大学郡元団地構内図	74
・鹿児島大学郡元団地H-11区（地域共同研究センター建設予定地）における試掘調査		
図版3	郡元団地H-11区における試掘調査（1）	75
図版4	郡元団地H-11区における試掘調査（2）	76
図版5	郡元団地H-11区における試掘調査（3）	77
・郡元団地K-12区（工学部応用化学工学科エレベーター建設予定地）における発掘調査		
図版6	郡元団地K-12区における発掘調査	78
・郡元団地L-11・12区（福盛ホール建設予定地）における試掘調査		
図版7	郡元団地L-11・12区における試掘調査（1）	79
図版8	郡元団地L-11・12区における試掘調査（2）	80

・郡元団地H-11・12区工学部情報工学科棟建設地発掘調査河2出土遺物の紹介	
図版9 郡元団地H-11・12区における発掘調査河2出土遺物(1)	81
図版10 郡元団地H-11・12区における発掘調査河2出土遺物(2)	82
図版11 郡元団地H-11・12区における発掘調査河2出土遺物(3)	83
図版12 郡元団地H-11・12区における発掘調査河2出土遺物(4)	84
図版13 郡元団地H-11・12区における発掘調査河2出土遺物(5)	85
図版14 郡元団地H-11・12区における発掘調査河2出土遺物(6)	86
図版15 郡元団地H-11・12区における発掘調査河2出土遺物(7)	87
図版16 郡元団地H-11・12区における発掘調査河2出土遺物(8)	88
図版17 郡元団地H-11・12区における発掘調査河2出土遺物(9)	89
図版18 郡元団地H-11・12区における発掘調査河2出土遺物(10)	90
図版19 郡元団地H-11・12区における発掘調査河2出土遺物(11)	91
図版20 郡元団地H-11・12区における発掘調査河2出土遺物(12)	92
図版21 郡元団地H-11・12区における発掘調査河2出土遺物(13)	93
図版22 郡元団地H-11・12区における発掘調査河2出土遺物(14)	94

# 第Ⅰ部 平成3年度（平成4年1月～3月） 鹿児島大学構内遺跡発掘調査報告

- 第1章 平成3年度（平成4年1月～3月）調査の概要
- 第2章 鹿児島大学郡元団地H-11区における試掘調査報告
- 第3章 平成3年度（平成4年1月～3月）立合調査報告

## 第1章 平成3年度（平成4年1月～3月）調査の概要

平成4年1月～3月においては、下記の試掘調査（1件）、および下記の工事にともなう立合調査（11件）を実施した。

### 試掘調査

- ・工学部地域共同研究センター建設予定地における埋蔵文化財試掘調査（平成4年2月10～27日、郡元団地H-11区）

### 立合調査

- ・農学部舗装工事（平成4年1月16日、郡元団地E-7・8区）
- ・農学部実習地建柱工事（平成4年1月21日、郡元団地F-12区）
- ・電気幹線改修工事（平成4年1月21～23日、郡元団地H-8・I-10区）
- ・自家給水施設高架水槽用量水器改修工事（平成4年1月22日、郡元団地I-9区）
- ・課外活動施設（厩舎）新當給排水工事（平成4年2月5日、郡元団地B-8区）
- ・自家給水施設7号井戸揚水設備工事（平成4年2月18・19日・3月12・14・17～19日、郡元団地F・G-10区）
- ・適合農学研究科棟前造園及び移植工事（平成4年3月16日、郡元団地E・F-3・4区）
- ・適合農学研究科駐車場舗装工事（平成4年3月16日、郡元団地F・G-3・4区）
- ・自家給水施設7号井戸揚水設備電気工事（平成4年3月18日・19日、郡元団地H-10区）
- ・銀杏並木通り側溝フタ補修等工事（平成4年3月19日、郡元団地K-5～8区）
- ・教育学部前述園工事（平成4年3月21日、郡元団地M-3～7区）

試掘調査の地点は、平成2年度に発掘調査を行った工学部情報工学科棟建設地の北に隣接する。情報工学科棟建設地では、東西方向と南北方向に流れる河川跡を確認した<sup>1)</sup>が、今回の調査地点でも、その埋土と類似した層を検出し、情報工学科棟建設地の調査の際に明らかにできなかった河川跡の範囲を推定できる重要な資料となった。

立合調査においてはいずれも掘削深度が浅く、埋蔵文化財に影響が認められたものは少なかった。ただし、自家給水施設7号井戸揚水設備電気工事にともなう立合調査では、上述した工学部情報工学科の北側に当たり、河川跡の続きであると考えられる砂層を検出している。以上のことより、付近一帯に連続する流路が推定でき、今後、掘削等による現状の変更がある場合には注意が必要である。

### 註

1) 「付録II、鹿児島大学郡元団地H-11・12区（工学部情報工学科校舎建設予定地）における発掘調査報告」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報Ⅱ』鹿児島大学埋蔵文化財調査室 1992年

## 第2章 郡元団地H-11区（地域共同研究センター建設予定地）における試掘調査

### 1. 調査に至る経過

鹿児島大学では、地域共同研究センターの建設工事を計画している。建設予定地は、郡元団地の西部に位置し、この地点南側に隣接する工学部情報工学科棟建設地においては、平成元年度に行なった校舎建設にともなう事前の調査によって、古墳時代を中心とする遺物の包含層とそれを含む東西、南北方向に流れる河川跡を検出した。よって、今回の調査でもこれらの遺構や遺物包含層の存在が予想された。このため、埋蔵文化財調査室では本予定地において埋蔵文化財確認試掘調査を実施した。

### 2. 調査組織

本試掘調査は以下の体制で平成4年2月10日から27日まで行った。

調査主体者 鹿児島大学埋蔵文化財調査室室長 上村俊雄

調査担当 鹿児島大学埋蔵文化財調査室

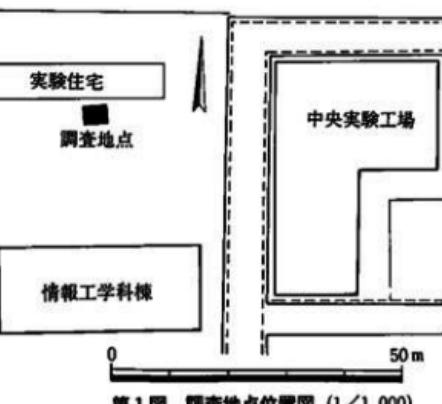
室長 上村俊雄

室員 中村直子・有馬孝一

発掘調査作業員 石谷サチ子・盛満アイ子・福永花江・名越ヒデ子・寺光ミツ子・元田順子

### 3. 調査の経過

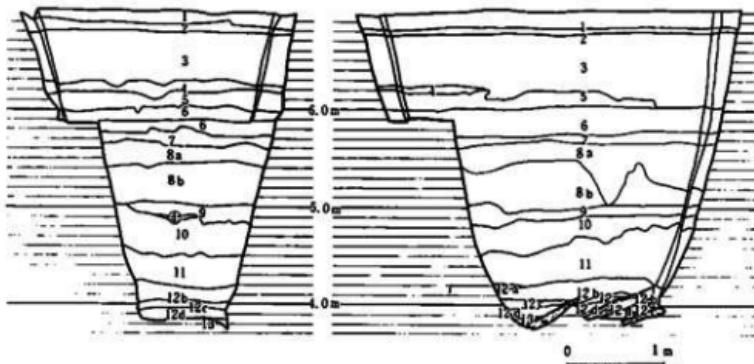
本調査では、第1図に示す建設予定地内に東西方向に4m、南北方向に3mのトレンチを設定した。南に隣接する工学部情報工学科の発掘調査では、調査区外北側に広がる河川跡を検出しており、今回の調査でも河川跡の存在を予想していたが、調査の結果9層以下から河川跡の埋土と考えられる砂層を検出した。調査は地表下約3mの黒色粘質土上面を検出した時点で調査を終了した。また、宮崎大学の藤原宏志教授にプラントオパール分析を依頼した（付録II参照）。



### 4. 層序（第2図）

基本土層として1層から13層までを確認した。以下、その説明を行う。

1層 茶褐色 砂混じりシルト質砂層（盛土）。

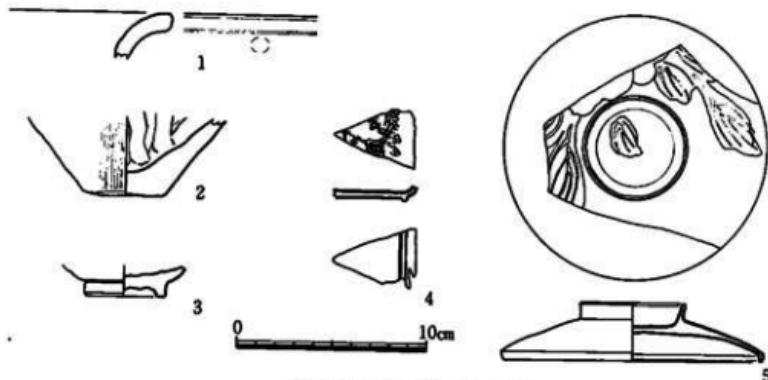


第2図 層位断面図 S=1/60

- 2層 黒褐色シルト質砂層。
- 3層 明茶褐色を基調とする暗灰褐色混じりシルト質砂層。礫・ブロックを含む。
- 4層 暗灰褐色シルト質砂層。軽石粒を微量含む。
- 5層 灰褐色を基調とした茶褐色混じりシルト質砂層（マンガン浸透）。
- 6層 明灰褐色を基調とした橙褐色混じりシルト質砂層。
- 7層 明灰褐色シルト質砂層。
- 8 a層 明灰褐色を基調とした暗褐色混じりシルト質砂層（7層よりも灰色味を増す）。
- 8 b層 8 a層と非常に似ているが、明茶褐色の鉄分が継長のリング状に混ざる。シルト質砂層（粒子細かい）。
- 9層 灰褐色シルト質砂層。粒子が細かく、①層土と8 b層土をブロック状に含む。
- 10層 黒灰色砂質シルト層。粘質が強く、粒子が細かい。①層土と9層土をブロック状に含む。
- 11層 明灰褐色を基調とする粗砂や細砂が縦状に堆積しており、軽石を多く含む。
- 12 a層 茶褐色粗砂層。
- 12 b層 灰白色粗砂層。
- 12 c層 明茶褐色粗砂層。
- 12 d層 灰白色粗砂層。12 b層を基調とし、軽石を多く含む。
- 13層 黒色砂質シルト層（粒子が細かい）。
- ①層 白色シルト層（粒子が非常に細かい）。

1層から3層まではブロック塊等を含み、現代の擾乱を受けている。9層以下は情報工学科建設地の発掘調査の際に検出した河川跡<sup>1)</sup>の埋土に類似しており、トレーナーの位置がその流路の延長線上に当たる。また、13層の上面は河川跡の河底と類似しており、河川跡である可能性が高い。

河3は調査区を南北方向に流れおり、今回の調査区はその流れの延長線上にあることから、河川の埋土と考えられる。河の底部と推定できる13層上面からは径10cm前後の木片が3本出土してい



第3図 出土遺物 S=1/3

る。根元は13層に食い込んでおり、また表面が平坦なものも見られた。これらは南壁面に張りつくようにして出土したため、表面の観察のみに留まつたが、杭である可能性も考えられる。昭和51年に調査を行った釣田第8地点<sup>1)</sup>は今回の調査区の約300m東に位置するが、多量の古墳時代を中心とする遺物を包含する埋土をもつ河川が検出しておあり、この河川の底から杭列が検出されている。情報工学科棟建設地における発掘調査で検出した河川埋土の遺物も同時期の遺物が多く、当調査区の木片あるいは同時期の杭列ではないかと推測できる。今回の調査では木片は取り上げず埋め戻しを行い、本調査時に詳細な検討を行うことにした。

#### 5. 遺物（第3図・表1）

出土した遺物のうち図化できるもののみ提示した。3は陶器、4・5は磁器の染め付けで、いずれも1層から出土している。2は5層から出土した壺の底部である。歪んだ平底を呈する。1は12層から出土したものである。1は壺の口縁部で、摩滅している。

#### 6. まとめ

今回試掘調査を行った地点は情報工学科棟建設地の北側に隣接し、調査開始当初、河川跡の存在や古墳時代を中心とする遺物包含層の存在を容易に推定できた。今回の調査はその予測を十分に裏付けるもので、河川跡の埋土と考えられる土層の堆積や、それに含まれる遺物、また、杭列の一部ではないかと考えられる木片がなどを検出した。

情報工学科建設予定地における発掘調査で検出した河川は東西方向に流れる河1・2と南北方向に流れる河3が確認されている。今回の調査区はその北側に位置し、これらの河川跡と連続していると推定できる。また、古墳時代を中心とした遺物包含層の確認もできた。以上の結果から、今後、本地点での現状の変更がある場合は、埋蔵文化財への十分な配慮が必要であると考える。

## 註

- 1) 「付録II. 鹿児島大学部元団地H-11・12区(工学部情報工学科校舎建設予定地)における発掘調査報告」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報Ⅴ』鹿児島大学埋蔵文化財調査室 1992年
- 2) 「第三章 鹿児島大学埋蔵文化財調査室設置以前の調査」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報Ⅰ』鹿児島大学埋蔵文化財調査室 1985

表1 出土遺物観察表

器番号	器種	部位	出土場	色調・釉調	胎土・磁胎	調査・施文	備考
3-1	盃	口縁部	13	外面: 明褐色7.5Y R 5/6. 内面: 明褐色7.5Y R 5/6. にぶい 黄褐色10Y R 7/3.	砂粒-細砂粒を含む. 角閃石.	外面: オビオサエのちナデ. 内面: ナデ.	
3-2	盃	底部	5	外面: にぶい赤褐色5Y R 4/3. 下部品色7.5Y R 1.7/1. 内面: にぶい褐色7.5Y R 5/4.	細砂粒を含む. 黒色 胎.	外面: ミガキ(0.8mm 幅). 内面: オビオサ エのちナデ. 底面: ナ デ.	底径: 4.0cm.
3-3	碗	底部	1	外面: 赤褐色5Y R 4/6. 内面: にぶい赤褐色2.5Y R 4/4.	微細な砂粒を含む.	粗粒ナデ.	底径: (4.2)cm.
3-4	皿	底部	1	釉: 透明釉.	白色.	内面: 染め付け. 高 台: 無釉. 脚: 磁胎.	
3-5	皿	蓋	1	釉: 透明釉.	白色.	外面: 染め付け. 磁胎.	口径: (13.4)cm.

### 第3章 平成3年度（平成4年1月～3月）立合調査報告

平成3年度（平成4年1月～3月）においては、下記の工事に伴い、立合調査を実施した。

- ・農学部舗装工事（平成4年1月16日、郡元団地E-7・8区）
- ・農学部実習地建柱工事（平成4年1月21日、郡元団地F-12区）
- ・電気幹線改修工事（平成4年1月21～23日、郡元団地H-8・I-10区）
- ・自家給水施設高架水槽用流量水器改修工事（平成4年1月22日、郡元団地I-9区）
- ・課外活動施設（厩舎）新営繕排水工事（平成4年2月5日、郡元団地B-8区）
- ・自家給水施設7号井戸揚水設備工事（平成4年2月18・19日・3月12・14・17～19日、郡元団地F-10～12・G-10区）
- ・連合農学研究科棟前造園及び移植工事（平成4年3月16日、郡元団地E・F-3・4区）
- ・連合農学研究科駐車場舗装工事（平成4年3月16日、郡元団地F・G-3・4区）
- ・自家給水施設7号井戸揚水設備電気工事（平成4年3月18・19日、郡元団地H-10区）
- ・銀杏並木通り側溝フタ補修等工事（平成4年3月19日、郡元団地K-5～8区）
- ・教育学部前造園工事（平成4年3月21日、郡元団地M-3～7区）

#### 農学部舗装工事に伴う立合調査（第4図A）

本工事では、農学部農業工学科棟の北側を幅1m、長さ65mにわたって溝状の掘削を行った。掘削は地表下30～60cmに及んだが、盛土・根乱層内であり埋蔵文化財への影響はなかった。



#### 農学部実習地建柱工事に伴う立合調査（第6図A）

本工事では、農学部実習地通用門南側を直径約30cm、地表下1.2mまでの掘削を行った。堆積状況は以下の通りである。

- 盛土（層厚20cm）
- 暗茶褐色土層（層厚20cm）
- 明茶褐色（鉄分）混じり灰色土層
- 灰色土層

III. IV層は水田層ではないかと思われる。なお掘削面積が狭いため、III層以下の層厚については判別不可能であった。遺物の出土は認められなかった。

第4図 農学部舗装工事・課外活動施設（厩舎）新営繕排水工事に伴う立合調査位置図  
S=1/2,000

### 電気幹線改修工事に伴う立合調査（第5図A・B）

本工事では、電子電気工学科棟南側倉庫の南側部分（A）を4.5m×3m、実験研究棟の北側部分（B）を3.2m×2.7mの範囲、地表下0.8m～1mにおよぶ掘削を行ったが、掘削は全て既掘部内にとどまり、埋蔵文化財への影響は認められなかった。

### 自家給水施設高架水槽用蓄水器改修工事に伴う立合調査（第6図C）

本工事では、電子電気工学科棟南側部分を長さ6.6m、幅0.4m、地表下0.7mにわたり溝状に掘削したが、掘削は盛土・搅乱層内にとどまり埋蔵文化財への影響はなかった。



### 課外活動施設（厩舎）新營繕排水工事に伴う立合調査（第4図B）

本工事では、厩舎建設予定地東側部分を長さ2.6m、幅0.6m、地表下1.07mにわたり掘削を行った。堆積状況については以下の通りである。

- I層 盛土・バラス（層厚17cm）
- II層 明茶褐色シルト質砂層（層厚10cm）
- III層 明灰褐色シルト質砂層（層厚10cm）
- IV層 灰褐色混じり暗茶褐色シルト質砂層（層厚70cm）

I～IV層の全ての層においてブロックの混入が認められ、掘削部は既掘部であることが確認された。なおI層土中から陶器片が2点出土した。

### 自家給水施設7号井戸揚水設備工事にともなう立合調査（第6図B～H）

本工事では、農学部実習地通用門から変電室東側まで7号井戸揚水設備に付随する（C～H）水道管埋設工事を行うことになり、それに先駆けて6カ所の部分掘りを行い、土層の観察を行った。ここではまず、プライマリーな層の検出された2地点について、堆積状況の説明を行う。

#### 第C地点

- I層 盛土（層厚25cm）
- II層 灰褐色シルト質砂層（層厚25cm）
- III層 茶褐色混じり灰褐色シルト質砂層（層厚30cm）
- IV層 橙褐色混じり灰褐色シルト質砂層（層厚10cm）



#### 第H地点

- I層 盛土（層厚25cm）
- II層 灰褐色シルト質砂層（層厚10cm）
- III層 茶褐色混じり灰褐色シルト質砂層（層厚20cm）
- IV層 橙褐色混じり灰褐色シルト質砂層（層厚20cm）

第H地点の廃土中からは、青磁片を1点採集した。

次に予備立合調査後の掘削工事の際に確認されたV・VI層と、7号井戸部分で確認された堆積状況について説明を加える。

- V層 黒灰色シルト層（地表下110cmから層厚10cm）
- VI層 橙褐色混じり灰褐色シルト質砂層（地表下120cmから130cm）

VI層は、IV層とほとんど同質であるが、粘質性がやや弱いようである。

7号井戸部分（長さ2m、幅2m、深さ2m）（B）

#### 北壁土層

- I層 盛土・攪乱層（層厚80cm）
- II層 黄褐色混じり灰褐色シルト質砂層（層厚15～31cm）
- III層 茶褐色混じり灰褐色シルト質砂層（層厚25cm）
- IV層 暗灰色シルト質砂層（層厚18cm）
- V層 明灰褐色砂層（層厚18～30cm）
- VI層 橙褐色粗砂層（層厚10cm）
- VII層 明黄灰色砂層

#### 東壁南隅土層

- 1層 盛土・攪乱層（層厚100cm）
- 2層 黄褐色混じり灰褐色シルト質砂層（境界線不明、層厚Ⅱ層+Ⅲ層が25cm）
- 3層 茶褐色混じり灰褐色シルト質砂層
- 4層 暗灰色シルト質砂層（層厚10cm）
- 5層 黄白色砂層（層厚5cm）
- 6層 黑灰色シルト層（層厚13cm）
- 7層 明白褐色細砂質シルト層（層厚30cm）
- 8層 黒色シルト層

II・III層は水田層であろうと思われる。北壁断面にみられるIV・V層は工学部情報工学科発掘調査の際に検出された河1の埋土に類似している。またそれ以下に続く層も河の埋土ではないかと思われる。東壁南隅の土層は1層から4層までは北壁と同様であるが、5層以下、特に6層以下はシルト層の堆積となり、河の埋土であるのか、プライマリーな層であるか判別できり。

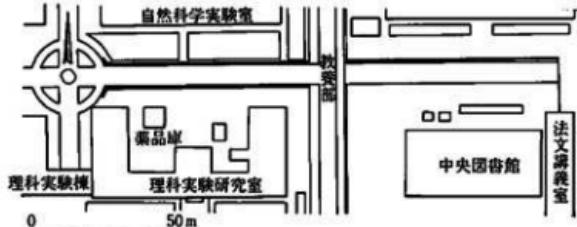


第7図 連合大学院農学研究科  
棟前造園及び移植工事・  
連合大学院駐車場舗装工事に伴う立合調査位置図

S = 1/2,000

なかった。

本調査では一点の遺物しか出土していないが、擾乱をうけた層の下部に水田層と思われるプライマリーな層が検出され、さらに河川の作用でできたと思われる堆積層が確認された。今後、付近の掘削工



第8図 銀杏並木通り側溝フタ補修等工事に伴う立合調査位置図

S = 1/2,000

#### 連合農学研究科棟前造園及び移植工事に伴う立合調査（第7図B）

本工事では、連合農学研究科棟北側を掘削したが、掘削部は全て盛土内にとどまっており埋蔵文化財への影響は認められなかった。

#### 連合農学研究科駐車場舗装工事に伴う立合調査（第7図A）

本工事では、大学院連合農学科研究棟の周囲を南側を中心に地表下10cmから15cmにわたり掘削を行ったが、この範囲は客土のため埋蔵文化財への影響は認められなかった。

#### 自家給水施設7号井戸揚水設備電気工事に伴う立合調査（第6図I）

本工事では、第2ポンプ室南側を地表下80cmから100cmの深さで、幅85cm、長さ15mにわたり溝状に掘削を行った。なお配管の都合上、一部は地表下175cmまで掘削を行った。調査の結果、深掘部分でプライマリーな層を確認することができた。以下堆積状況の説明を行う。

I層 盛土・擾乱層（層厚100cm）

II層 茶褐色混じり灰褐色シルト質砂層（II層、III層の境界線は不明瞭。層厚II層+III層が70cm）

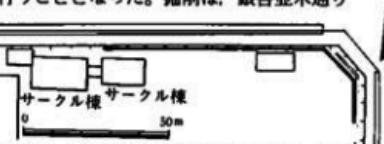
III層 橙褐色混じり灰褐色シルト質砂層

IV層 黒灰色シルト層

II・III・IV層は、郡元地区自家給水施設7号井戸揚水設備工事の際（C～H地点）に確認されたIII・IV・V層と一致するものと思われる。

#### 銀杏並木通り側溝フタ補修等工事に伴う立合調査（第8図）

本工事は、手続きの遅れのため掘削終了後立合調査を行うこととなった。掘削は、銀杏並木通りわきの側溝横を幅15cm、深さ10cm、総延長約120mの溝状に行われたが、盛土内にとどまり埋蔵文化財への影響は認められなかった。



第9図 教育学部前造園工事に伴う立合調査

S = 1/2,000

#### 教育学部前造園工事に伴う立合調査（第9図）

本工事は、手続きの遅れのため掘削終了後立合調査を行うこととなった。教育学部キャンパス北西隅の掘削は長さ81m、幅80cm、深さ50cmに及んで行われたが全て盛土内にとどまっており埋蔵文化財への影響は認められなかった。

## 第Ⅱ部 平成4年度（平成4年4月～12月） 鹿児島大学構内遺跡発掘調査報告

- 第1章 平成4年度（平成4年4月～12月）調査の概要
- 第2章 郡元団地K-12区における発掘調査報告
- 第3章 郡元団地L-11・12区における試掘調査報告
- 第4章 平成4年度（平成4年4月～12月）立合調査報告

## 第1章 平成4年度（平成4年4月～12月）調査の概要

平成4年度においては発掘調査3件、試掘調査1件、立合調査3件を行った。以下、その概要について述べる。

### 本調査

- ・工学部応用化学工学科エレベーター建設予定地発掘調査（平成4年6月18～25日、郡元団地K-12区）
- ・教育学部音楽美術棟建設予定地発掘調査（平成4年6月16日～10月3日、郡元団地O・P-4・5区）
- ・教育学部福利厚生施設建設予定地発掘調査（平成4年10月1日～12月25日、郡元団地O-7区）

### 試掘調査

- ・工学部稻盛ホール建設予定地試掘調査（平成4年10月20日～30日、郡元団地L-11・12区）

### 立合調査

- ・鹿児島大学QTNect回線引き込み工事（平成4年9月2日、郡元団地H-9・L-10区）
- ・附属図書館南側白板車置き場移設工事（平成4年12月17・18日、郡元団地L-6・K-8・9区）
- ・附属図書館南側樹木移植及び撤去工事（平成4年12月17・18日、郡元団地L-6・J-4区）

工学部は応用化学工学科のエレベーター建設予定地と稻盛ホール建設予定地の調査を行ったが、エレベーター建設予定地は応用化学工学科棟に隣接した場所であったため、ほとんどが擾乱されており、わずかに水田層らしきものを残すのみであった。一方、稻盛ホール建設予定地に関しては、遺物の出土は少なかったものの、氾濫層と推定できる砂層の堆積と、その下に、黒色の粘質土で植物の繊維を多く含んでいる層を確認しており、当時低湿地であったことを示唆している。次に述べる教育学部の福利厚生施設建設予定地でも同一層確認しており、周辺の当時の環境を解明する上でも、今後の注意が必要であると考える。

教育学部では、近接する2地点の発掘調査を行った。教育学部は過去数回にわたって調査を行ってきたが、福利厚生施設の試掘調査結果<sup>2)</sup>から予想されていたとおり、古墳時代の遺物包含層を確認し、ピットや溝状造構などの該期の遺構を確認した。両地点とも、該期の住居跡が確認されている鹿児島大学教育学部付属小・中学校や理学部・教養部の中間に位置し、この地点での遺構の確認は、当時の集落の復元に重要な資料となった。

教養部では図書館の樹木移植工事にともなう立合調査を行ったが、この地点は、古墳時代の住居跡が確認されている釘田第一地点<sup>3)</sup>の北側にあたり、古墳時代の遺物包含層の存在を確認した。遺物は小片が多かったが、遺物包含の密度は高く、また、工学部や教育学部での調査で出土したような摩滅したものではないため、遺構が存在している可能性が高い地点だと考えられる。

註

- 1) 「付録II. 鹿児島大学郡元団地H-11・12区（工学部情報工学科校舎建設予定地）における発掘調査報告」「鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報VI」鹿児島大学埋蔵文化財調査室 1992年
- 2) 「付録II. 鹿児島大学郡元団地H-11・12区（工学部情報工学科校舎建設予定地）における発掘調査報告」「鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報IV」鹿児島大学埋蔵文化財調査室 1989年
- 3) 「付録 釘田第1地点（鹿児島大学教養部）遺跡発掘調査報告」「南部九州における原始・古代の鐘様相に関する総合的研究」鹿児島大学法文学部 1992年

## 第2章 郡元団地K-12区（工学部応用化学工学科エレベーター建設予定地）における発掘調査報告

### 1. 調査に至る経過

鹿児島大学工学部応用化学工学科では、身障者用施設としてエレベーターを設置する予定である。近隣の工学部危険物薬品庫<sup>1)</sup>、および工学部情報工学科<sup>2)</sup>では、以前の調査から、古墳時代から中世にかけての遺物や水田層、河川跡の存在が確認されている。このため、本建設予定地においても埋蔵文化財の包蔵が予想されたため、下記の体制で平成4年6月18日から25日にかけて発掘調査を行った。

### 2. 調査組織

調査主体者 鹿児島大学埋蔵文化財調査室室長 上村俊雄  
調査担当 鹿児島大学鹿児島大学埋蔵文化財調査室  
室長 上村俊雄  
室員 前幸男・中村直子  
発掘調査作業員 石谷サチ子、岩戸エミ子、盛満アイ子、脇ツルエ

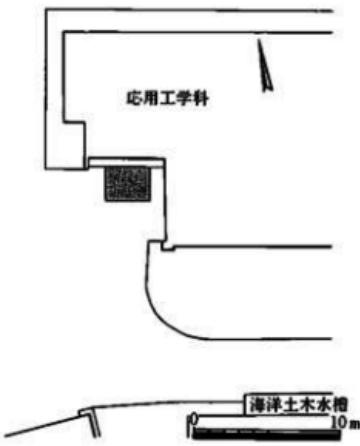
### 3. 調査の経過

調査にあたってはまず、建設予定地部分のアスファルトを重機により除去し、230cm×340cmのグリッドを設定した（第10図）。その後工事掘削深度である地表下140cmまで掘り下げを行い、調査を終了した。

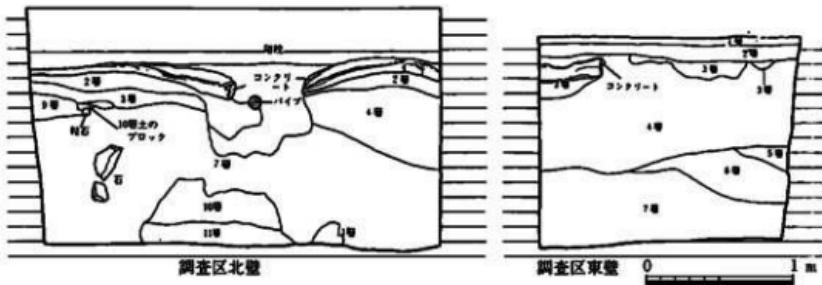
### 4. 層序（第11図）

本調査区における層序は以下のとおりである。

- 1層 アスファルト。
- 2層 暗緑灰色（7.5GY3/1）砂利層。
- 3層 暗灰黄色（2.5GY4/2）粗砂  
混じりシルト質層。炭、軽石、礫を含む。
- 4層 灰オリーブ色（5Y5/3）砂層。
- 5層 オリーブ色（5Y5/4）砂層。  
軽石、小礫を含む。



第10図 調査地点位置図 S=1/400



第11図 層位断面図 S=1/40

- 6層 オリーブ黒色(5Y3/2)砂混じりシルト質層。貝殻を多く含む。
  - 7層 4層土を基調に6層土をブロック状に含む。
  - 8層 4・5・6層土の混土 パイプ埋設時の擾乱。
  - 9層 黒色(10YR10/1)粘質土と10層土との混土層。
  - 10層 灰オリーブ色(5Y5/2)砂質シルト層。粒子細かく、マンガン粒を含みしまりがよい。
  - 11層 オリーブ黄色(5Y6/3)砂質シルト層。粒子細かく、マンガン粒を含みしまりがよい。
- なお、これらの層のうち、1から9層まではすべて客土または擾乱層で、プライマリーな層は10層・11層のみであった。遺物の出土はなかった。

## 5.まとめ

本調査地点においては校舎に隣接していたということ、また、配水管が調査区の中央を通っていたということなどから、土層が擾乱されており、プライマリーな層は最下部の10・11層において確認されたのみで、遺物・遺構等は検出されなかった。10・11層はマンガン粒を含むことや、周辺で確認している水田層と色調、土質等が似ていることから、同じく水田層ではないかと思われる。

## 註

- 1) 鹿児島大学法文学部考古学研究室「神川堤第1地点遺跡」鹿児島大学工学部・鹿児島大学法文学部考古学研究室 1985年
- 2) 「付録II、鹿児島大学郡元団地H-11・12区(工学部情報工学科校舎建設予定地)における発掘調査報告」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報V』鹿児島大学埋蔵文化財調査室 1992年

## 第3章 郡元団地L-11・12区（稻盛ホール建設予定地）における試掘調査

### 1. 調査にいたる経過

鹿児島大学では、京セラ株式会社の寄付による稻盛ホール（仮称）の建設が計画されており、その建設地として工学部の南西隅、事務棟の西側が予定地とされた。本地点の北西約60mの地点では昭和58年に発掘調査が行われ<sup>1)</sup>、古墳時代から奈良時代にかけての水田などが検出され、該期の遺物も出土している。このため、鹿児島大学埋蔵文化財調査室では、本建設予定地における試掘調査を行い、埋蔵文化財包蔵の有無を確認することになった。

### 2. 調査体制

本試掘調査は平成4年10月20日から30日にかけて、下記の体制で行われた。

調査主体者 鹿児島大学埋蔵文化財調査室室長 上村俊雄

調査担当 鹿児島大学埋蔵文化財調査室

室長 上村俊雄

室員 大西智和・黒木綾子

発掘調査作業員 増溝ミエ子・請園アキラ・請園アキエ・西村チエ子・諏訪田フサエ

### 3 調査の経過

試掘トレンチは以前に建物があった場所を避け、第12図のように南北1m、東西5mのトレンチを2カ所設定した。東側のトレンチをNo.1トレンチ、西側のトレンチをNo.2トレンチと呼ぶことにする。

No.1トレンチは、地表から約1.5mの地点で、数個のピットを検出した。その後トレンチ東側を1m×1mの範囲で掘り下げた。その結果約1.5mの厚さで泥炭層が堆積していることがわかった。泥炭層の下には粗砂が堆積していたが、30cmほど掘り下げを止めた。

No.2トレンチは地表から約1.7mまで掘り下げた。この層の上面で足跡状の造構らしきものを検出した。

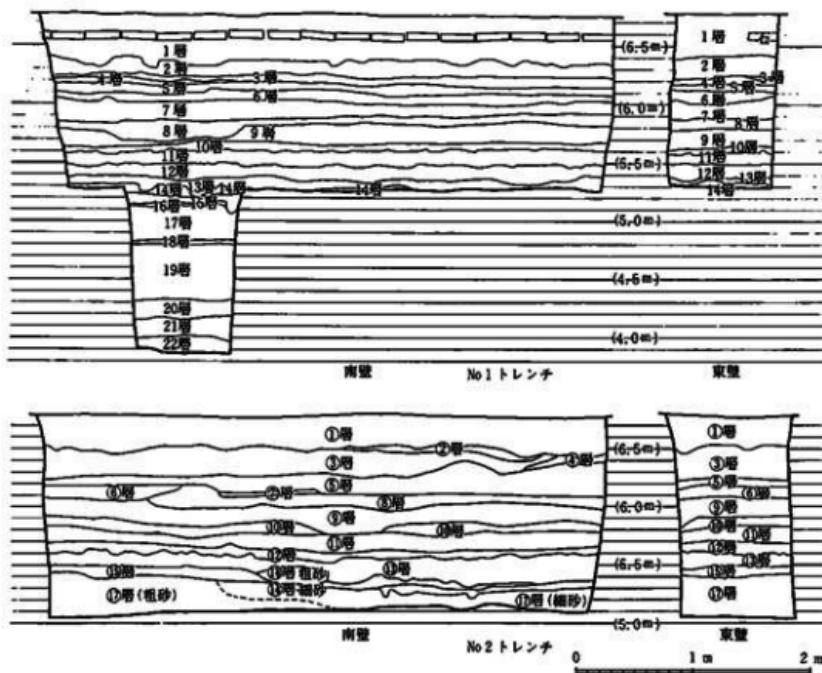
No.1・No.2トレンチの発掘終了状況の写真撮影後、No.1トレンチ造構平面図、両トレンチの層位断面図を作成し、埋め戻しを行って作業を終了した。



#### 4 層位

No.1 トレンチの層序は以下のとおりである(第13図)。

- 1層 表土として1層にまとめたが、上から火山灰、シラス、石疊、火山灰、シラス、擾乱土層に分けることができる。
- 2層 にぶい黄褐色(10YR5/3)(細)砂質土層。
- 3層 にぶい赤褐色(5YR4/3)(細)砂質土層。
- 4層 褐色(7.5YR4/3)(細)砂質土層。
- 5層 褐色(10YR4/4)(細)砂質土層。
- 6層 灰黄褐色(10YR5/2)(細)砂質土層。
- 7層 にぶい黄褐色(10YR4/3)(細)砂質土層。
- 8層 暗褐色(10YR3/3)(細)砂質土層。
- 9層 灰褐色(7.5YR4/2)(細)砂質土層。
- 10層 褐灰色(10YR4/1)(細)砂質土層。
- 11層 黄灰色(2.5Y4/1)(細)砂質土層。



第13図 層位断面図 S = 1/50

- 12層 暗灰黄色 (2.5Y4/2) (細) 砂質土層。
- 13層 黒褐色 (10YR4/1) 粘質 (細) 砂質土層。
- 14層 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 細砂層。
- 15層 灰黄色 (2.5Y6/2) 粗砂層。
- 16層 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 細砂層。
- 17層 黑色 (7.5YR2/1) 粘質泥炭層。
- 18層 暗褐色 (7.5YR3/3) 粘質泥炭層。
- 19層 黑色 (Value 1.5/) 粘質泥炭層。
- 20層 黑褐色 (7.5YR2/2) 粘質泥炭層。
- 21層 黑褐色 (5YR3/1) 粗砂層。植物の繊維を多く含み、木の破片なども見られる。松毬が1点出土している。
- 22層 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 粗砂層。植物繊維が見られる。

No. 2 トレンチの層序は以下のとおりである。

①層 表土として1層にまとめたが、上から火山灰、擾乱土層に分けることができる。

②層 褐色 (10YR4/6) (細) 砂質土層。

③層 にぶい黄褐色 (10YR5/3) (細) 砂質土層。

④層 赤褐色 (5YR4/6) (細) 砂質土層。

⑤層 褐色 (10YR4/4) (細) 砂質土層。

⑥層 灰黄褐色 (10YR5/2) (細) 砂質土層。

⑦層 褐色 (7.5YR4/6) (細) 砂質土層。

⑧層 にぶい黄褐色 (10YR4/3) (細) 砂質土層。

⑨層 暗褐色 (10YR3/3) (細) 砂質土層。

⑩層 灰黄褐色 (10YR4/2) (細) 砂質土層。

⑪層 灰褐色 (7.5YR4/2) (細) 砂質土層。

⑫層 褐灰色 (5YR4/1) 粘質 (細) 砂質土層。

⑬層 黄灰色 (2.5Y4/1) (細) 砂質土層。

⑭層 褐灰色 (7.5YR5/1) 粗砂層で、部分により鉄分が沈着している。

⑮層 黄灰色 (2.5Y4/1) 粘質土層。

⑯層 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 粗砂層で、軽石を含む。

⑰層 灰黄色 (2.5Y6/2) 粗砂および暗灰黄色 (2.5Y5/2) 細砂層。

⑱層 黑色 (7.5YR2/1) 粘質泥炭層。

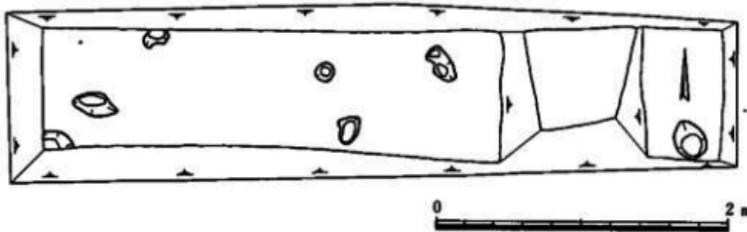
なお、No. 1 トレンチとNo. 2 トレンチの層の対応関係は表2のようになると考へられる。

表2 層の対応

No. 1 トレンチ	No. 2 トレンチ	備考
2	③	
3	④	
5	⑤	
6	⑥	
7	⑦	
8	⑨	
9	⑩・⑪	同一層
10	⑫	
11	⑬	
12・13	⑭	
14	⑮	同一層
17	⑯	同一層

## 5 造構 (第14図)

No. 1 トレンチ14層上面でピットが7基検出された。ピットの埋土は13層と同じである。このため



第14図 No. 1 トレンチ遺構平面図 S = 1/40

自然に埋没した可能性が高いと考えられる。

これらのビットの配置はランダムであり、また、形も不整形のものが多く、いずれも非常に浅い。このことから、これらの遺構の性格については、なお検討が必要である。

No. 2 トレンチでも、No. 1 トレンチで遺構が検出された14層に相当する⑩層で遺構の確認を行ったが検出することはできなかった。そして、東半分では⑩層ではなく、河川の氾濫に起因するとと思われる砂層が確認された。その堆積の状況ありかたから川の存在を想定し、砂層を掘り下げた。しかし、川は検出されなかったため、No. 1 トレンチで黒色泥炭層が検出された層（17層、No. 2 トレンチでは⑩層）で掘り進めるのを止めた。この層の上面からは多数の小さな穴が検出され、それらのいくつかは足跡状の形を呈している。しかし、それらは雑然としておりサイズのばらつきも大きいため、足跡であるのかどうかの決定にはいっそうの検討が必要である。

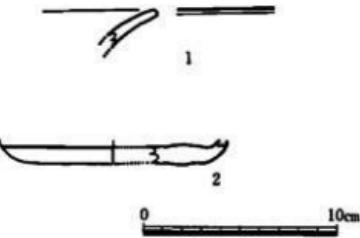
#### 6 遺物（第15図）

No. 1 トレンチの7・8・9・14層、No. 2 トレンチの①・③・⑤・⑧・⑨・⑩から若干の遺物が出土している。いずれも小破片で摩滅の激しいものもあるため、二次的な移動を受けていると考えられる。出土遺物は素焼土器と陶磁器などである。上層では素焼土器に加え陶磁器の出土が多いが、下層からの陶磁器の出土は少ない。

1は須恵器の小破片で、壺の口縁と考えられる。やや湾曲しながら外反し、口唇部は丸くおさめる。残存部分の調整はすべて横方向のナデである。胎土には砂粒などはほとんど含まれず、色調は灰色（5Y5/1）を呈する。

2は土師器の皿である。内面調整は（回転）ナデであり、外面調整は摩滅のため不明である。底部径を9.6cmに復元したが、残存部分が少ないと認め多少の誤差があると考えられる。胎土には1辺1～2mmの砂粒を含み、色調は橙色（5YR6/6・5YR7/8）を呈する。

1・2はともにNo. 2 トレンチ⑩層からの出土である。



第15図 出土遺物 S = 1/3

## 7 まとめ

今回の試掘調査では、水田層や泥炭の厚い層を確認することができた。この層位は昭和58年に行われた神川堤第一地点遺跡と同様の所見であるといえる。No.1 トレンチ14層上面ではピットを、No.2 トレンチでは泥炭層の上面で足跡状の遺構を検出した。今回の限られた範囲の発掘ではピットの性格および足跡かどうかの結論を下すことはできなかった。

泥炭層の上には砂がかなり厚く堆積しており、それは河川の氾濫によるものと考えられる。今回の調査ではこの砂層からの出土遺物はなかったが、もし見つかれば、その氾濫がいつ頃であったのかを知ることができる。また、本地点では泥炭層が厚さ1.5mにもわたって形成されていることがわかった。泥炭層中から遺物の出土はなかったため、遺物によってその形成時期を知ることはできないが、自然科学的手法を用いることにより知ることは可能であろう。泥炭層は鹿児島大学構内遺跡郡元団地で普遍的に検出されるわけではない。そのため、その範囲を把握することは、古環境を知る上でも重要である。

遺構などが検出され、また遺物の出土もあることから、改めて本調査を実施することが必要であると判断される。

## 註

- 1) 鹿児島大学法文学部考古学研究室「神川堤第一地点遺跡」鹿児島大学工学部・鹿児島大学法文学部考古学研究室 1985年

## 第4章 平成4年度（平成4年4月～12月）立合調査

平成4年4月から12月にかけては、下記の工事にともない立合調査を実施した。

- ・鹿児島大学QTNet回線引き込み工事（平成4年9月2日、H-9・L-10区）
- ・附属図書館南側自転車置き場移設工事（平成4年12月17・18日、L-6・K-8、9区）
- ・附属図書館南側樹木移植及び撤去工事（平成4年12月17・18日、L-6・K-4区）

### 鹿児島大学QTNet回線引き込み工事に伴う立合調査（第16・17図）

QTNet回線の引き込み工事のため、電算気質の南側（第16図）と廃液処理室の北側（第17図）の掘削工事の立合調査を行った。掘削は電算機室の建物に沿って東西に幅60cm、地表下80cm、道路に沿って南北に幅35cm、地表下55cm、また、マンホール部分では地表下110cmにわたって行ったが、いずれも既掘部または盛土で、埋蔵文化財への影響はなかった。

第16図

廃液処理室の北側については、幅70cm、地表下120cmにわたって掘削を行ったが、既掘部で埋蔵文化財への影響はなかった。

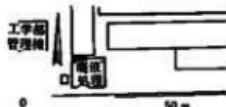


鹿児島大学QTNet回線引き込み工事に伴う立合調査地点位置図(1) S=1/2,000

### 附属図書館南側自転車置き場移設工事に伴う立合調査（第18図A～C）

附属図書館南側の自転車置き場を移設するため、自転車置き場の撤去に伴う掘削工事（A地点）と移設する教養部自然棟北側（B・C地点）の立合調査を行った。A地点は地表面から約10cmの掘削に留まり、埋蔵文化財包含層への影響はみられなかった。

B・C地点は、約1.0×1.5mの方形の支柱部分をそれぞれ3カ所ずつの掘削を行っている。いずれも地表面から80cmの深度に及んでいる。掘削は擾乱層で留まつたが、その底面に明茶褐色のシルト質砂層が露出し、これ以下に存在するプライマリーな層を確認した。



第17図 鹿児島大学QTNet回線引き込み工事に伴う立合調査地点位置図(2) S=1/2,000

### 附属図書館南側樹木移植及び撤去工事に伴う立合調査（第18図D～F）

附属図書館南側の樹木（D地点）を教養部南側（E地点）と北側（F地点）に移植する工事にともない、立合調査を実施した。A地点は樹木の周りを径3mにわたって2カ所掘削を行った。深度は地表面から120cmに及んだが、もともと盛土の地点であったため、埋蔵文化財包含層への影響はみられなかった。

E地点は220cm四方の方形の範囲を2カ所掘削した。この地点からは以下のようないわゆる土層が観察できた。

1層 摰乱層（層厚30cm）。

2層 灰色シルト質砂層（層厚15cm）。

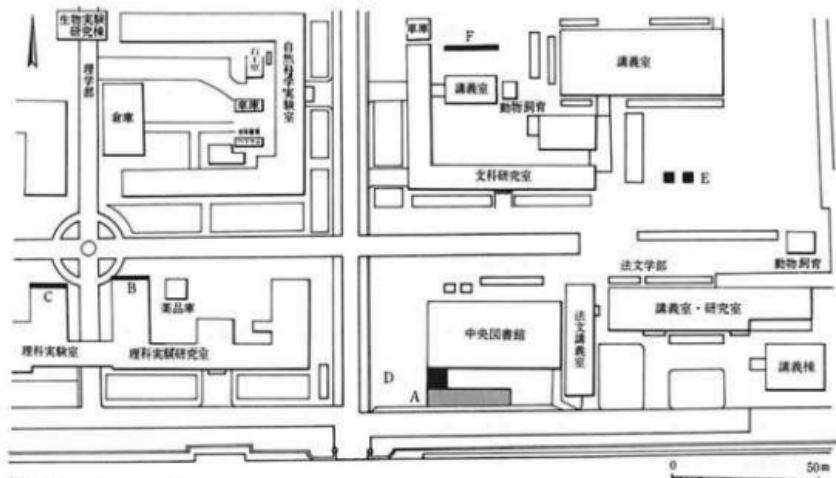
3層 2層と色調、土質とも似ているが、若干マンガンを含む（層厚15cm）。

4層 灰褐色砂混じりシルト質砂層、硬くしまっており、鉄分が浸透している（層厚20cm）。

5層 黒褐色砂質シルト層（層厚20cm）。

この地点の北側の教養部講義棟増築地の発掘調査（釣田第1地点<sup>1)</sup>）の際、古墳時代の遺物包含層と住居跡などの遺構が確認されている。5層からは古墳時代の遺物が出土しており、その密度も他の地点に比べて高く、釣田第1地点で確認された包含層と同一層であろうと考えられる。

F地点は幅50cm、地表下50cmまでの掘削であったが、攪乱層中で留まり、埋蔵文化財包含層への影響はなかった。



第18図 中央図書館南側自転車置き場移設・樹木移植及び撤去工事に伴う立合調査位置図 S=1/2,000

## 註

1) 「付編釣田第一地点（鹿児島大学教養部）遺跡発掘調査報告－遺構及び遺構出土遺物－」『南九州地域における原始・古代文化の諸様相に関する総合的研究』鹿児島大学法文学部 1992年

# 鹿児島大学構内遺跡調査要項

## ・鹿児島大学埋蔵文化財対策委員会規則

### (設置)

第1条 本学に、鹿児島大学埋蔵文化財対策委員会（以下「委員会」という。）を置く。

### (審議)

第2条 委員会は、本学の施設計画を円滑に行なうため埋蔵文化財に関する次の事項を審議する。

(1) 基本計画の策定に関すること。

(2) 調査結果に基づく対策に関すること。

### (組織)

第3条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

(1) 学長

(2) 各学部長、教養部長、附属図書館長、医学部附属病院長及び歯学部附属病院長

(3) 事務局長

(4) 学生部長

### (委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、学長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

### (議事)

第5条 委員会は、委員の3分の2以上の出席をもって成立し、議事は出席委員の3分の2以上をもって決する。

### (委員以外の者の出席)

第6条 委員会が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、意見を聞くことが出来る。

### (調査委員会)

第7条 委員会は、本学の埋蔵文化財の調査を行なうため、埋蔵文化財調査委員会（以下「調査委員会」という。）を置く。

第8条 調査委員会は次の事項を審議する。

(1) 調査実施計画に関すること。

(2) 第13条に規定する調査室の室長等の選任に関すること。

(3) 第13条に規定する調査室の予算に関すること。

(4) その他埋蔵文化財及び第13条に規定する調査室の業務に関すること。

第9条 調査委員会は、次に掲げる委員をもって組織し、学長が任命する。

(1) 各学部及び教養部の教授、助教授、講師の中から選任された者各1名

(2) 第15条2項に規定する調査室長

2 前項第1号の委員の任期は2年とし、委員に欠員を生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

第10条 調査委員会に委員長を置き、前項第1項第1号の委員の中から互選により選出する。

2 委員長は委員会を招集し、その議長となる。

第11条 調査委員会は、委員の過半数の出席をもって成立し、議事は、出席委員の過半数をもって決する。

第12条 調査委員会が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、意見を聞くことができる。

#### (調査室)

第13条 調査委員会に、本学の埋蔵文化財の調査に関する業務を行なうための埋蔵文化財調査室（以下「調査室」という。）を置く。

第14条 調査室は、次の業務を行なう。

- (1) 調査実施計画の立案
- (2) 発掘調査、分布調査及び確認調査
- (3) 調査報告書の作成
- (4) その他必要な事項

第15条 調査室に、室長、主任及びその他必要な職員を置く。

2 室長は、本学の考古学に関する教官の中から委員会が推薦し、学長が任命する。

3 室長は、調査委員会の定める方針に基づき調査室の業務を掌理する。

4 室長の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

5 主任は、調査室の職員の中から、特に埋蔵文化財に関する専門知識を有する者を調査委員会が推薦し、学長が任命する。

6 主任は、室長の命を受けて調査室の業務を処理する。

7 職員は、調査室の業務に従事する。

#### (その他)

第16条 埋蔵文化財に関する事務は、事務局施設部において行なう。

### 付 則

1 この規則は、昭和60年4月18日から施行する。

2 この規則の施行後最初に任命される委員及び室長の任期は、第9条第2項及び第15条第4項の規定にかかわらず、昭和62年3月31日までとする。

3 鹿児島大学埋蔵文化財対策委員会規則（昭和51年1月22日制定）は、廃止する。

・鹿児島大学埋蔵文化財対策委員会委員（平成4年4月1日現在）

委員長 井形 昭弘（鹿児島大学学長）

委員 中村 雅磨（法文学部長） 伊牟田 紹久（教育学部長）

佐竹 嶽（理学部長） 福田 健夫（医学部長）

小片 丘彦（農学部長）	宮内 德之（工学部長）
大塚 関一（農学部長）	日高 富男（水産学部長）
田川日出夫（教養部長）	河原田體次郎（連合農学研究科長）
大山 勝（医学部附属病院長）	石丸 九應（附属図書館長）
辰村 吉康（学生部長）	川越 昌宜（歯学部附属病院長）
川崎仁一郎（事務局長）	

・鹿児島大学埋蔵文化財調査委員会委員（平成4年4月1日現在）

委員長 安藤 保（教育学部教授）	立野 洋人（理学部助教授）
委員 原口 泉（法文学部助教授）	小椋 正（歯学部教授）
秋山 伸一（医学部教授）	西中川 駿（農学部助教授）
徳廣 育夫（工学部教授）	新田 栄治（教養部助教授）
尾上 義夫（水産学部教授）	
上村 俊雄（調査室長併任 法文学部教授）	

・鹿児島大学埋蔵文化財調査室（平成4年4月1日現在）

室長（併） 法文学部教授 上村 俊雄	
主任（併） 法文学部助手 中村 直子	
（併） 法文学部助手 大西 智和	
技術補佐員 黒木 純子	
技術補佐員 前 幸男	

## 受贈図書目録(1992年1月1日~1993年1月31日)

書名	発行機関	発行年
<b>単行本</b>		
釧路市立博物館50年史	釧路市立博物館	1991年
釧路市立博物館収蔵資料目録(XII)歴史資料目	釧路市立博物館	1992年
<b>録(2)</b>		
津久井町三ヶ木遺跡調査の概要	神奈川県立埋蔵文化財センター	1992年
かながわの考古学 第2集 神奈川県下における集落変遷の分析	神奈川県立埋蔵文化財センター	1992年
向原遺跡の調査	神奈川県立埋蔵文化財センター	1992年
いま信濃の歴史はよみがえる~10年の成果と歩み	長野県・長野県教育委員会・財団法人長野県文化財センター	1992年
財団法人成立10周年記念誌~	県文化財センター	
戸山屋敷調跡考	名古屋市博物館	1992年
『瓦跡舎』	名古屋市博物館	1992年
10年のあゆみ(1981→1991)	御京都府埋蔵文化財調査研究センター	1992年
第6回泉州の遺跡~平成2年度発掘成果展~	御大阪府埋蔵文化財協会	1991年
日根荘総合調査が語るもの	御大阪府埋蔵文化財協会	1991年
第7回泉州の遺跡~平成3年度の調査成果から~	御大阪府埋蔵文化財協会	1992年
大阪府下埋蔵文化財研究所(第21回)資料	御大阪文化財センター	1990年
やおの埋蔵文化財	御八尾市文化財調査研究会	1992年
10周年記念特別展示図録~八尾を語る~10年の歩み	御八尾市文化財調査研究会	1992年
荒神谷遺跡の謎を解く ブックレット③	藤川郡斐川町教育委員会	1991年
荒神谷遺跡と神話 荒神谷遺跡をたずねて ブックレット④	藤川郡斐川町教育委員会	1992年
「明王院」展示図録	広島県立歴史博物館	1991年
「広島県の重要文化財!」展示図録	広島県立歴史博物館	1992年
古代社会を探る	北筑後文化財行政連絡協議会	1992年
塙田のやきもの 志田焼展	塙田町歴史民俗資料館	1991年
塙田のやきもの 第2回特別展	塙田町歴史民俗資料館	1991年
八代市史 第1巻	八代市教育委員会	1992年
松井文庫の精華~その歴史と美術~	八代市立博物館未来の森ミュージアム	1991年
第10回特別展示図録「九州の土人形~その歴史と世界~」	大分市歴史資料館	1991年
琉球王国~大交易時代とグスク~	沖縄県立博物館	1992年
辺境の民話	統谷村教育委員会・歴史民俗資料館	1992年

## 定期刊行物・雑誌・冊子

調査年報4 平成3年度	北海道埋蔵文化財センター	1991年
釧路市立博物館館報 №330	釧路市立博物館	1991年
釧路市立博物館館報 №331	釧路市立博物館	1991年
釧路市立博物館館報 №332	釧路市立博物館	1991年
釧路市立博物館館報 №333	釧路市立博物館	1992年
釧路市立博物館館報 №334	釧路市立博物館	1992年
釧路市立博物館館報 №335	釧路市立博物館	1992年
釧路市立博物館館報 №336	釧路市立博物館	1992年
釧路市立博物館紀要 第17輯 とまこまい埋文だより №27	釧路市立博物館	1992年
起用 XII	苦小牧市埋蔵文化財調査センター	1992年
東北大埋蔵文化財調査年報4・5	鰐岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	1992年
年報11 平成3年度	東北大埋蔵文化財調査委員会	1992年
研究ノート 创刊号	師走城県教育財団	1992年
歴史人類 第20号	師走城県教育財団	1992年
平成元年度 市立市川考古博物館年報 第18号 考古・歴史博物館ニュース ほりのうち №14	筑波大学歴史・人類学系	1992年
平成2年度 市立市川考古博物館年報 第19号 考古・歴史博物館ニュース ほりのうち №15	市立市川考古・歴史博物館	1990年
千葉県立房総風土記の丘年報14	市立市川考古・歴史博物館	1991年
天然記念物秘話診断報告書(第2報)	市立市川考古・歴史博物館	1991年
神奈川県立埋蔵文化財センター年報10	市立市川考古・歴史博物館	1991年
神奈川県立埋蔵文化財センター年報11	市立市川考古・歴史博物館	1992年
長野県埋蔵文化財ニュース№33	千葉県立房総風土記の丘	1991年
長野県埋蔵文化財ニュース№34	神奈川県教育委員会文化財保護課	1992年
長野県埋蔵文化財センター年報 8	神奈川県立埋蔵文化財センター	1991年
金沢大学資料館だより 第3号	神奈川県立埋蔵文化財センター	1992年
金大考古 第19号	師走長野県埋蔵文化財センター	1991年
ふくいミュージアム№21	師走長野県埋蔵文化財センター	1992年
文化財保護センターだより きずな第3号	師走長野県埋蔵文化財センター	1992年
文化財保護センターだより きずな第4号	金沢大学資料館	1992年
名古屋市博物館 研究紀要第15巻	金沢大学文学部考古学研究室	1991年
名古屋市博物館だより 第85号	福井県立博物館	1992年
名古屋市博物館だより 第86号	師走岐阜県文化財保護センター	1992年
名古屋市博物館だより 第87号	師走岐阜県文化財保護センター	1992年
名古屋市博物館だより 第88号	名古屋市博物館	1992年
滋賀埋文ニュース第141号	名古屋市博物館	1992年
滋賀埋文ニュース第142号	名古屋市博物館	1992年
	滋賀県埋蔵文化財センター	1991年
	滋賀県埋蔵文化財センター	1992年

滋賀埋文ニュース第143号	滋賀県埋蔵文化財センター	1992年
滋賀埋文ニュース第144号	滋賀県埋蔵文化財センター	1992年
滋賀埋文ニュース第145号	滋賀県埋蔵文化財センター	1992年
滋賀埋文ニュース第146号	滋賀県埋蔵文化財センター	1992年
滋賀埋文ニュース第147号	滋賀県埋蔵文化財センター	1992年
滋賀埋文ニュース第148号	滋賀県埋蔵文化財センター	1992年
滋賀埋文ニュース第149号	滋賀県埋蔵文化財センター	1992年
滋賀埋文ニュース第150号	滋賀県埋蔵文化財センター	1992年
滋賀埋文ニュース第151号	滋賀県埋蔵文化財センター	1992年
滋賀埋文ニュース第152号	滋賀県埋蔵文化財センター	1992年
滋賀埋文ニュース第153号	滋賀県埋蔵文化財センター	1992年
京都府埋蔵文化財情報 第42号	⑩京都府埋蔵文化財調査研究センター	1991年
京都府埋蔵文化財情報 第43号	⑩京都府埋蔵文化財調査研究センター	1992年
京都府埋蔵文化財情報 第44号	⑩京都府埋蔵文化財調査研究センター	1992年
京都府埋蔵文化財情報 第45号	⑩京都府埋蔵文化財調査研究センター	1992年
京都大学構内遺跡調査研究年報 1988年度	京都大学埋蔵文化財研究センター	1992年
大阪市文化財情報 草火 36号	⑩大阪市文化財協会	1992年
大阪市文化財情報 草火 37号	⑩大阪市文化財協会	1992年
大阪市文化財情報 草火 38号	⑩大阪市文化財協会	1992年
大阪市文化財情報 草火 39号	⑩大阪市文化財協会	1992年
大阪市文化財情報 草火 40号	⑩大阪市文化財協会	1992年
大阪市文化財情報 草火 41号	⑩大阪市文化財協会	1992年
⑩大阪府埋蔵文化財協会 研究紀要	⑩大阪府埋蔵文化財協会	1988年
⑩大阪府文化財センター通信№4・5	⑩大阪文化財センター	1990年
大佐文化財研究 第2号	⑩大阪文化財センター	1991年
東大阪市文化財協会ニュース Vol. 5. №4	⑩東大阪市文化財協会	1992年
枚方市文化財研究調査会 研究紀要 第2集	⑩枚方市文化財研究調査会	1992年
ひらかた文化財だより 第10号	⑩枚方市文化財研究調査会	1992年
枚方市文化財年報 11 (1989年度)	⑩枚方市文化財研究調査会	1992年
ひらかた文化財だより 第11号	⑩枚方市文化財研究調査会	1992年
ひらかた文化財だより 第12号	⑩枚方市文化財研究調査会	1992年
枚方市文化財年報 12 (1990年度分)	⑩枚方市文化財研究調査会	1992年
遺跡ガイド5 新池遺跡	高槻市教育委員会	1991年
遺跡ガイド6 塚原古墳群	高槻市教育委員会	1991年
遺跡ガイド7 群家今城遺跡	高槻市教育委員会	1991年
遺跡ガイド8 宮田遺跡	高槻市教育委員会	1991年
高槻市文化財年報 平成2年度	高槻市教育委員会	1992年
城郭研究室年報 Vol. 1	堺路市立城郭研究室	1992年
奈良市埋蔵文化寺阿調査センター紀要 1991	奈良市教育委員会	1992年
文化財学報 第七集	奈良大学文学部文化財学科	1989年

文化財学報 第八集	奈良大学文学部文化財学科	1990年
文化財学報 第九集	奈良大学文学部文化財学科	1991年
文化財学報 第十集	奈良大学文学部文化財学科	1992年
岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第6号	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター	1991年
岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第7号	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター	1992年
岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第8号	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター	1992年
岡山大学構内遺跡調査研究年報 8	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター	1991年
岡山大学構内遺跡調査研究年報 9	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター	1992年
岡山理科大学蔵山研究所 研究報告 第17号	岡山理科大学蔵山研究所	1991年
広島県草戸千軒町追跡調査研究所年報 1990 草戸	広島県草戸千軒町追跡調査研究所	1991年
千軒町追跡 - 第44・45次発掘調査概要 -		
広島県立歴史博物館ニュース 第9号	広島県立博物館	1992年
広島県立歴史博物館ニュース 第10号	広島県立博物館	1992年
広島県立歴史博物館ニュース 第11号	広島県立歴史博物館	1992年
広島県立歴史博物館ニュース 第12号	広島県立歴史博物館	1992年
広島県立歴史博物館ニュース 第13号	広島県立歴史博物館	1993年
麗風ニュース 第2号	広島県立歴史民俗資料館	1991年
麗風ニュース 第3号	広島県立歴史民俗資料館	1992年
麗風ニュース 第4号	広島県立歴史民俗資料館	1992年
広島大学統合移転地埋蔵文化財発掘調査年報 V	広島大学統合移転地埋蔵文化財調査委員会	1992年
山口大学構内遺跡調査研究年報 X	山口大学埋蔵文化財資料館	1992年
山口大学埋蔵文化財資料館だより №14	山口大学埋蔵文化財資料館	1991年
山口大学埋蔵文化財資料館だより №15	山口大学埋蔵文化財資料館	1991年
山口大学埋蔵文化財資料館だより №16	山口大学埋蔵文化財資料館	1992年
山口大学埋蔵文化財資料館だより №17	山口大学埋蔵文化財資料館	1992年
松山市埋蔵文化財調査年報 IV	御松山市生涯学習振興財團埋蔵文化財センター	1992年
松山市埋蔵文化財調査年報 III	松山市教育委員会 松山市立埋蔵文化財センター	1991年
九州文化史研究所紀要 第37号【比較考古学部門 関係抜刷集】	九州大学文学部九州文化史研究施設	1992年
佐世保市博物館 島瀬美術センターだより №26	島瀬美術センター	1992年
大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館ニュース №27	大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館	1992年
大分市埋蔵文化財調査年報 1 - 平成元年度 -	大分市教育委員会	1990年
大分市歴史資料館ニュース №16	大分市歴史資料館	1991年
大分市歴史資料館ニュース №17	大分市歴史資料館	1991年
大分市歴史資料館ニュース №18	大分市歴史資料館	1992年
大分市歴史資料館年報 1991	大分市歴史資料館	1992年
別府大学付属博物館だより №35	別府大学付属博物館	1991年
別府大学付属博物館だより №36	別府大学付属博物館	1992年

別府大学付属博物館だより №37	別府大学付属博物館	1992年
別府大学付属博物館だより №38	別府大学付属博物館	1992年
阿中考古 第3号	阿中考古同人	1992年
鹿児島考古学会報 第11・12合併号	鹿児島大学考古学会	1991年
鹿児島大学情報処理センター 広報 1992 Vol.5	鹿児島大学情報処理センター	1992年
No.1		
南九州縄文通信 №5	南九州縄文研究会	1991年
南九州縄文通信 №6	南九州縄文研究会	1992年
鹿児島大学南科研資料センター報告 №47	南方科学研究資料センター	1991年
鹿児島大学南科研資料センター報告 №48	南方科学研究資料センター	1992年
鹿児島大学南科研資料センター報告 №49	南方科学研究資料センター	1992年
鹿児島大学南科研資料センター報告特別号第4号	南方科学研究資料センター	1992年
鹿児島大学南方科学研究委員会総合研究平成元・ 2年度 桜島		
沖縄県立博物館紀要 第18号	沖縄県立博物館	1992年
沖縄県立博物館年報 №25	沖縄県立博物館	1992年
統谷村立歴史民俗資料館紀要 第16号	統谷村教育委員会	1992年
統谷村立歴史民俗資料館紀要 第17号	統谷村立歴史民俗資料館	1992年
調査報告書		
田中跡跡発掘調査報告書	00岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	1991年
梅ノ木台地Ⅰ遺跡発掘調査報告書	00岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	1991年
細野Ⅱ遺跡発掘調査報告書	00岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	1992年
本宿遺跡発掘調査報告書	00岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	1992年
岩崎台地遺跡群発掘調査報告書	00岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	1992年
経塚長根・経塚森遺跡発掘調査報告書	00岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	1992年
細浦Ⅰ遺跡・細浦Ⅱ遺跡発掘調査報告書	00岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	1992年
上鬼柳Ⅱ・Ⅲ遺跡発掘調査報告書	00岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	1992年
上鬼柳Ⅳ遺跡発掘調査報告書	00岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	1992年
川向遺跡発掘調査報告書	00岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	1992年
徳丹城跡発掘調査報告書	00岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	1992年
ハツ長Ⅱ遺跡発掘調査報告書	00岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	1992年
昇始跡発掘調査報告書	00岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	1992年
本郷遺跡発掘調査報告書	00岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	1992年
林崎館遺跡発掘調査報告書	00岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	1992年
桝口Ⅰ遺跡発掘調査報告書	00岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	1992年
上八木田Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ遺跡発掘調査報告書	00岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	1992年
ヨナ川遺跡・大館遺跡・小館遺跡	00茨城県教育財團	1990年
鐵鬼塚・沢三木台遺跡	00茨城県教育財團	1990年
柴崎遺跡Ⅲ区	00茨城県教育財團	1992年
上ノ台遺跡・岡ノ内遺跡	00茨城県教育財團	1992年
東原遺跡・石伏南遺跡	00茨城県教育財團	1992年

柏木古墳群	御茨城県教育財団	1992年
裏山遺跡	御茨城県教育財団	1992年
沢田遺跡（上）	御茨城県教育財団	1992年
沢田遺跡（下）	御茨城県教育財団	1992年
當久保一里塚	土浦市教育委員会	1989年
茨城県指定遺跡 土浦城址発掘調査報告書	土浦市教育委員会	1989年
木田余台	土浦市教育委員会	1989年
木田余台Ⅰ	土浦市教育委員会	1991年
土浦市 八幡下遺跡発掘調査報告書	土浦市教育委員会	1991年
国指定遺跡 上高津貝塚の発掘	土浦市教育委員会	1992年
天神前遺跡	君津広域水道企業団・御君津都市文化財センター	1992年
 郡条里遺跡Ⅱ	 君津市・御君津都市文化財センター	 1992年
荒井子小学校校庭Ⅱ・Ⅲ遺跡発掘調査報告書	山武考古学研究所	1990年
前山Ⅱ遺跡発掘調査報告書	山武考古学研究所	1990年
大國塚2号墳	山武考古学研究所	1991年
高田城址発掘調査報告書	山武考古学研究所	1991年
長美代遺跡発掘調査報告書	山武考古学研究所	1992年
春穂遺跡発掘調査報告書	山武考古学研究所	1992年
立木遺跡発掘調査報告書	山武考古学研究所	1992年
小杉町小杉流通業務団地内No.1遺跡発掘調査報告書	山武考古学研究所	1992年
上台・大近平遺跡発掘調査報告書	山武考古学研究所	1992年
宮崎-14遺跡発掘調査報告書	山武考古学研究所	1992年
宮平遺跡発掘調査報告書	山武考古学研究所	1992年
市立市川考古博物館研究調査報告 第5巻 塚ノ内貝塚資料図譜	市立市川考古・歴史博物館	1992年
内裏塚古墳群	新日本製鐵株式会社・御君津都市文化財センター	1992年
下北原遺跡	千葉県木更津土地改良事務所・御君津都市文化財センター	1992年
小谷遺跡発掘調査報告書	中央技建工業株式会社・御君津都市文化財センター	1992年
四留作第2古墳群第1号墳 四留作第1号塚・第2号塚	内海産業株式会社・御君津都市文化財センター	1992年
富士見台遺跡Ⅲ	富沢産業株式会社・御君津都市文化財センター	1992年
小浜遺跡群-猿ヶ谷遺跡-	木更津市小浜土地区画整理組合・御君津都市文化財センター	1991年
請西遺跡群Ⅱ	木更津市請西第二土地区画整理組合・御君津都市文化財センター	1991年

越野 - 越野遺跡発掘調査報告書 -	学校法人帝京大学	1992年
湘南藤沢キャンパス内遺跡 第4巻 幼生時代～近世・近代	慶應義塾	1992年
湘南藤沢キャンパス内遺跡 第3巻 銀文時代Ⅱ部	慶應義塾	1992年
湘南藤沢キャンパス内遺跡 第2巻 岩宿時代・銅文時代	慶應義塾	1992年
文時代Ⅰ部		
神崎遺跡発掘調査報告書	岐阜市教育委員会・神崎遺跡発掘調査団	1992年
長竹遺跡	上柏屋厚木線発掘調査団	1992年
神奈川県埋蔵文化財調査報告34	神奈川県教育委員会	1992年
清川村宮ヶ瀬遺跡群 ナラサス・ナラサス北遺跡	神奈川県立埋蔵文化財センター	1991年
調査の概要		
上滑6丁目遺跡	神奈川県立埋蔵文化財センター	1992年
宮ヶ瀬遺跡群Ⅱ	神奈川県立埋蔵文化財センター	1991年
川尻遺跡	神奈川県立埋蔵文化財センター	1992年
向原遺跡Ⅱ	神奈川県立埋蔵文化財センター	1992年
三ヶ木遺跡	神奈川県立埋蔵文化財センター	1992年
大谷真鯨遺跡	大谷真鯨遺跡調査団	1992年
海老名本郷(四石)	富士ゼロックス株式会社・本郷遺跡調査団	1992年
下茂内遺跡	日本道路公团東京第二建設局・長野県教育委員会・財團法人長野県文化財センター	1992年
上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書3 - 大室古墳 -	日本道路公团名古屋建設局・長野県教育委員会・財團法人長野県文化財センター	1992年
古津八幡山古墳 I 1991年測量報告	新津市教育委員会	1992年
堂ヶ作山古墳 II 1991年発掘調査概報	堂ヶ作山古墳調査団・会津若松市教育委員会	1992年
宮下遺跡	御嶽県文化財保護センター	1992年
門坂シズマ遺跡	御嶽県文化財保護センター	1992年
小の原遺跡・戸入町子春遺跡	岐阜県教育委員会	1991年
史跡高山陣屋跡	岐阜県教育委員会・御嶽県文化財保護センター	1992年
城之内遺跡 II	岐阜県教育委員会・御嶽県文化財保護センター	1992年
川山遺跡発掘調査報告書	浜松市教育委員会	1991年
新庄城遺跡	滋賀県教育委員会・御滋賀県文化財保護協会	1991年
針江中遺跡・針江南遺跡	滋賀県教育委員会・御滋賀県文化財保護協会	1991年
針江北遺跡・針江北遺跡(1)(本文編)	滋賀県教育委員会・御滋賀県文化財保護協会	1992年
針江北遺跡・針江北遺跡(1)(図版編)	滋賀県教育委員会・御滋賀県文化財保護協会	1992年
唐橋遺跡(本文編)	滋賀県教育委員会・御滋賀県文化財保護協会	1992年
唐橋遺跡(図版編)	滋賀県教育委員会・御滋賀県文化財保護協会	1992年
般部遺跡発掘調査報告書 II (本文編)	滋賀県教育委員会・守山市教育委員会・御滋賀県文化財保護協会	1985年

服部遺跡発掘調査報告書Ⅱ（図版編）	滋賀県教育委員会・守山市教育委員会・鴨池 賀県文化財保護協会	1985年
野路小野山遺跡発掘調査報告書（本文編）	滋賀県教育委員会・草津市教育委員会・鴨池 賀県文化財保護協会	1990年
野路小野山遺跡発掘調査報告書（図版編）	滋賀県教育委員会・草津市教育委員会・鴨池 賀県文化財保護協会	1990年
京都市内遺跡試掘調査概報	京都市文化観光局	1992年
京都市内遺跡立合概報	京都市文化観光局	1992年
焼場谷炭窯跡発掘調査概報 平成3年度	京都市文化観光局	1992年
平安京跡発掘調査概報 平成3年度	京都市文化観光局	1992年
旧佐賀藩大阪倉屋敷船入造構調査報告	鴨大阪市文化財協会	1992年
長原・瓜破遺跡発掘調査報告Ⅰ	鴨大阪市文化財協会	1992年
長原・瓜破遺跡発掘調査報告Ⅱ	鴨大阪市文化財協会	1992年
長原遺跡発掘調査報告Ⅲ	鴨大阪市文化財協会	1992年
長原遺跡発掘調査報告Ⅳ	鴨大阪市文化財協会	1992年
難波宮址の研究 第九（本文）	鴨大阪市文化財協会	1992年
難波宮址の研究 第九（図面・図版）	鴨大阪市文化財協会	1992年
山之内遺跡B地区・山直北遺跡	鴨大阪府埋蔵文化財協会	1988年
上フジ遺跡	鴨大阪府埋蔵文化財協会	1988年
高向	鴨大阪府埋蔵文化財協会	1989年
遺跡福瀬遺跡	鴨大阪府埋蔵文化財協会	1989年
二俣池北遺跡・上フジ遺跡	鴨大阪府埋蔵文化財協会	1989年
三軒屋遺跡	鴨大阪府埋蔵文化財協会	1989年
貝ノ池遺跡	鴨大阪府埋蔵文化財協会	1990年
高向遺跡Ⅱ	鴨大阪府埋蔵文化財協会	1990年
山直中遺跡Ⅱ	鴨大阪府埋蔵文化財協会	1990年
小田遺跡	鴨大阪府埋蔵文化財協会	1990年
大場遺跡	鴨大阪府埋蔵文化財協会	1990年
福瀬遺跡Ⅱ	鴨大阪府埋蔵文化財協会	1990年
黒石遺跡	鴨大阪府埋蔵文化財協会	1990年
山ノ内遺跡Ⅱ 他（山ノ内・山直北・二俣池北遺 跡）	鴨大阪府埋蔵文化財協会	1990年
三ヶ山西遺跡	鴨大阪府埋蔵文化財協会	1991年
加治・神前・島中遺跡	鴨大阪府埋蔵文化財協会	1991年
池園遺跡Ⅱ	鴨大阪府埋蔵文化財協会	1991年
中間遺跡	鴨大阪府埋蔵文化財協会	1991年
母山遺跡	鴨大阪府埋蔵文化財協会	1991年
脇浜遺跡Ⅲ	鴨大阪府埋蔵文化財協会	1991年
日根荘とその周辺	鴨大阪府埋蔵文化財協会	1991年
太井遺跡（その4ほか）・日置荘遺跡（その1 - 2） - 調査の概要 -	鴨大阪文化財センター・大阪府教育委員会	1990年

西ノ辻遺跡第28・29次発掘調査報告	関東大阪市文化財協会	1991年
東大阪市下水道事業関係発掘調査概要報告Ⅰ	関東大阪市文化財協会	1991年
<b>-1990年度-</b>		
小阪台遺跡（本文編）	側八尾市文化財調査研究会	1991年
小阪台遺跡（図版編）	側八尾市文化財調査研究会	1991年
成法寺遺跡〈第1次調査～第4次調査・第6次調査報告書〉	側八尾市文化財調査研究会	1991年
八尾市埋蔵文化財発掘調査報告 1991年	側八尾市文化財調査研究会	1991年
平成3年度 側八尾市文化財調査研究会事業報告	側八尾市文化財調査研究会	1992年
鳩上遺跡群16	高槻市教育委員会	1992年
桜井谷窯跡群2-23号窯跡	大阪大学桜井谷窯跡群調査団	1991年
長法寺南原古墳の研究	大阪大学南原古墳調査団	1992年
雪野山古墳II-第2次・第3次発掘調査概報-	大阪大学文学部考古学研究室 大阪大学考古学友の会	1992年
陶邑・大庭寺遺跡-本文編-	大阪府教育委員会・側大阪府埋蔵文化財協会	1989年
陶邑・大庭寺遺跡-図版編-	大阪府教育委員会・側大阪府埋蔵文化財協会	1989年
平井遺跡II	大阪府教育委員会・側大阪府埋蔵文化財協会	1989年
池田寺遺跡II	大阪府教育委員会・側大阪府埋蔵文化財協会	1990年
唐国泉谷遺跡	大阪府教育委員会・側大阪府埋蔵文化財協会	1990年
陶邑・大庭寺遺跡II-本文編-	大阪府教育委員会・側大阪府埋蔵文化財協会	1990年
陶邑・大庭寺遺跡II-図版編-	大阪府教育委員会・側大阪府埋蔵文化財協会	1990年
陶邑・伏尾遺跡-A地区-（本文編）	大阪府教育委員会・側大阪府埋蔵文化財協会	1990年
陶邑・伏尾遺跡-A地区-（図版編）	大阪府教育委員会・側大阪府埋蔵文化財協会	1990年
池田寺遺跡III	大阪府教育委員会・側大阪府埋蔵文化財協会	1991年
平城京東市跡推定地の調査 X	奈良市教育委員会	1992年
奈良市埋蔵文化財調査概要報告書 平成3年度	奈良市教育委員会	1992年
上久々茂土居跡	島根県教育委員会	1992年
キタバタケ遺跡発掘調査報告書	邑智郡川本町教育委員会	1992年
尼子陣所跡発掘調査報告書	邑智郡大和村教育委員会	1992年
津島岡大遺跡 3	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター	1992年
祝谷アイリ遺跡	側松山市生涯学習振興財團・埋蔵文化財センター	1992年
来住・久米地区的遺跡	側松山市生涯学習振興財團・埋蔵文化財センター	1992年
桑原地区の遺跡 -本文編-	側松山市生涯学習振興財團・埋蔵文化財センター	1992年
桑原地区の遺跡 -図版編-	側松山市生涯学習振興財團・埋蔵文化財センター	1992年
文京遺跡-第2・3・5次遺跡-	側松山市生涯学習振興財團・埋蔵文化財センター	1992年

朝美輝造跡・辻町造跡	御松山市生涯学習振興財団・埋蔵文化財センター	1992年
道後城北造跡群	御松山市生涯学習振興財団・埋蔵文化財センター	1992年
南江戸闇目造跡	松山市教育委員会 松山市立埋蔵文化財センター	1991年
寺堀造跡	御松山市生涯学習振興財団・埋蔵文化財センター	1991年
北谷王神ノ木古墳・塚本古墳	松山市教育委員会 松山市立埋蔵文化財センター	1991年
来往庵寺	松山市教育委員会 松山市立埋蔵文化財センター	1991年
祝谷六丁場造跡－調査報告1－（本文編）	松山市教育委員会 松山市立埋蔵文化財センター	1991年
祝谷六丁場造跡－調査報告1－（図版編）	松山市教育委員会 松山市立埋蔵文化財センター	1991年
富久造跡調査報告書	苅田町教育委員会	1990年
松籬天廻神社古墳群	苅田町教育委員会	1988年
谷造跡調査報告書	苅田町教育委員会	1990年
松山古墳群調査報告書	苅田町教育委員会	1991年
谷造跡Ⅱ地区	苅田町教育委員会	1991年
豊前国松山城跡（土塁）	苅田町教育委員会	1991年
若久造跡	苅田町教育委員会	1992年
富久造跡Ⅱ地区	苅田町教育委員会	1992年
豊前国松山城跡	苅田町教育委員会	1992年
津古土取造跡	小郡市教育委員会	1992年
久里双水古墳確認調査概要報告	唐津市教育委員会	1992年
神田中村造跡	唐津市教育委員会	1992年
中尾二ツ枝(2)	唐津市教育委員会	1992年
唐津市内造跡確認調査(7)	唐津市教育委員会	1992年
土井の浦古窯跡	大村市教育委員会	1991年
竹ノ内造跡	宇佐郡安心院町教育委員会	1991年
上野造跡	大分市教育委員会	1991年
下郡造跡群	大分市教育委員会	1991年
田代ヶ八重造跡	宮崎県教育委員会	1992年
天ヶ谷造跡	西諸県郡野尻町教育委員会	1992年
鳥越古墳群	阿久根市教育委員会	1992年
竹牟礼造跡・瀬生城二ノ丸跡	姶良郡瀬生町教育委員会	1992年
赤松ヶ入野造跡	姶良郡霧島町教育委員会	1992年
一寸原造跡・千河原造跡	加世田市教育委員会	1992年
飯治屋馬場造跡・亀ノ里造跡	国分市教育委員会	1989年

国府（小路）遺跡	國分市教育委員会	1990年
鶴ノ里遺跡	國分市教育委員会	1990年
奄美地区埋蔵文化財分布調査報告書Ⅲ	鹿児島県教育委員会	1991年
鹿児島城二之丸跡（造摺編）	鹿児島県教育委員会	1991年
春田遺跡・石塚遺跡・坂ノ下遺跡	鹿児島県教育委員会	1991年
平松原遺跡	鹿児島県教育委員会	1991年
極崎A遺跡	鹿児島県教育委員会	1992年
鹿児島城二之丸跡（造物編）	鹿児島県教育委員会	1992年
新番所後Ⅱ遺跡	鹿児島県教育委員会	1992年
北薩・伊佐地区埋蔵文化財分布調査報告書（I）	鹿児島県教育委員会	1992年
和遺跡	鹿児島県和泊町教育委員会	1992年
造士館・演武館跡	鹿児島市教育委員会	1992年
堀跡山遺跡 下巻	鹿児島市教育委員会	1992年
谷山弓場城跡 上巻	鹿児島市教育委員会	1992年
大龍遺跡	鹿児島市教育委員会	1992年
福昌寺跡	鹿児島市教育委員会	1992年
史跡旧集成館「鉢物場跡」発掘調査報告書	鹿児島大学法文学部考古学研究室	1991年
御釣場古墳（2号墳）	川内市教育委員会	1991年
一里塚遺跡・七塚畠遺跡	大隅町教育委員会	1990年
深追遺跡・山追遺跡	大隅町教育委員会	1991年
西之間遺跡	大隅町教育委員会	1991年
新田遺跡	大口市教育委員会	1992年
一宇治城跡	日置郡伊集院町教育委員会	1992年
宇茂佐古島遺跡	名護市教育委員会	1992年
大むかしの大井（現地説明会資料）	神奈川県立埋蔵文化財センター	1992年

## 付 編

- I. 鹿児島大学郡元団地H-11・12区工学部情報工学科建設地発掘調査河2出土遺物の紹介
- II. 鹿児島大学構内遺跡（郡元団地H-11地域共同センター建設予定地）におけるプラント・オパール分析結果

# I. 鹿児島大学郡元団地H-11・12区工学部情報 工学科棟建設地発掘調査河2出土遺物の紹介

鹿児島大学埋蔵文化財調査室においては、平成2年12月6日から平成3年3月19日にかけて、工学部情報工学科校舎建設予定地における発掘調査を実施した。この調査では数期にわたる河川の跡を検出し、これについては既に『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報Ⅶ』で報告しているが、整理作業の都合上、河2から出土した遺物の報告は本年報で行うことになった。河2からは縄文時代・弥生時代・古墳時代・中近世の遺物が出土している。なかでも、弥生・古墳時代の遺物が主体を占める。以下、説明を加え、観察表を提示した。

## 縄文土器（第19・20図）

第19図1（以下、19-1と表記する）は口縁部であるが、外面に明瞭な条痕を、口唇部外面には刻みを施している。

19-2～6は外面に細い突帯を施し、それに細かい刻み目を入れるもので、突帯間を沈線で埋めるものもある。2は口縁部で、上面には連点刺突文を施している。19-7～9は貝殻腹縁刺突文の間を貝殻条痕文によって埋めるものである。19-10は外面と口縁部上面に細かい突帯を数条張り付け、内面には貝殻条痕による押し引き文を横方向に2条施すものである。19-11は外面に小さな細長い突起を張り付けたものである。2～11は深浦式である。

19-12は、船元式系の土器で、外面は突帯の上下とその内面には縄文を施している。

19-13は口縁部を肥厚させ、環状の突起を付けたもので、沈線と連点によって施文している。

19-14は外面に凹線文を施したものである。

19-15は、胴部で屈曲部に突帯を張り付け、刻みを施し、その下は横方向の沈線を4条施したものである。

19-16は口縁部で、斜方向の複数の沈線と、その下に横方向の沈線を施している。出水式系土器であろうと考えられる。

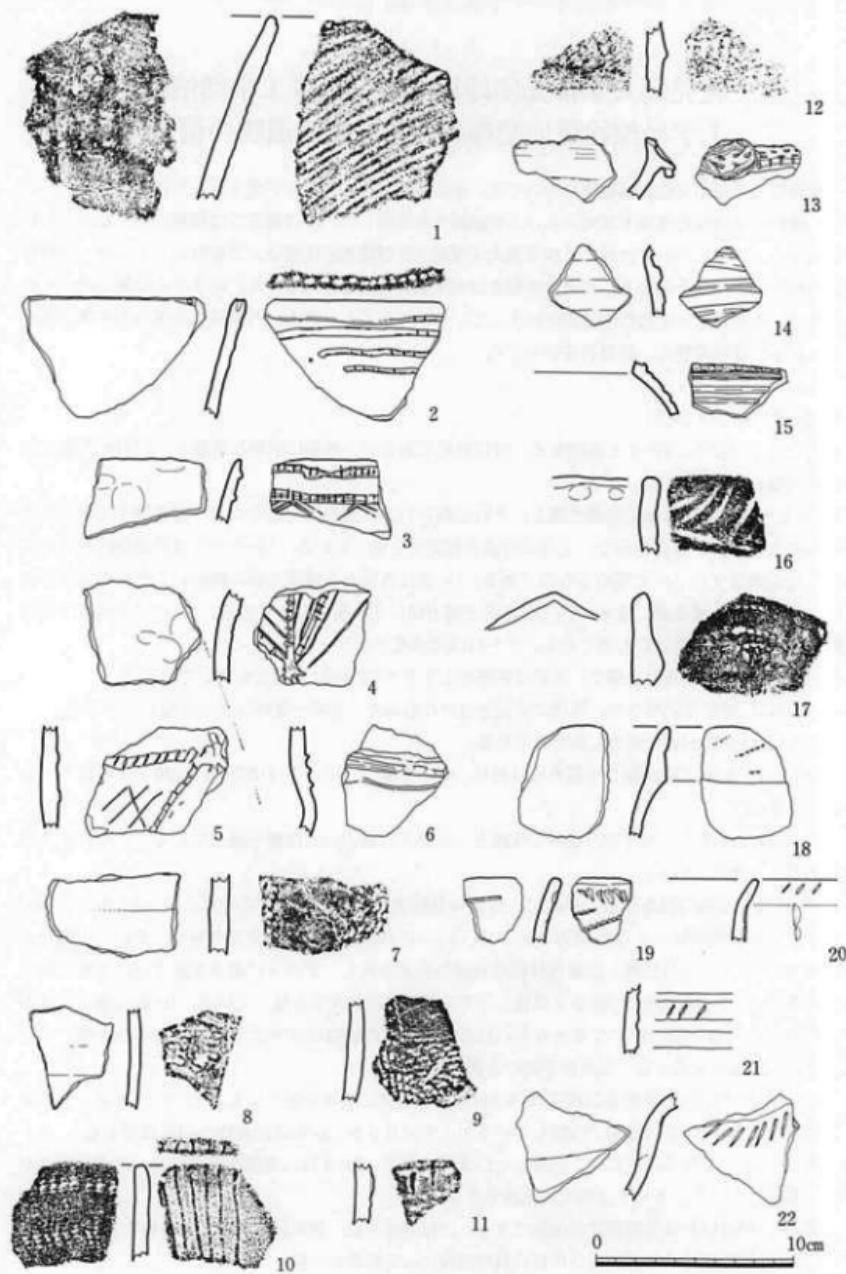
19-17は、山形口縁を呈し、外面に二枚貝の貝殻腹縁刺突文を施している。19-18は水平口縁だが、やはり貝殻腹縁による刺突文を施している。19-19は貝殻腹縁刺突文を施し、その上に連点を施している。19-20は屈曲した単部に貝殻腹縁刺突文を施し、その下に連点を縦方向に2個、施している。19-21は横方向の凹線を3条施し、その間に貝殻刺突文を施している。19-22は器形のゆがみからみて、山形の口縁になると考えられるが、胴部の屈曲に沿うように縦長の連点を施している。17～22は市来式もしくはその系統の土器である。

20-1はリボン状の突起を口縁部に張り付け、口唇部に刻みを施したもので、内・外とも条痕が明瞭である。20-2は途中で欠損しているが、やはりリボン状の突起を持つ口縁部である。

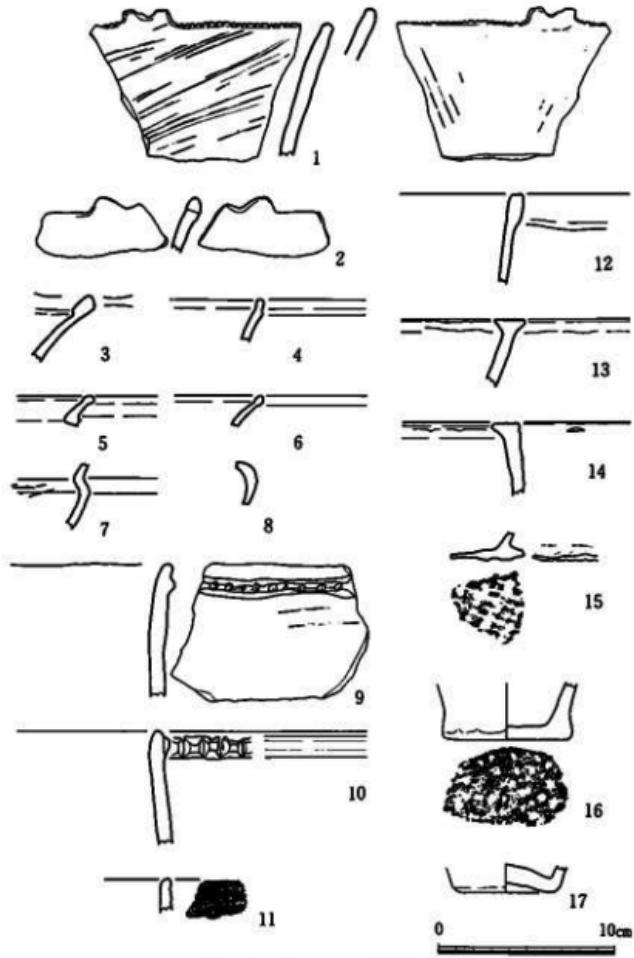
20-3・5・6は玉縁状に丸く肥厚した口縁部である。20-4は、端部を直立させ、外面屈曲部が少し突起している。3～8は黒川式土器である。

20-9・10はいわゆる突帯文の深鉢である。口縁部直下に、刻み目突帯文を1条施す。

20-11は口縁部で、外面には二枚貝の貝殻腹縁による刺突文が施している。



第19図 河2出土遺物(1) S=1/3



第20図 河2出土物(2) S=1/3

20-12は口縁部を肥厚させたもので、非常に摩滅している。

20-13は口縁部上面が水平で、内・外面に張り出す形態を呈する。20-14は内面のみに張り出して  
いる。

20-15～17は底部である。15、16は網代底である。16は非常に摩滅しているため網代の種類は不  
明だが、15はもじり編みのようである。岡元満子氏による編み方の分類<sup>1)</sup>によると、2本1組の絆  
で縄を1本ずつ絡めていく6類に当たるようである。17は上げ底状を呈する。

### 變形土器（第21図～第26図）

變形土器（以下、壺と呼ぶ）は弥生時代前期から古墳時代までのものが出土している。

第21図と22-12～17は、口縁部に突帯を張り付け断面三角形状を呈するもので、口唇部に刻みを持つもの（21-4・10～13・20～26・22-12～14）と持たないもの（21-1～3・5～9・14～19、22-15、16）がある。刻みは、端部に小さく施している。口縁部下に突帯を1条施す（21-5・14・21・26）ものもある。22-2は、口縁部下縁に突帯を1条施している。22-13は、ちょうど欠損部にかかるが、口縁部下に焼成後穿孔が認められる。22-12～17は、口縁部直下に突帯を1条施すものである。

22-1～11、23-1～6は、口縁部が少し伸び、口縁部上面に平坦面を持ち、端部はヨコナデ調整を行うことによって、くぼむ形態を呈する。胴部に複数の横沈線を施すもの（22-1・23-1）、また突帯を施すもの（22-2・4・5・9～11）がある。突帯には三角突帯と、絡繹突帯が認められる。22-6は、外面に波状文を、口縁部上面にハの字状の沈線を施し、いずれも輪描きである。

23-7～9は、口唇部のヨコナデ部が、くぼまず、平坦になっているものである。23-8は一条の突帯を施し、23-9は1条の沈線を施している。

23-10～12は口縁部がさらに伸びたもので、端部がへの字状に下向きのものである。

23-13は、端部が平坦で上面が湾曲した形態を呈する。23-14は口縁部が上向きで、1条の突帯を持つ。23-15は口縁部がさらに伸び、胴部に三条の突帯を持つ。

23-16は如意形口縁で、口唇部を丸く仕上げ、刻みを施す。23-17は端部を丸く收め、口縁部上面が平坦で、内面に少し張り出しを持つ。23-18・19は、端部が丸く、上面をくぼませている。18は内面に張り出しを持つ。

第24図は口縁部を肥厚させることなく、くの字状に屈曲するものである。明瞭な棱線を持つもの（1～5）と比較的緩やかに屈曲するもの（6～10）がある。11は内、外面とも緩やかに屈曲し、口唇部がヨコナデ調整によってくぼみ、屈曲部に断面三角形の突帯を1条持つものである。

25-1～3は胴部の突帯部である。1は三角突帯で、端部に小さな刻みを施すものである。2は、3条の小さな絡繹突帯である。3は、3条の三角突帯だが、緩やかな凹凸を呈する。

25-4は、バケツ状を呈する變形土器の口縁部である。この形態の壺には、一条の突帯を施すものが多いが、4は突帯を施さず、ちょうど突帯を施す位置に接合線が認められる。25-5は、突帯を持つが、1条突帯の結合部が互い違いになっている部分である。

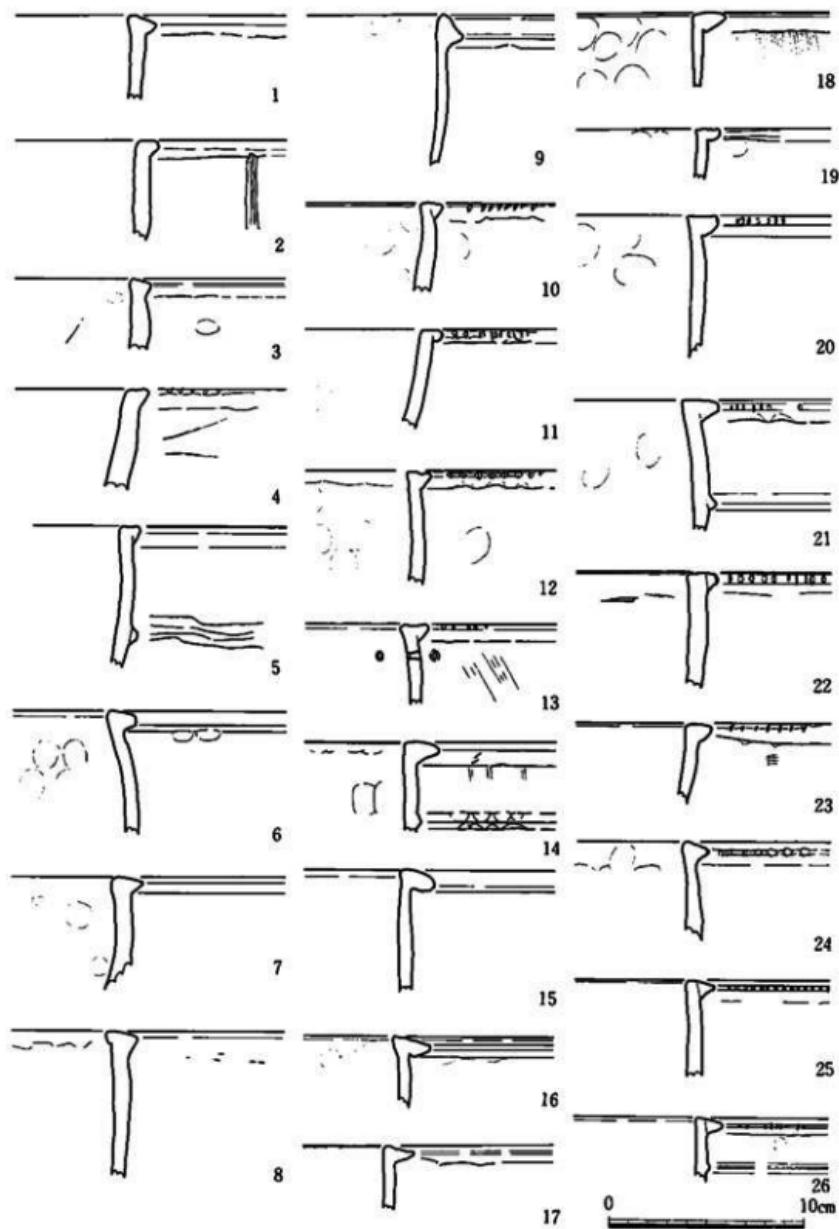
25-6～9は胴部下半から脚台部である。9は、体部と脚部との接合部で欠損している。

25-10は口縁部が内湾し、肩部が張り、胴部は球形を呈する。作りが粗雑で、接合線が明瞭である。おそらく、布留式壺の模倣品であろう。

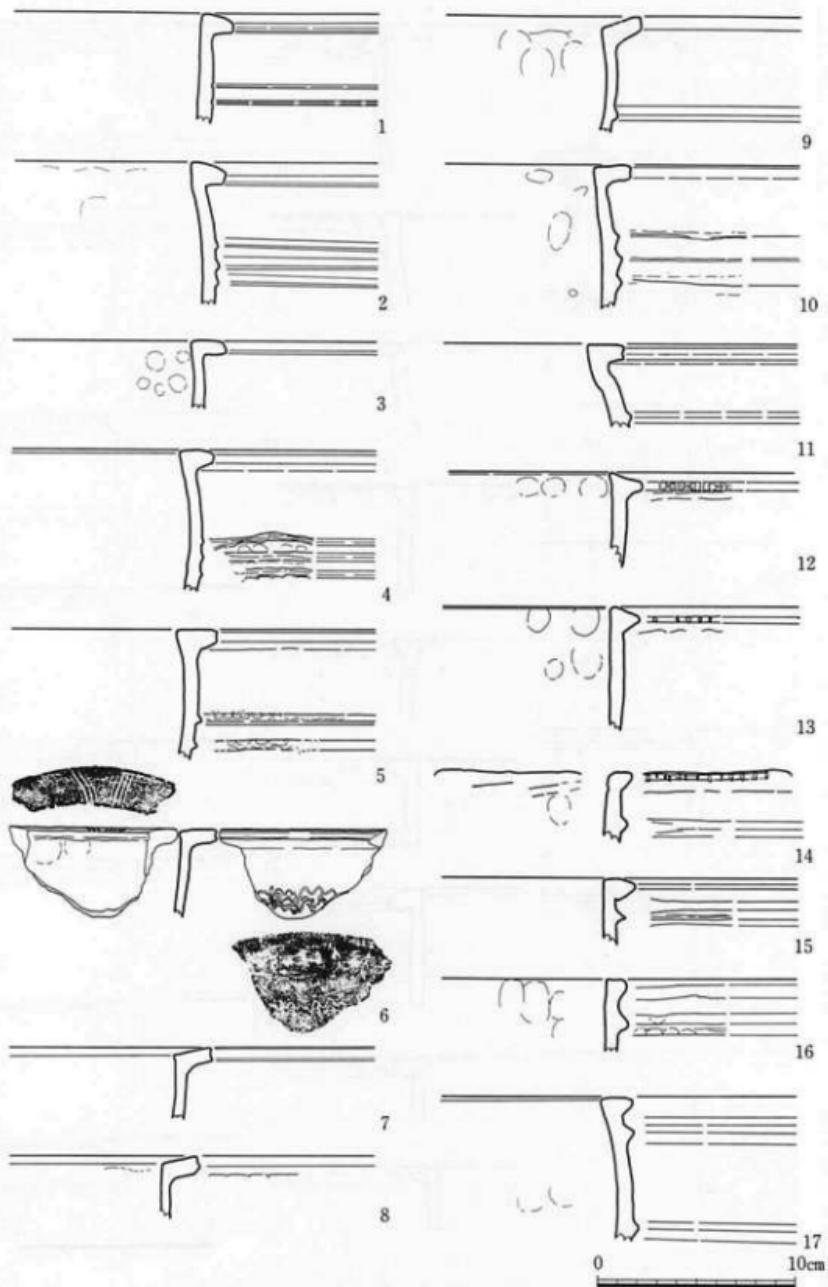
第26図は底部である。1は外側に張り出す平底で、2～8はいわゆる充実した脚台である。5～8は少し上げ底気味である。9から21は脚台で、中でも17～21は底部が大きく、作りも粗雑である。

### 壺形土器（第27図～第29図）

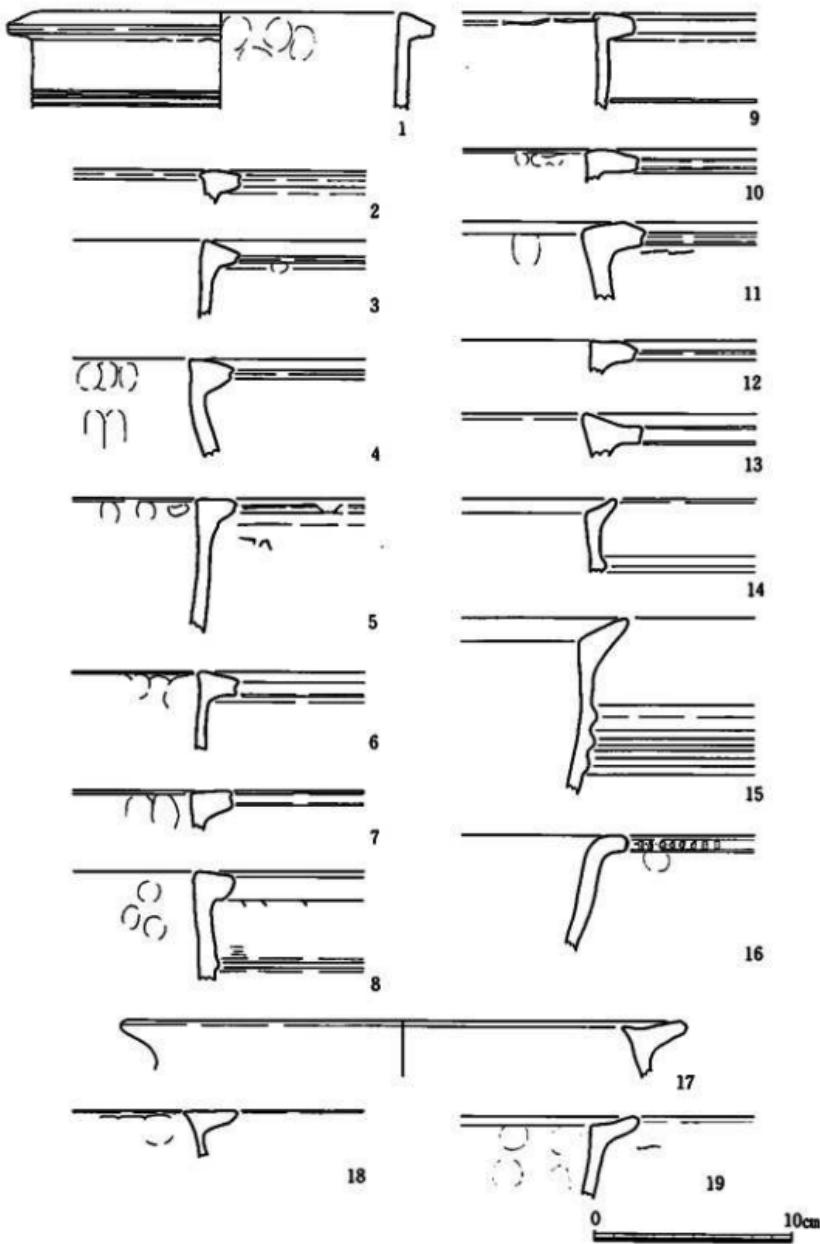
27-1～13は外反する口縁部である。1は、頭部に1条の沈線を施す。2～4は、頭部がまっすぐ



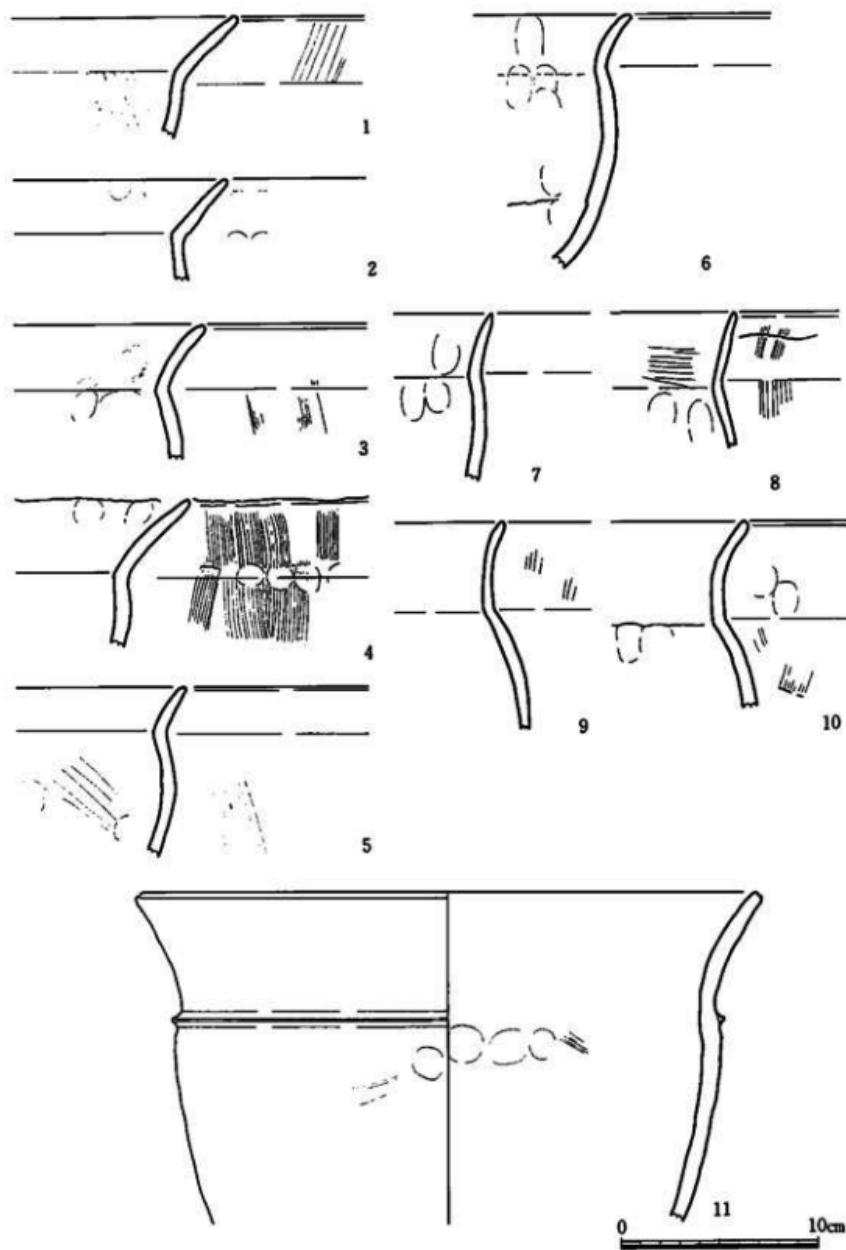
第21図 河2出土遺物(3) S=1/3



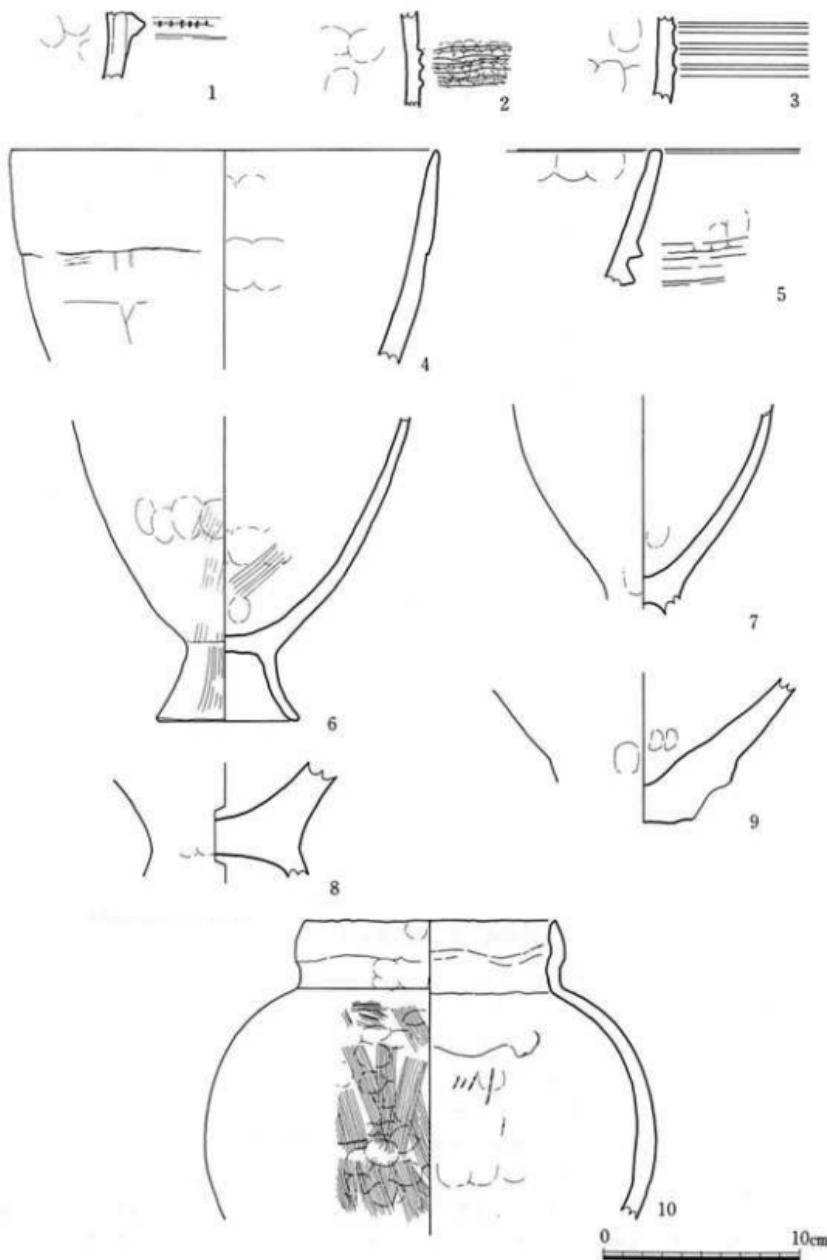
第22図 河2出土遺物(4) S=1/3



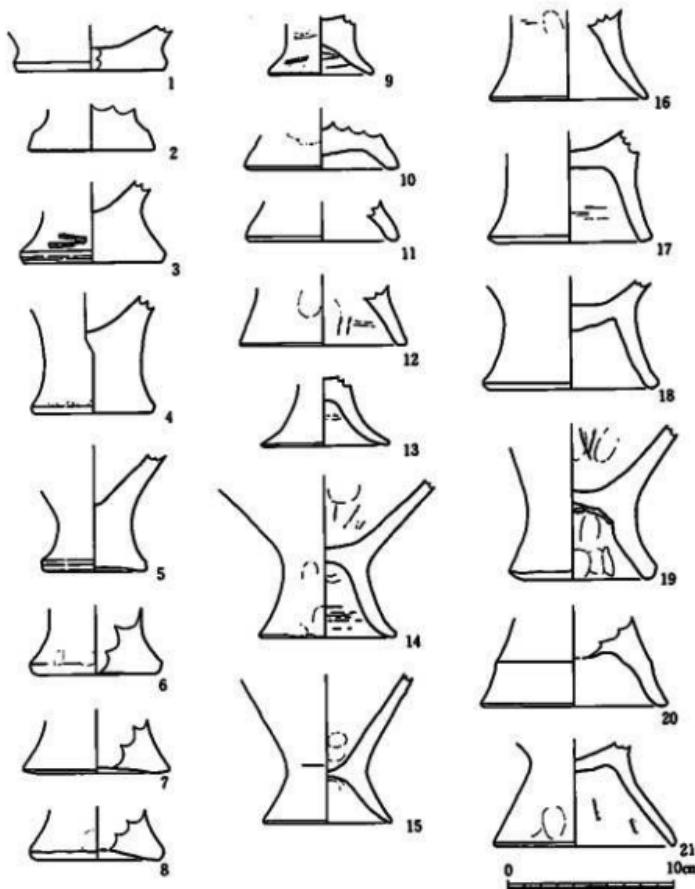
第23図 河2出土遺物(5) S=1/3



第24図 河2出土遺物(6) S=1/3



第25図 河2出土遺物(7) S=1/3



第26図 河2出土遺物(8) S=1/3

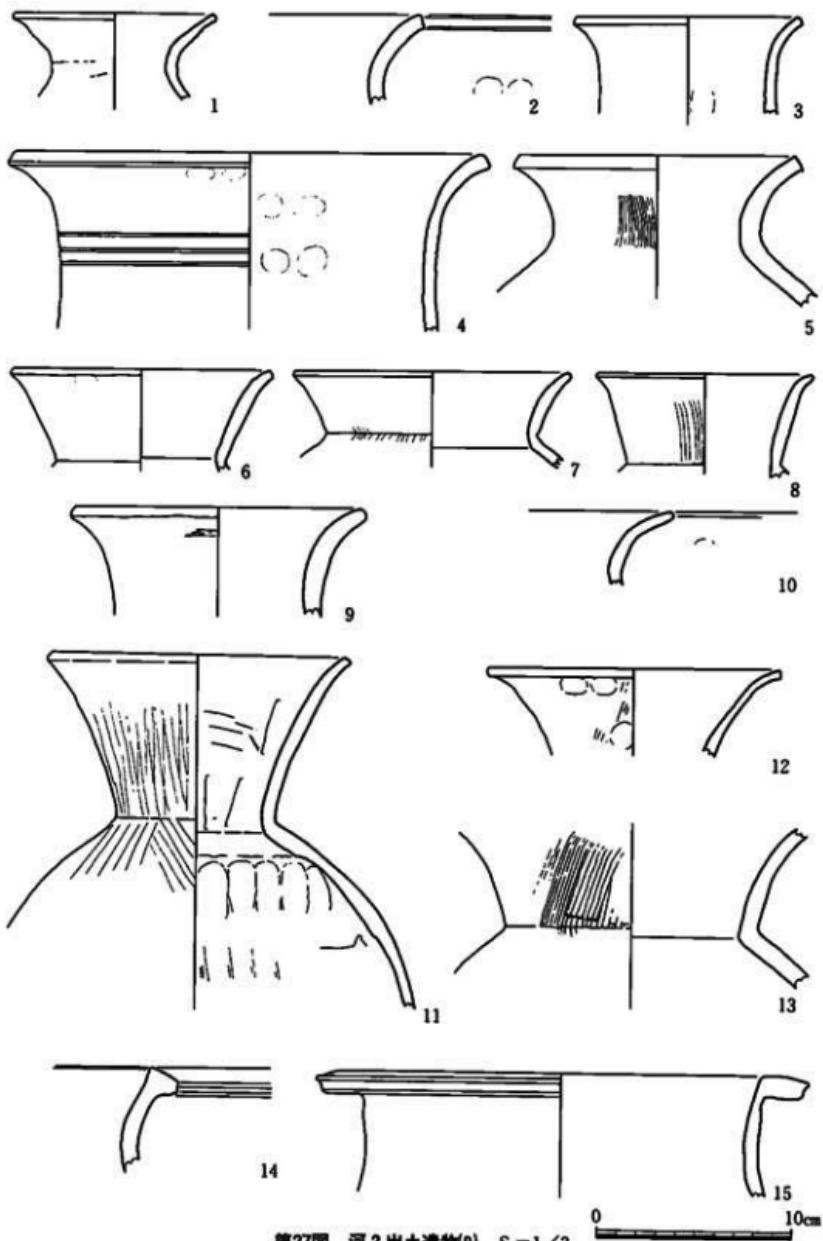
立ち上がり、端部が少し湾曲する形態を呈する。4は頸部に3条の沈線を施す。6~13は、頸部に横線を持ち、少し湾曲しながら、段状になっている。11は口縁部が長く、肩部がなだらかである。肩部内面には縦長のユビオサエ痕が明瞭である。

27-14・15~28-1・2は口縁部を肥厚させ、口唇部をナデ調整によってくぼませるものである。

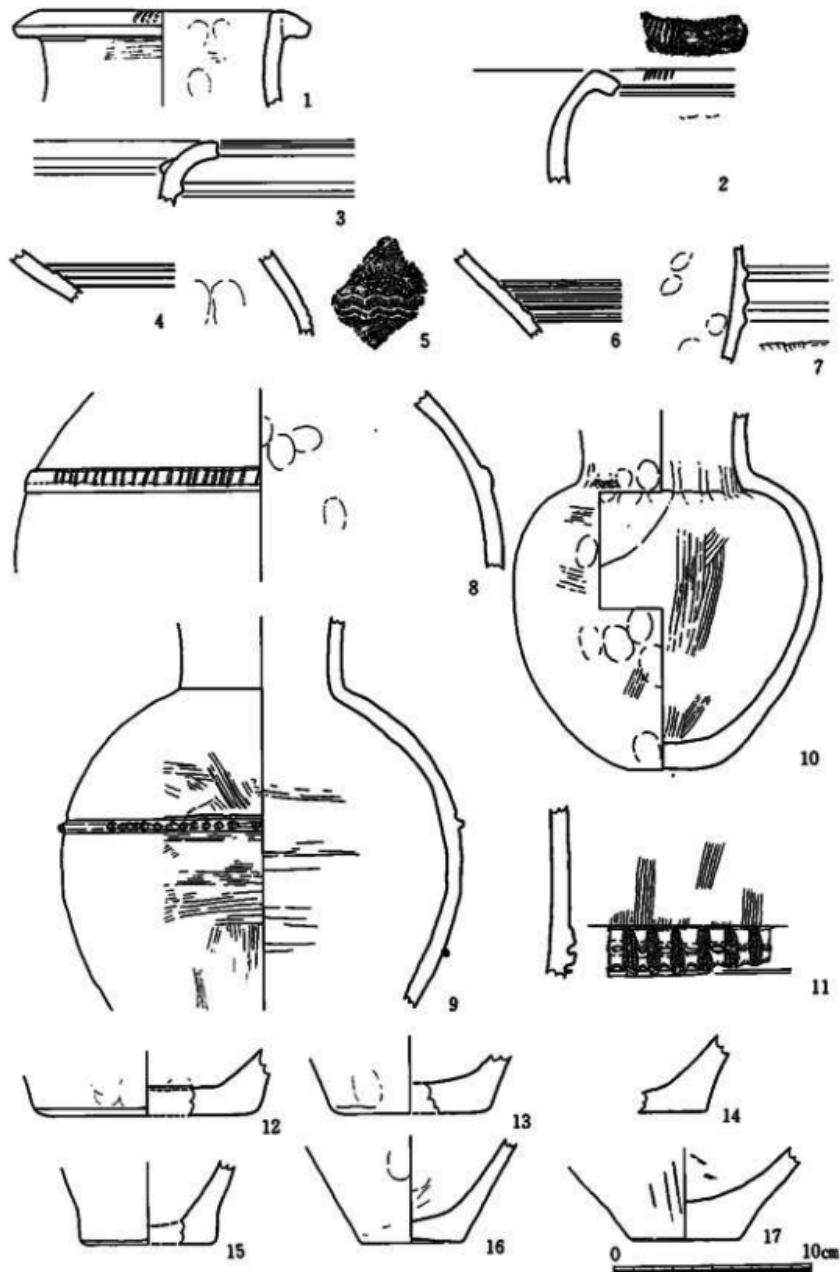
28-1・2は、口縁部上面に数条の沈線を施す。

28-3は外反する口縁部だが、屈曲部内外面に1条ずつの三角突帯を持つ。

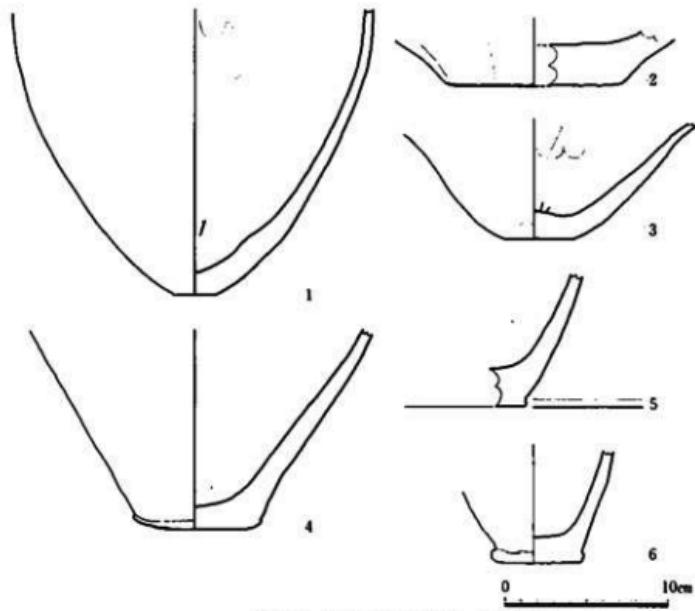
28-4~8・11は胸部である。4は4条の沈線、5は櫛描きの波状文をもつ。6は4条の突帯で、凹凸が緩やかである。7は三条の突帯である。8は断面方形の突帯に、刻みを持つものである。11は幅広突帯を横線で2条に分け、上下同時刻みを施したもので、刻みに布目圧痕が残る。



第27図 河2出土遺物(9) S=1/3



第28図 河2出土遺物(10) S=1/3



第29図 河2出土遺物(11) S=1/3

28-9は1条の突帯を持つ臺で、肩部は球形を呈し、口縁部は直立する。刻みはハケ目工具による。

28-10は、無文の平底の臺である。肩部が張り、直立する口縁部である。内面には、肩部と口縁部の接合の際のユビオサエ痕が明瞭である。

28-12~17・第29図は底部である。29-1は小さな平底である。29-4はゆがんだ凸レンズ状を呈する。

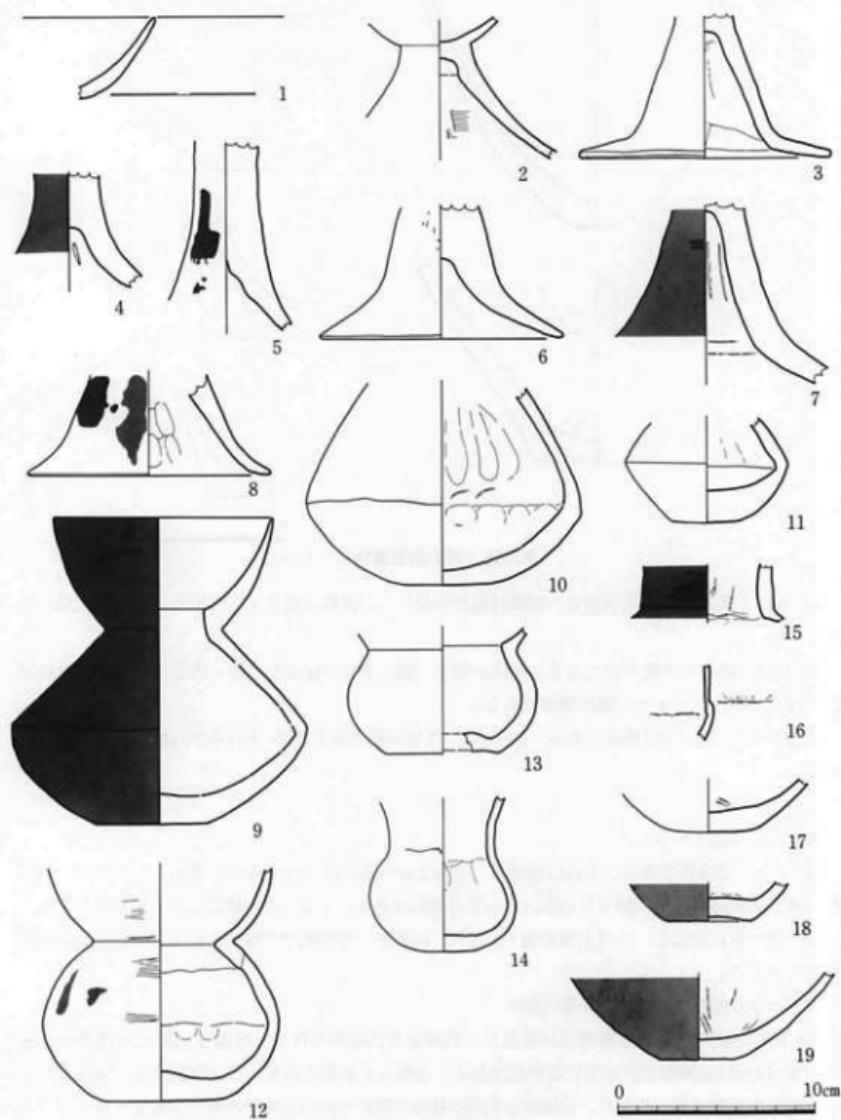
#### 高杯（第30図1～8）

30-1～8は高杯である。1は口縁部で、立ち上がり部に鈍い段を持つ。摩滅しているが、口唇部外面に赤色顔料が一部残っている。2～8は脚部である。2はハの字状に広がる形態を呈する。3は下部が急に屈曲し、5は上部が細く、また、杯部との接合面で欠損している。6は上部が中膨らみを呈する。

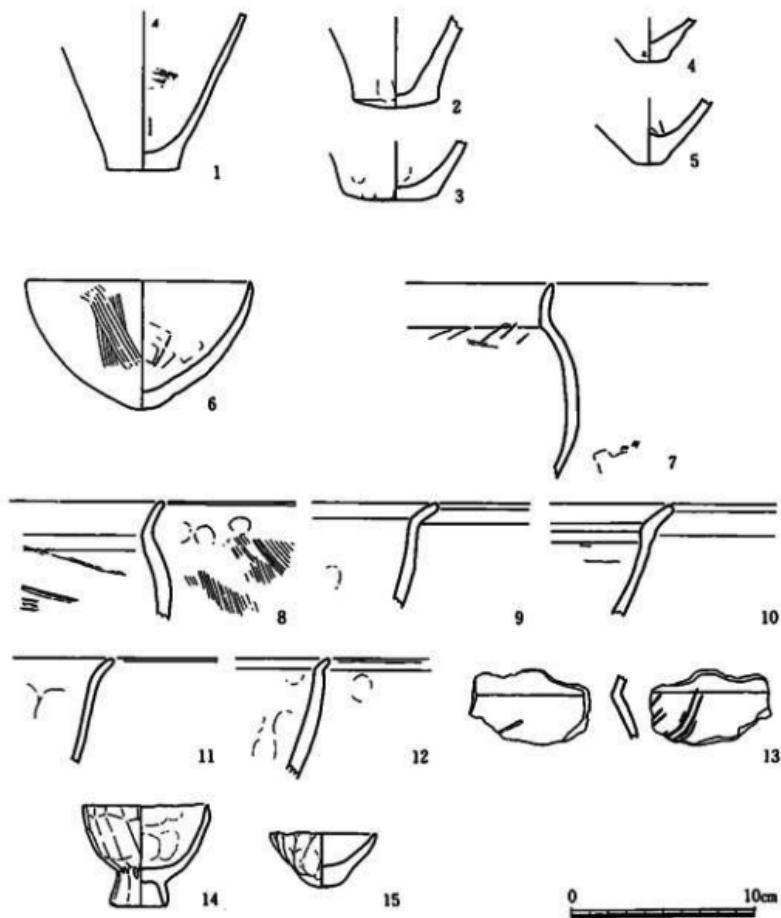
#### 壺および小形臺（第30図9～第31図5）

30-9は平底で、肩部を算盤玉状を呈し、内湾する口縁部を持つ。外面と底面に赤色顔料を施す。30-10・11も算盤玉状を呈する肩部である。どちらも平底である。10は肩部内面に縦長のユビナデの痕が明瞭に残っており、口縁部と肩部の接合の際にいたものであろうと推定できる。

30-12～14は平底で、肩部が丸く張る形態を呈している。12・13は頸部に明瞭な稜線を持つが、



第30図 河2出土遺物(12) S=1/3



第31図 河2出土遺物③ S=1/3

14の頸部は緩やかに湾曲する。12は外面に赤色顔料が少し残存している。

15は頸部だが、口縁部が直立する形態を呈する。外面には赤色顔料を施している。16は胴部で、他の土器に比べて器壁が薄い。

30-17~19は底部である。17は緩やかな凸レンズ状を呈し、18は上げ底である。19は平底を呈する。18・19とも外面に赤色顔料を施している。

31-1~5は辯または小型壺の底部である。1は平底を呈するが、底面に木の葉圧痕が認められる。2・4は凸レンズ状を呈する。3・5は小さな平底である。

### 鉢形土器（第31図6～13）

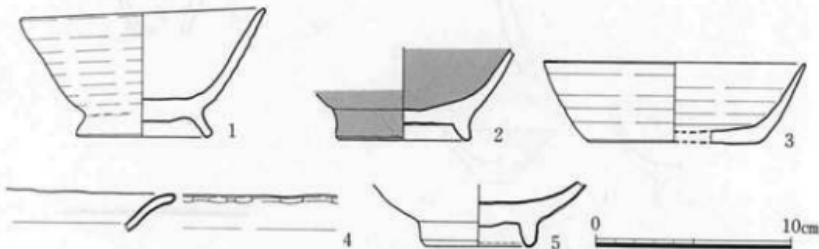
鉢形土器として掲載したものの中には、甕形土器との区別が難しいものがあるが（7～13），一応、口縁部の屈曲が高い位置にあり、口縁部が短いものを鉢として取り上げた。6は尖り気味の丸底で、口縁部は少し内湾する形態を呈する。7～12は口縁部が屈曲し、少し外反させるものである。13は頸部で、肩部に櫛描き状の沈線が認められるが、小片のため、文様の一部であるのか、粗雑な器面調整なのかは判別できない。

### 手づくね土器（第31図14・15）

31・14は碗状の少し内湾する口縁部に、脚台を持つものである。外面には全面に削りを施している。15は分厚い丸底で、ユビオサエ痕が明瞭である。

### 碗（第32図）

素焼きの椀が3点出土している。1・2は外に広がる高台を持ち、回転ナデによる凹凸が明瞭である。4・5は青磁である。4は花弁状を呈する口縁部で、皿である。5は、碗の底部で直立する高台を持つ。



第32図 河2出土遺物(4) S=1/3

### 註

- 岡元満子「2. 底部」『草野貝塚－宅地造成に伴う第1次・第2次緊急発掘調査報告－』鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書(9) 鹿児島市教育委員会 1988年

表3 河2出土土器觀察表

器番号	器種	部位	色調・釉調	胎土・鉱物	調整・施文	備考
19-1	深鉢	口縁部	外面：黒褐色10Y R 3/1. 内面：橙色7.5 Y R 6/8-明褐色2.5 Y R 5/8.	砂粒を含む。白色粒。	外面：斜位の条痕。口縁部：進点。	
19-2	深鉢	口縁部	外面上部：オリーブ褐色Y 3/1. 外面下部：淡黄色2.5 Y 8/3. 内面：明褐色7.5 Y R 5/8-浅黄色2.5 Y 7/3.	粗砂粒を含む。石英。角閃石。	外面：隆起線状突起を横位に施す。口縁部：刺突文。内面：摩滅により不明。	内面が摩滅している。
19-3	深鉢	口縁部	外面：灰褐色7.5 Y R 4/2. 内面：褐色7.5 Y R 4/3.	粗砂粒を含む。白色粒。	外面：突起上に割み。沈線。	内面：ユビオサエ。
19-4	深鉢	胴部	外面：褐色7.5 Y R 4/1. 内面：灰褐色7.5 Y R 4/2.	砂粒一細砂粒を含む。白色粒。	外面：突起上に割み。沈線。	内面：ユビオサエ。
19-5	深鉢	胴部	外面：暗赤褐色2.5 Y R 3/1. 内面：黒褐色5 Y R 2/1.	粗砂粒一細砂粒を含む。石英。角閃石。白色粒。赤色粒。	幅4~5mm程度の粘土紙を貼りつけ斜位に刷み目を施す。崩繩がみられる。	
19-6	深鉢	胴部	外面：にぶい赤褐色5 Y R 4/3. 一部褐色7.5 Y R 2/1. 内面：にぶい橙色7.5 Y R 6/4.	砂粒を含む。角閃石。	外面：3条の突起。(3~3.5mm). 内面：ユビオサエ。	
19-7	深鉢	胴部	外面：にぶい橙色5 Y R 6/4. 内面：暗赤褐色5 Y R 5/6.	細砂粒を含む。角閃石。黑色粒。	貝殻腹縫刺突。	摩滅が著しい。
19-8	深鉢	胴部	外面：にぶい赤褐色5 Y R 5/4. 内面：明褐色7.5 Y R 5/6.	細砂粒を含む。石英。角閃石。黑色粒。	外面：貝殻腹縫刺突。押引文(?)。内面：ユビオサエ(?)。	摩滅が著しい。
19-9	深鉢	胴部	外面：明褐色7.5 Y R 5/6. 内面：にぶい褐色7.5 Y R 5/4.	砂粒を含む。石英。角閃石。白色粒。黑色粒。	外面：貝殻腹縫刺突。内面：ユビオサエ(?)。	
19-10	深鉢	口縁部	外面：黒褐色7.5 Y R 5/4. 内面：にぶい褐色7.5 Y R 5/4.	砂粒を含む。石英。角閃石。白色粒。黑色粒。	口縁部・外面：隆起線状の突起を横位に施す。内面：貝殻腹縫刺突。	摩滅している。
19-11	深鉢	胴部	外面：赤褐色2.5 Y R 4/1. 内面：褐褐色5 Y R 4/1.	砂粒を含む。石英。角閃石。白色粒。黑色粒。	外面：刺突文。横位に突起を施す。内面：ナデ。	
19-12	深鉢	胴部	にぶい黄褐色10Y R 7/2. 内面：にぶい黄褐色10Y R 7/3.	砂粒を含む。石英。角閃石。白色粒。黑色粒。	外面：刺突文。貝殻条痕。内面：貝殻条痕。凹線文。	
19-13	深鉢	口縁部	外面：にぶい赤褐色2.5 Y R 4/4. 暗赤褐色2.5 Y R 3/3.	細砂粒を含む。角閃石。	貝殻腹縫刺突。	
19-14	深鉢	胴部	赤色10R 4/6.	細砂粒を含む。角閃石。	外面：3条の沈線(幅7~8mm). 内面：ユビオサエ(?)。	
19-15	深鉢	口縁部	外面：褐色7.5 Y R 4/3. 内面：褐色7.5 Y R 4/6.	砂粒を含む。石英。	外面：横位に沈線。突起に割み。	摩滅が著しい。
19-16	深鉢	口縁部	外面：にぶい橙色5 Y R 6/4. 内面：にぶい赤褐色7.5 Y R 4/3.	砂粒を含む。石英。白色粒。黑色粒。	外面：凹線文。内面：ユビオサエのちナデ。	
19-17	深鉢	口縁部	外面：橙色5 Y R 6/6. 内面：橙色7.5 Y R 7/6.	砂粒を含む。石英。角閃石。白色粒。黑色粒。	外面：刺突文。内面：ナデ。	
19-18	深鉢	口縁部	外面：明褐色7.5 Y R 5/8-褐色7.5 Y R 4/4. 内面：明褐色5 Y R 3/3.	砂粒と微量の小理を含む。	外面：貝殻腹縫刺突。	摩滅が著しい。
19-19	深鉢	口縁部	外面：黒褐色5 Y R 3/1. 内面：灰褐色7.5 Y R 4/2.	細砂粒を含む。	外面：貝殻腹縫刺突。爪状(?)施文による連続刺突。	
19-20	深鉢	口縁部	外面：にぶい赤褐色2.5 Y R 4/3. 内面：黒褐色7.5 Y R 4/4.	微細な砂粒を少許含む。	口縁部外面：爪による横位の刺突。外面細部以下：爪による横位の刺突。	摩滅が著しい。
19-21	深鉢	胴部突帯	外面：褐褐色7.5 Y R 3/1. 内面：灰褐色7.5 Y R 6/2.	砂粒を含む。	外面：横位の沈線。貝殻腹縫刺突。	摩滅が著しい。

図番号	器種	部位	色調・特徴	胎土・磁胎	調整・施文	備考
20-1	深鉢	口縁部	外面：灰褐色5Y R5/2. 内面：にぶい赤褐色5Y R5/4.	粗砂粒を多く含む。小窓を含む。石英、角閃石、白色粒。	条痕のちナデ。	
20-2	深鉢	口縁部	外面：にぶい赤色7.5 Y R4/4. 内面：暗赤褐色2.5Y R5/6.	砂粒を含む。石英、角閃石。	外面・内面：条痕(?)のちナデ。口縁部：ナデ(?)	摩滅している。
20-3	浅鉢	口縁部	外面：暗赤褐色5Y R3/2. 内面：赤褐色5 Y R4/6.	砂粒を含む。石英、角閃石、赤色粒、黑色粒。	ナデ。	
20-4	浅鉢	口縁部	外面：にぶい赤褐色5 Y R4/4. 内面：橙色7.5Y R6/8.	砂粒を含む。石英、角閃石、黑色粒。	ナデ。	
20-5	浅鉢	口縁部	外面：明赤褐色5Y R5/6. 内面：にぶい赤褐色5Y R4/3.	砂粒を含む。石英、角閃石、白色粒、黑色粒。	ナデ。	
20-6	浅鉢	口縁部	外面：にぶい黄褐色10 Y R6/4-明黄褐色10 Y R6/6. 内面：黄褐色2.5Y R5/1.	細砂粒を含む。石英。	ナデ。	
20-7	浅鉢	胴部	外面：にぶい赤褐色5 Y R5/4. 内面：灰褐色5Y R5/2.	微細、白色粒。	摩擦のため不明。内面：工具痕(?)あり。	摩滅が著しい。
20-8	浅鉢	胴部	外面：灰褐色5Y R4/1-にぶい褐色7.5Y R5/3. 内面：灰褐色7.5Y R4/2.	砂粒を含む。石英、角閃石、白色粒、赤色粒。	ナデ。	摩滅している。
20-9	深鉢	口縁部	外面：にぶい黄褐色10 Y R7/4. 内面：橙色7.5Y R6/8.	石英、角閃石、白色粒、黑色粒。	ナデ。	
20-10	深鉢	口縁部	外面：橙色7.5Y R6/6. 内面：明褐色7.5Y R5/6.	砂粒を含む。石英、黑色粒。	摩滅のため不明。	摩滅が著しい。
20-11	深鉢	口縁部	黒褐色10Y R3/1.	砂粒を含む。石英、角閃石、白色粒。	外面：貝殻腹縫刺突、内面：ナデ。	
20-12	深鉢	口縁部	赤褐色2.5Y R4/6.	砂粒-細砂粒を含む。黑色粒、赤色粒。	摩滅のため不明。	摩滅が著しい。
20-13	深鉢	口縁部付近	外面：明赤褐色5Y R5/6. 内面：にぶい黄褐色10Y R7/2.	細砂粒を含む。赤色粒、黑色粒。	外面：幅3mm程度の沈穂。	
20-14	深鉢	口縁部(?)	にぶい赤褐色：5Y R4/4.	粗砂粒を含む。	口唇部内面：ユビオサエ。他の摩滅のため不明。	摩滅が著しい。
20-15		底部	外面：橙色7.5Y R6/6. 内面：にぶい黄褐色10Y R7/3.	細砂粒を含む。黑色粒。	外面：ユビオサエ。底面：压痕	摩滅が著しい。
20-16		底部	外面：暗赤褐色10Y R3/4. 内面：暗赤褐色10Y R3/3.	細砂粒を含む。黑色粒。	ユビオサエ、底部外面：網代(?)あり。	摩滅が著しい。底径7.4cm。
20-17		底部	明赤褐色2.5Y R5/6.	砂粒-細砂粒を含む。黑色粒。	ユビオサエ(?)	摩滅が著しい。底径5.2cm。
21-1	甕	口縁部	外面：橙色2.5Y R7/6. 内面：灰白色5Y R8/2.	砂粒-細砂粒を含む。角閃石、黑色粒、赤色粒。	内面：ユビオサエ。その他は摩滅のため不明。	摩滅が著しい。
21-2	甕	口縁部	外面：にぶい褐色2.5 Y R6/3. 内面：にぶい赤褐色5Y R4/3.	砂粒を含む。石英、角閃石。	ナデ。	
21-3	甕	口縁部	外面：にぶい橙色5Y R4/6-にぶい橙色5Y R6/4. 内面：明褐色10Y R6/2. 明褐色10Y R6/6の底点が見られる。	粗砂粒-細砂粒を含む。石英、角閃石、白色粒、赤色粒、黑色粒。	外面：ナデ?. 内面：ユビオサエのちナデ。	摩滅している。焼き不明。
21-4	甕	口縁部	外面：灰褐色5.5Y R4/1. 内面：にぶい橙色2.5Y R7/4.	砂粒を含む。角閃石、黑色粒。	不明。	摩滅が著しい。
21-5	甕	口縁部	外面：にぶい黄褐色10 Y R6/4. 一部灰褐色10Y R4/1. 内面：明褐色7.5Y R5/6.	砂粒-細砂粒を含む。角閃石、白色粒。	ナデ。	摩滅が著しい。

図番号	器種	部位	色調・粒度	粒度・磁性	調整・論文	備考
21-6	甕	口縁部	外面：明赤褐色5Y R 5/6、暗褐色2.5Y 3/1、内面：赤褐色5Y R 4/6。	粗砂粒を含む。石英、角閃石。	ユビオサエのちナデ。	
21-7	甕	口縁部	外面：にい・暗褐色7.5Y R 6/3、一部赤褐色2.5Y R 4/1、内面：にい・褐色7.5Y R 5/4。	砂粒を含む。石英、角閃石。黒色粒。	外面：ナデ、内面：ユビオサエのちナデ。	摩滅している。
21-8	甕	口縁部	外面：にい・褐色7.5Y R 5/3、内面：明赤褐色5Y R 5/6。	2 mm程度の礫を含む。細砂粒を含む。角閃石。	外面：ナデ、口縁部端部：ヨコナデ（？）、内面：ユビオサエ。	
21-9	甕	口縁部	外面：（上部）明褐色5Y R 7/1、（下部）灰褐色5Y R 8/4、内面：にい・褐色5Y R 7/3。	約5 mmの礫・細砂粒を含む。赤色粒、黒色粒。	口縁部端部：ユビオサエ。	摩滅が著しく調整など不明。
21-10	甕	口縁部	外面：灰褐色5Y R 5/2、内面：明赤褐色5Y R 5/6。	砂粒を含む。石英、角閃石。	外面：ナデ（？）、内面：ユビオサエのちナデ。	摩滅している。
21-11	甕	口縁部	外面：灰褐色7.5Y R 4/1、内面：にい・褐色7.5Y R 7/4。	微細、黒色粒。	外面：ナデ、内面：ユビオサエのちナデ。	摩滅が著しい。
21-12	甕	口縁部	灰褐色5Y R 4/2。	粗砂粒を多く含む。黒色粒。	外面：横方向のハケ(5本/cm)のちナデ、内面：ユビオサエのちナデ。	
21-13	甕	口縁部	外面：にい・橙色7.4Y R 6/4、内面：橙色7.5Y R 6/6。	細砂粒を含む。	ナデ。	摩滅が著しい、口縁部底面下に穿孔あり。
21-14	甕	口縁部	にい・橙色5Y R 6/4。	砂粒・細砂粒を含む。黒色粒。	外面：ハケ（？）のちナデ、内面：ユビオサエのちナデ。	側部に一条の格闘突帯を貼付する。
21-15	甕	口縁部	暗赤褐色2.5Y R 3/4。	粗砂粒・細砂粒を含む。角閃石、赤色粒。	不明。	摩滅が著しく調整など不明。
21-16	甕	口縁部	外面：にい・赤褐色2.5Y R 5/4-暗赤褐色2.5Y R 3/2、内面：にい・橙色5Y R 6/4、口縁部上面：明褐色7.5Y R 7/2。	4 mm程度の礫を含む。赤色粒、黒色粒。	外面：ナデ、内面：ユビオサエのちナデ、口縁部：ヨコナデ。	
21-17	甕	口縁部	外面：黒褐色5Y R 3/1、内面：にい・赤褐色5Y R 5/4、一部暗褐色5Y R 3/1。	砂粒を含む。石英、角閃石、黒色粒。	ナデ？。	摩滅している。
21-18	甕	口縁部	外面：にい・橙色5Y R 7/3-暗褐色7.5Y R 5/1、内面：暗赤褐色2.5Y R 7/4-にい・褐色7.5Y R 6/3。	砂粒を含む。角閃石、赤色粒、黒色粒。	外面：ハケのちナデ、内面：ユビオサエのちナデ。	
21-19	甕	口縁部	外面：明赤褐色5Y R 7/1、一部明褐色5Y R 7/1、橙色2.5Y R 6/6、内面：にい・褐色5Y R 7/3。	砂粒を含む。黒色粒。	ユビオサエのちナデ。	
21-20	甕	口縁部	外面：灰褐色10Y R 6/2、内面：褐灰色10Y R 5/1。	砂粒・細砂粒を含む。角閃石、黒色粒。	外面：ナデ（？）、内面：ユビオサエのちナデ。	
21-21	甕	口縁部	外面：灰褐色7.5Y R 5/2、内面：にい・褐色7.5Y R 5/3。	粗砂粒を含む。角閃石、石英。	外面：ナデ、内面：ユビオサエのちナデ。	
21-22	甕	口縁部	外面：明赤褐色2.5Y R 5/6、内面：にい・褐色2.5Y R 6/4。	粗砂粒・砂粒を多く含む。石英、白色粒、赤色粒、黒色粒。	外面：ナデ？、内面：ハケ（8本/5 mm）のちナデ、口縁部附近：ヨコナデ。	摩滅している。
21-23	甕	口縁部	灰褐色5Y R 5/2。	砂粒を含む。石英、角閃石、白色粒、赤色粒。	ナデ。	
21-24	甕	口縁部	外面：黒褐色7.5Y R 3/1、内面：褐色7.5Y R 4/3。	細砂粒を含む。白色粒。	口縁部外面：ヨコナデのちナデ、胸部外面：ナデ、内面：ユビオサエのちナデ。	
21-25	甕	口縁部	外面：赤褐色2.5Y R 4/1-褐色7.5Y R 4/3、内面：にい・褐色5Y R 7/3。	砂粒を含む。石英、白色粒、赤色粒。	口縁部：ヨコナデ、他：ナデ。	
21-26	甕	口縁部	外面：黒色N 1.5/、内面：黒褐色10Y R 3/1。	粗砂粒・砂粒を含む。石英、角閃石、白色粒、黒色粒。	外面：ヨコナデ、内面：ナデ？、口縁部：擬位の崩み。	

団番号	器種	部位	色調・輪郭	粘土・磁胎	調整・施文	備考
22-1	甕	口縁部	外面：褐灰色5Y R4/1. 内面：褐灰色5Y R5/2.	砂粒・小砾を含む。石英、角閃石。	ナデ。	
22-2	甕	口縁部	浅褐色5Y R8/3-1-灰白色5Y R8/2. 一部褐灰色5Y R4/1. 明褐色7.5Y R5/6.	粗砂粒一細砂粒を含む。石英、角閃石、赤色粒、黒色粒。	外面：ナデ。内面：ユビオサエのちナデ。	
22-3	甕	口縁部	外面：にぶい褐色7.5 Y R7/3. 内面：にぶい黄褐色10Y R7/2.	砂粒を含む。石英、角閃石、白色粒、風化粒。	外面：ナデ。内面：ユビオサエのちナデ。	
22-4	甕	口縁部	外面：褐灰色5Y R8/1. 一部明赤褐色5Y R5/6. 内面：明褐灰色10G Y4/1. 口縁部上面：にぶい褐色7.5Y R5/3.	小砾を含む。角閃石、白色粒。	外面：ナデ。ヨコナデ。内面：ユビオサエのちナデ。	
22-5	甕	口縁部	外面：にぶい褐色7.5 Y R6/3. 内面：にぶい褐色7.5Y R7/4.	粗砂粒を含む。角閃石、黑色粒。	外面：ナデ。内面：ユビオサエ・ナデ。	
22-6	甕	口縁部	外面：暗赤灰色10R 4/1. 内面：褐色7.5 Y R6/6.	粗砂粒一細砂粒を含む。角閃石、黒色粒。	外面：ナデ。内面：ユビオサエのちナデ。口縁部：ヨコナデ。	肩部：横擦文。
22-7	甕	口縁部	外面：にぶい褐色7.5 Y R5/4. 内面：にぶい褐色5Y R7/4.	砂粒を含む。雲母、白色粒。	外面：ナデ。内面：ユビオサエ。	
22-8	甕	口縁部	外面：にぶい黄褐色10Y R6/7. 一部灰褐色2.5Y R4/1. 口縁部上面：内面：にぶい黄褐色10Y R6/4. 一部褐色5Y R4/8(鉢底)の既成。	粗砂粒を含む。石英、角閃石、赤色粒。	外面：ユビオサエのちナデ。内面：ナデ。口縁部：ヨコナデ。	
22-9	甕	口縁部	外面：明褐色7.5Y R5/6. 一部にぶい褐色7.5Y R5/3. 内面：にぶい赤褐色2.5Y R5/3.	砂粒一細砂粒を含む。雲母、黑色粒。	ユビオサエのちナデ。	
22-10	甕	口縁部	外面：青灰色2.5Y 4/1. 内面：にぶい赤褐色5Y R5/4. 一部褐色5Y R4/1.	砂粒を含む。石英、角閃石、黑色粒。	外面：ナデ。内面：ユビオサエのちナデ。	摩滅している。
22-11	甕	口縁部	外面：にぶい褐色5Y R6/4. 内面：褐色7.5Y R6/6.	砂粒一細砂粒を含む。角閃石、赤色粒。	口縁部：ヨコナデ。全体：ナデ。	
22-12	甕	口縁部	外面：浅褐色10Y R8/3. 内面：にぶい褐色7.5Y R7/4.	赤色小砾を含む。石英、角閃石。	ユビオサエのちナデ。	摩滅している。
22-13	甕	口縁部	外面：褐灰色5Y R8/1-1-褐灰色7.5Y R5/1. 内面：にぶい褐色7.5Y R6/4.	砂粒を含む。石英、角閃石、白色粒、赤色粒。	ユビオサエのちナデ。	
22-14	甕	口縁部	外面：褐灰色5Y R4/2. 内面：褐色7.5Y R4/4.	砂粒を含む。石英、角閃石。	外面：ナデ。内面：ユビオサエのちナデ。	
22-15	甕	口縁部	外面：暗赤灰色2.5Y R3/1. 内面：にぶい褐色5Y R5/3.	砂粒を含む。石英、角閃石、白色粒。	ナデ。	
22-16	甕	口縁部	外面：にぶい褐色7.5 Y R7/3. 内面：にぶい赤褐色5Y R5/4.	砂粒一細砂粒を含む。角閃石、黑色粒。	ユビオサエのちナデ。	
22-17	甕	口縁部	外面：明赤褐色5Y R5/6. 内面：暗褐色5Y R6/6.	細砂粒を含む。黑色粒。	内面：ユビオサエ。	摩滅が著しい。
23-1	甕	口縁部	外面：明褐灰色5Y R7/1. 内面：にぶい褐色5Y R7/3.	砂粒を含む。石英、角閃石。	外面：ナデ。肩部に横擦の沈線(幅1-2 mm)あり。内面：ユビオサエのちナデ。	口径(21.9)cm.
23-2	甕	口縁部	外面：青褐色5B 1.7 /2. 内面：口縁部上面：にぶい赤褐色2.5 Y R5/4.	砂粒を含む。石英、角閃石、白色粒、黑色粒。	ナデ。	外面に黒斑あり。
23-3	甕	口縁部	外面：にぶい褐色5Y R7/4. 口縁部上面：褐褐色5Y R3/1. 内面：にぶい褐色5Y R6/4.	小砾を少量含む。石英、角閃石、黑色粒。	ナデ。	摩滅している。
23-4	甕	口縁部	外面：褐灰色5Y R5/2-にぶい褐色5Y R7/3. 内面：にぶい褐色5Y R7/3.	粗砂粒から砂粒を含む。角閃石、赤色粒、黑色粒。	外面：ユビオサエのちヨコナデ。内面：ユビオサエのちナデ。	
23-5	甕	口縁部	外面：黄褐色。内面：橙黄色。	石英、角閃石、雲母を含む。	外面：口縁部ヨコナデ。内面：ユビオサエ。	
23-6	甕	口縁部	にぶい赤褐色5Y R5/4-褐灰色7.5Y R4/1.	砂粒一細砂粒を含む。黑色粒。	外面：ナデ。内面：ユビオサエのちナデ。	

図番号	器種	部位	色調・釉調	胎土・磁胎	調整・施文	備考
23-7	甕	口縁部	灰褐色7.5Y R5/2~ にぶい赤褐色5Y R5/3.	砂粒を多く含む。金雲 母、白色粒。	外面：ナデ。内面：ユ ビオサエのちナデ。	
23-8	甕	口縁部	外面：暗褐色2.5Y R7/2。一部黑色5Y R7/1. 内面：明褐色 7.5Y R7/2. 一 部黑色2.5G Y2/1.	砂粒を含む。角閃石、 黑色粒。	ナデ。口縁部外 面：ユビオサエのちナ デ。	
23-9	甕	口縁部	外面：赤褐色2.5Y R 4/1. 内面：にぶい橙 色7.5Y R6/4.	粗砂粒~細砂粒を含む。 角閃石、黑色粒。	ナデ。	
23-10	甕	口縁部	外面：にぶい青褐色10Y R7/3. 口唇部上面のみ 一部黑色10G Z2/1.	粗砂粒~細砂粒を含む。石 英、角閃石、云母、白色 粒、赤色粒、黑色粒。	外面：ナデ。内面：ユ ビオサエのちナデ。	摩滅している。
23-11	甕	口縁部	外面：褐灰色7.5Y R 4/1. にぶい橙褐色5Y R6/3. 内面：にぶい 橙褐色5Y R7/4.	砂粒を含む。石英、角 閃石。	ユビオサエのちナデ。	
23-12	甕	口縁部	灰褐色7.5Y R6/2.	砂粒を含む。石英、角 閃石、白色粒、赤色粒、 黑色粒。	ナデ。	
23-13	甕	口縁部	外面：暗褐色2.5Y 4/2. 口唇部上面：青 黑色5B2/1. 内面： 灰褐色7.5Y R4/2.	細砂粒を含む。白色粒。	ナデ。	
23-14	甕	口縁部	外面：明褐色7.5Y R 5/2. 内面：浅黃橙色 10Y R6/3.	細砂粒を含む。黑色粒。	ユビオサエのちナデ？	摩滅が若しい。
23-15	甕	口縁部	外面：暗褐色5Y R5/ 2. 明褐色7.5Y R5/ 8. 内面：にぶい橙褐色 5Y R7/4.	細砂粒を含む。角閃石、 黑色粒。	外面：ナデ。内面：ユ ビオサエのちナデ。	摩滅が若しい。
23-16	甕	口縁部	外面：黒褐色7.5Y R 3/1. 内面：浅褐色5Y R8/3. 一部黒褐色 7.5Y R3/1.	砂粒を含む。石英、角 閃石、赤色粒、黑色粒。	ナデ。口唇部：瓶位に 刷毛目。	
23-17	甕	口縁部	にぶい橙褐色7.5Y R7/ 4~底褐色7.5Y R5/2.	粗砂粒~細砂粒を含む。 白色粒、黑色粒。	外面：ナデ。内面：ユ ビオサエのちナデ。	
23-18	甕	口縁部	外面：にぶい青褐色10Y R7/2. 一部黒褐色10Y R4/1. 内面：明褐色 10Y R6/1.	砂粒を含む。石英、白 色粒。	ヨコナデ。	口唇部上面に一部 黒斑あり。口径 (28.8) cm.
23-19	甕	口縁部	外面：褐色7.5Y R6/ 8. 部復褐色10Y R8/3. 内面：灰褐色 10Y R6/1.	細砂粒を含む。黑色粒。	ユビオサエのちナデ。	摩滅が若しい。
24-1	甕	口縁部	外面：にぶい青褐色7.5 Y R7/4. 内面：にぶい 橙褐色7.5Y R7/3.	細砂粒を含む。黑色粒。	ハケのちナデ。	
24-2	甕	口縁部	外面：にぶい橙褐色5Y R6/3. 内面：橙色 7.5Y R6/6.	砂粒~細砂粒を含む。 角閃石、黑色粒。	ユビオサエのちナデ。	
24-3	甕	口縁部	外面：褐色7.5Y R7/ 6. にぶい褐色7.5Y R 6/3. 内面：褐色10Y R5/1~灰褐色10Y R8/2.	細砂粒を含む。石英、 角閃石、赤色粒、黑色 粒。	外面：ナデ。内面：ユ ビオサエのちナデ。口 縁部：ヨコナデ。	
24-4	甕	口縁部	外面：灰褐色7.5Y R 5/2. 一部にぶい橙褐色 5Y R6/3. 内面：にぶい 橙褐色2.4Y R6/3.	砂粒~細砂粒を含む。 角閃石、黑色粒。	外面：ハケのちナデ。 外面縁部：ユビオサ エ。内面：ユビオサエ のちナデ。	
24-5	甕	口縁部	外面：灰褐色10Y R 6/2. 内面：にぶい黄 褐色10Y R5/4.	細砂粒を含む。黑色粒。	外面：ユビオサエのち ナデ。内面：ハケ(5 本/cm)のちナデ。	
24-6	甕	口縁部	外面：にぶい青褐色10Y R7/2. 内面：暗赤 褐色5Y R3/6.	砂粒~細砂粒を含む。 赤色粒、黑色粒。	外面：ナデ。内面：ユ ビオサエのちナデ。	摩滅が若しい。
24-7	甕	口縁部	外面：にぶい赤褐色 2.5Y R5/4. 内面： 黒褐色7.5Y R3/1.	砂粒を含む。角閃石、 白色粒。	外面：ハケ。内面：横 方向のハケ。	摩滅している。
24-8	甕	口縁部~ 底部	外面：にぶい褐色7.5 Y R7/4. 内面：明褐色 7.5Y R5/6.	細砂粒を含む。赤色粒、 黑色粒。	外面：ナデ。内面：ユ ビオサエのちナデ。	
24-9	甕	口縁部	赤褐色10R4/4.	砂粒を含む。石英、角 閃石、白色粒、赤色 粒、黑色粒。	(ハケのち?) ナデ。	摩滅している。

団番号	器種	部位	色調・釉調	胎土・磁胎	調整・施文	備考
24-10	甕	口縁部	外面：赤黒色10R1.7/ 1.一部灰褐色7.5YR 5/2. 内面：暗灰色 7.5YR5/1.	細砂粒を含む。角閃石。	口縁部外面：ユビオサエのちヨコナデ。頭部 外面：ヨコナデ。口縁部内 面：ヨコナデ。頭部内 面：ユビオサエのらナデ。	
24-11	甕	口縁部～ 胴部	外面：橙色5YR6/5. 5/2. 内面：暗褐色10 YR5/2. 内面：橙色 5YR6/6.	粗砂粒・砂粒を含む。 角閃石、雲母、白色粒、 赤色粒。	口縁部・突帯部：ヨコ ナデ。突帯上部外面、 内面：ナデ。突帯下部 外面・内面：ハケのち ナデ。	口径31.8cm.
25-1	甕	口縁部	灰褐色5YR4/2.	粗砂粒を多く含む。	外面：横方向のハケ(5 本/cm)のらナデ。内 面：ユビオサエのらナデ。	
25-2	甕	胴部	明褐色7.5YR5/6. 灰赤色2.5YR4/2.	細砂粒を含む。角閃石、 黒色粒。	外面：ナデ。内面：ユ ビオサエのちナデ。	
25-3		胴部	外面：暗灰色7.5YR 4/1. 内面：褐色7.5 YR4/3.	砂粒を含む。角閃石、 赤色粒。	外面：ナデ。内面：ユ ビオサエのちナデ。	断面三角形の突帯 を貼付。
25-4	甕	口縁部	外面：淡褐色10YR 4/1. 内面：にぶい青 褐色10YR7/3. 一部 褐灰色10YR4/1.	細砂粒を含む。黑色粒。	外面：ケズリのちナデ。 内面：ユビオサエのち ナデ。	口径21.8cm.
25-5	甕	口縁部	外面：7.5YR6/4. 内面：にぶい赤褐色5 YR5/2. 一部暗褐色灰 色2.5YR3/1. 淡褐 色7.5YR5/1.	細砂粒を含む。黑色粒。	ユビオサエのちナデ。	輪縁突帯を貼付。
25-6	甕	胴部～脚 部	外面：にぶい青色5Y R6/3. 内面：にぶい 黄褐色10YR6/3.	細砂粒を含む。赤色粒、 黑色粒。	ユビオサエのちハケの ちナデ。脚台内面：ナ デ。	脚径7.4cm.
25-7	甕	胴部～底 部	外面：明褐色10YR 7/2. 一部暗褐色10 YR7/3. 内面：青褐色 5YR5/2. 一部暗褐色 7.5YR7/3. にぶい褐 色7.5YR5/3.	細砂粒を含む。少量の 繊維(3~4mm)を含む。 黑色粒。	ユビオサエのちナデ。	
25-8	甕	脚部	外面：灰白色10YR 8/2. 内面：にぶい青 褐色10YR7/4~明褐色 10YR7/6.	細砂粒を含む。角閃石、 黑色粒。	外面：ユビオサエのち ナデ。内面：ナデ。	
25-9	甕	底部	外面：浅黃褐色10YR 8/2. 内面：黑色5YR 1. 7/1 (スクリーニングの もの) - 淡褐色5YR4/1.	砂粒を含む。角閃石。	ユビオサエのちナデ。	内面にスグが付着 している。脚部と の接合面が残る。
25-10	甕	口縁部～ 胴部	外面：にぶい橙色5Y R7/3. 一部暗褐色10 YR7/3. 内面：明赤 褐色5YR5/6.	砂粒・細砂粒を含む。 角閃石、黑色粒。	外面：ハケのちナデ。 一部ユビオサエ。内 面：ユビオサエのちナデ。	内面に板状工具痕 が散在する。 口径12.9cm.
26-1	甕	底部	外面：明赤褐色5YR 5/6. 内面：にぶい橙 色2.5YR6/4.	細砂粒を含む。石英、 角閃石。	ナデ(?)	唇尖面に砂粒が多 数付着しているた め問題など不明。 底径(9.2)cm.
26-2	甕	脚部	橙色7.5YR6/6.	細砂粒を含む。角閃石。	底面：ナデ。	底辺が著しく外周 の問題は不明。底 径(7.6)cm.
26-3	甕	底部	外面：にぶい橙色5Y R7/4. 一部黒褐色(赤褐色 10R2/1)あり。内面： 淡褐色5YR8/4.	砂粒を含む。白色粒、 赤色粒、黑色粒。	外面：ハケのちナデ。 赤色粒。底面：ハ ケ(8本/9cm)	底辺がハケ調整さ れている。底径 (8.8)cm.
26-4	甕	脚部	外面：にぶい橙色2.5Y R6/4. 一部黒褐色あり。内 面：淡褐色2.5YR2/1.	粗砂粒・細砂粒を含む。 石英、角閃石、黑色粒。	不明。	底辺が著しい。脚 径7.1cm.
26-5	甕	底部	外面：褐色7.5YR4/3. 内面：7.5YR5/6.	細砂粒を含む。角閃石、 黑色粒。	内面：ナデ(?)	外面の底辺が著 しい。底径(6.3)cm.
26-6	甕	脚部	橙色5YR6/6. 一部 褐灰色7.5YR5/1.	砂粒を含む。角閃石、 赤色粒、黑色粒。	外面：ユビオサエのち ナデ。内面：ナデ。	底径(8.0)cm.
26-7	甕	脚部	橙色5YR6/6.	細砂粒を含む。	外面：ナデ。内面：ユ ビオサエのちナデ。	底径(8.8)cm.
26-8	甕	底部	外面：にぶい赤褐色 2.5YR4/4.	砂粒・細砂粒を含む。 黑色粒。	外面：ユビオサエのち ナデ。	底径(7.2)cm.
26-9	甕	脚部	外面：褐灰色10YR 3/1. 2/2~2/1にぶい橙 色5YR7/3. 内面： オリーブ褐色5YR3/1.	砂粒を含む。石英、角 閃石。	外面：ハケのちユビ オサエのちナデ。内面： ナデ。	脚径6.4cm.
26-10	甕	脚部	灰白色5YR8/2. 一 部黒褐色10R1.7/1.	細砂粒を含む。黑色粒。	脚部外面・内面：ヨコ ナデ。底部外面：ナデ。 内面：ナデ。	脚径9.4cm.

図番号	器種	部位	色調・粒度	胎土・埴輪	調整・施文	備考
26-11	甕	脚部	浅黄褐色7.5Y R8/3.	細砂粒を含む。角閃石、赤色粒。	ユビオサエのちヨコナデ。	脚径9.0cm.
26-12	甕	脚部	外側：淡黄色7.5Y R8/2. 内面：明褐色7.5Y R7/2.	粗砂粒～細砂粒を含む。石英、黑色粒。	外面：ユビオサエのちナデ。内面：ナデ。	内面に工具痕が数条残る。 脚径(10.2)cm.
26-13	甕	脚部	外側：小褐色2.5Y R4/5. 内面：1.4V1.8褐色5Y R7/4. 脚内側：灰褐色7.5Y R7/3.	細砂粒を含む。角閃石、黑色粒。	外面・内面：ナデ。脚内面：ヨコナデ。	脚径7.9cm.
26-14	甕	脚部～底部	外側：小褐色2.5Y R4/5. 内面：1.4V1.8褐色5Y R7/4. 脚内側：灰褐色7.5Y R7/2.	粗砂粒～細砂粒を含む。角閃石、黑色粒。	ユビオサエのちナデ。脚内面：横方向のナデ。	脚径8.2cm
26-15	甕	脚部～脚部	外側：に bei 小褐色2.5Y R5/4. 内面：赤褐色5Y R7/1. 脚内側：灰褐色5Y R7/6.	細砂粒、赤色粒。黑色粒。	外面：ナデ。内面：ユビオサエのちナデ。	脚径7.9cm.
26-16	甕	脚部	外側：に bei 小褐色2.5Y R5/4. 一部1.4V1.8褐色5Y R4/4. 脚内側：灰褐色5Y R7/6.	砂粒～細砂粒を含む。角閃石、黑色粒。	外面：ユビオサエのちナデ。内面：ユビオサエのちヨコナデ。	脚径9.6cm.
26-17	甕	脚部	外側：淡褐色5Y R6/6. 一部1.4V1.8褐色5Y R5/3. 内面：に bei 小褐色5Y R4/4. 脚内側：灰白色5Y R8/2.	砂粒～細砂粒を含む。角閃石、黑色粒。	外面・内面：ナデ。脚底部：ヨコナデ。	脚径12.6cm.
26-18	甕	脚部	外側：淡褐色5Y R6/6. 一部1.4V1.8褐色5Y R5/3. 内面：に bei 小褐色5Y R4/4. 脚内側：灰白色5Y R8/2.	砂粒を含む。石英、角閃石、白色粒。黑色粒。	ナデ。	脚径(10.7)cm.
26-19	甕	脚部	外側：に bei 小褐色5Y R4/4. に bei 淡褐色5Y R5/4. 内面：に bei 小褐色5Y R4/3.	粗砂粒から細砂粒を含む。角閃石、黑色粒。	外面：ナデ。内面・外底面：ユビオサエのちナデ。	脚径(8.8)cm. 内面に工具痕が残る。外底面の脚部付近接着面に擦傷跡がみられる。
26-20	甕	脚部	外側：に bei 小褐色5.5Y R7/2 ～ に bei 小褐色5Y R7/1. 一部1.4V1.8褐色5Y R5/3. 内面：1.4V1.8褐色5Y R7/2. 一部1.4V1.8褐色5Y R5/3. 脚内側：灰褐色5Y R7/1.	細砂粒を含む。赤色粒。	外面：ナデ。内面：ユビオサエのちナデ。	脚径10.9cm.
26-21	甕	脚部	外側：明褐色5Y R5/6. 脚部内側：淡褐色2.5Y R3/3. 内面：深褐色7.5Y R6/6.	砂粒～細砂粒を含む。赤色粒。黑色粒。	外面：ユビオサエのちナデ。内面：ユビオサエのちハケ。ナデ。	脚径(11.0)cm.
27-1	壺	口縁部	外側：褐色7.5Y R7/6 ～ 深褐色7.5Y R7/8. 内面：褐色7.5Y R6/8.	砂粒～細砂粒を含む。角閃石、黑色粒。	外面：ハケのちナデ。内面：ナデ。口縁部：ユビオサエのちハケのちナデ。	壊滅が著しい。口径(10.5)cm.
27-2	壺	口縁部	外側：に bei 小褐色5Y R5/3. 一部深褐色7.5Y R8/1. 内面：淡褐色7.5Y R5/3. 一部深褐色7.5Y R5/2.	粗砂粒を含む。角閃石、白色粒。	外面：ユビオサエのちナデ。内面：ナデ。	
27-3	壺	口縁部	外側：に bei 小褐色5Y R5/2. 一部深褐色7.5Y R8/2. 内面：淡褐色7.5Y R5/3.	微細。黑色粒。	外面：回転ナデ。内面：ユビオサエのちナデ。	口径(11.75)cm.
27-4	壺	口縁部	浅黄褐色10Y R5/4.	粗砂粒～砂粒を多く含む。石英、角閃石、白色粒。赤色粒。	外面・内面：ナデ(?)。口縁部：ヨコナデ。	口径(24.8)cm.
27-5	壺	口縁部	外側：褐色7.5Y R6/6. 内面：淡褐色7.5Y R8/4. 深褐色7.5Y R8/1.	粗砂粒～細砂粒を含む。赤色粒。黑色粒。	外面：ハケのちナデ。内面：ユビオサエのちナデ。	外面：スヌ付君。口径(14.8)cm.
27-6	壺	口縁部	に bei 小褐色2.5Y R5/4. 内面：褐色7.5Y R4/6.	粗砂粒を含む。角閃石、黑色粒。	外面：ユビオサエのちナデ。内面：ナデ。	口径13.5cm.
27-7	壺	口縁部	外側：灰白色10Y R8/2. 内面：灰白色2.5Y R8/2.	石英、角閃石。5×2mm 大の赤色粒を含む。	外面：ナデ、ハケ。内面：ナデ(?)。	壊滅が著しい。口径(14.4)cm.
27-8	壺	口縁部	に bei 橙色2.5Y R6/4.	粗砂粒を含む。黑色粒。	外面：ハケ(5本/cm)のちナデ。内面：ナデ。	口径(11.2)cm.
27-9	壺	口縁部	外側：赤褐色2.5Y R4/6. 内面：黑褐色10Y R3/1.	粗砂粒を含む。角閃石、黑色粒。	外面：ミガキ。内面：ナデ。	口径15.2cm.
27-10	壺	口縁部	外側：灰白色10Y R8/2. 一部1.4V1.8褐色5Y R5/3. 内面：灰白色10Y R8/2.	粗砂粒を含む。	外面：ユビオサエのちナデ。内面：ナデ。	壊滅が著しい。
27-11	壺	口縁部	外側：灰白色7.5Y R8/1. 内面：明褐色7.5Y R7/2.	粗砂粒を含む。石英、角閃石、白色粒。赤色粒。黑色粒。	外面：ハケ。内面：ハケ+ヨコナデ+ユビオサエ。	口径15.6cm.

団番号	器種	部位	色調・釉調	* 肋土・磁胎	調整・施文	備考
29-1	壺	底部	明赤褐色5Y R 5/8.	砂粒を含む。帶を少許含む。角閃石。黑色。	外面：ナデ。内面：ユビオサエのらナデ。	工具痕が内面底近くにある。
29-2	壺	底部	外面：明褐灰色7.5Y R 7/2. 内面：に赤い。褐色7.5Y R 7/3.	砂粒・細砂粒を含む。	外面：ナデ。内面：ユビオサエのらナデ(?)	底径(10.2)cm.
29-3	壺	底部	外面：明赤褐色7.5Y R 7/6. と黒褐色7.5Y R 7/8. 一部オーバー部10Y R 3/1. 内面：明褐灰色5Y R 6/6. と後黄褐色5.5Y R 8/4.	砂粒・細砂粒を含む。角閃石。赤色粒。	外面：ユビオサエのちナデ。内面：ユビオサエのちハケナナデ。	底径4.3cm.
29-4	壺	底部	外面：明赤褐色5Y R 6/6. 内面：灰青色2.5Y R 7/2. 一部スズのための赤色。	砂粒・細砂粒を含む。角閃石。白色粒。	外面：ナデ。内面：ユビオサエのちナデ。	底径(8.0)cm.
29-5	壺	脚部～底部	外面：明赤褐色2.5Y R 5/6. 内面：橙色5Y R 6/6.	砂粒・細砂粒を含む。白色粒。黑色。	外面：ナデ。内面：ユビオサエのちナデ。	
29-6	壺	底部	外面：に赤い粗粒5Y R 6/6. 一部赤5Y R 6/6. 部分灰褐色10Y R 4/1. 内面：微細5Y R 6/6.	砂粒・細砂粒を含む。角閃石。白色粒。	外面：ナデ。内面：ユビオサエのちナデ。	底径5.6cm.
30-1	高杯	杯部	外面：淡褐色5Y R 8/4. 一部暗灰色10Y R 8/1.	微細。赤色粒。	ナデ。	
30-2	高杯	杯部～脚部	灰白色10Y R 8/2. 一部暗灰色10Y R 8/1.	砂粒・細砂粒を含む。赤色粒。	ナデ。底部外面：ハケのちナデ。	
30-3	高杯	脚部	橙色2.5Y R 7/6.	微細。赤色粒を含む。	外面：ナデ。内面：ケズリ。	脚径12.6cm.
30-4	高杯	脚部	外面：(赤色顔料付着のため)に赤い粗粒2.5Y R 4/4. 内面：暗褐色5Y R 2/4.	微細。	外面：ミガキ?. 内面：ナデ。	摩滅が著しい。
30-5	高杯	脚部	外面：黄2.5Y R 6/6. (赤色顔料付着のため)一部暗褐色10R 5/4. 内面：に赤い粗粒2.5Y R 7/6-6/8.	細砂粒を含む。角閃石。黑色。	ナデ。	
30-6	高杯	脚部	外面：淡褐色5Y R 8/4. 一部白色10Y R 8/2. 内面：灰白色2.5Y R 8/2.	微細。黑色。	ナデ。	摩滅が著しい。脚径9.8cm.
30-7	高杯	脚部	外面：(赤色顔料付着のため)赤褐色10R 6/8. 一部暗赤褐色5Y R 3/2. の付着跡有り。内面：橙色5Y R 6/6.	細砂粒を含む。角閃石。黑色。	外面：(横方向1mm幅の)研磨。内面：ナデ。	
30-8	高杯	脚部	外面：淡褐色2.5Y R 6/6 -明褐色7.5Y R 5/6. 一部に赤い粗粒2.5Y R 4/4の付着有り。内面：微粒5Y R 6/6.	細砂粒を含む。赤色粒。黑色。	外面：ナデ。内面：ユビオサエのちナデ。	摩滅が著しい。底径(12.3)cm.
30-9	壺	完形品	外面：赤色調 (赤色10R 5/8) 付着。内面：明褐灰色5Y R 7/2.	微細。	外面：(ハケのち?)横方向のミガキ。	摩滅が著しい。口径(11.1)cm. 底径5.4cm. 高さ15.6cm.
30-10	壺	脚部～底部	外面：橙色5Y R 7/6. 内面：淡褐色5Y R 8/4. 一部墨斑有り。	細砂粒を含む。	外面：ナデ(?)。内面：ユビオサエのちナデ。	摩滅している。底径4.1cm.
30-11	壺	脚部～底部	外面：(赤色顔料付着のため) 橙色5Y R 6/6. に赤い粗粒5Y R 4/3. 一部(スズ付着のため) 黑色10Y R 1/1. 内面：灰白色10Y R 7/1.	微細。黑色。	外面：ミガキ?. 内面：ナデ。	底径3.3cm.
30-12	壺	脚部～底部	灰白色2.5Y R 8/1. 外面：一部明褐灰色5Y R 7/1.	微細。赤色粒を含む。	外面：ナデの横方向のミガキ。内面：ユビオサエのちナデ。	接合部が明瞭に残る。底径5.6cm.
30-13	壺	脚部～底部	橙色2.5Y R 6/6.	微細。	ナデ(?)。	摩滅している。底径(5.8)cm. 断面に一些赤色顔料が付着している。
30-14	壺	脚部～底部	外面：灰白色5Y R 8/2. 一部褐灰色10Y R 4/1. 一部に赤い褐灰色7.5Y R 5/4.	砂粒・細砂粒を含む。赤色。	外面：ナデ。内面：ユビオサエのちナデ。	底径1.8cm.
30-15	壺	脚部	外面：(赤色顔料付着のため)赤色。内面：明黄褐色。	細砂粒を少し含む。白色。黑色。	外面：横方向のミガキ。内面：ハケのちナデ。ユビオサエ。	脚部径(6.7)cm.
30-16	壺	脚部	外面：明赤褐色2.5Y R 5/6. 一部灰褐色2.5Y R 4/4. 内面：暗赤色10R 3/4.	微細。角閃石。黑色。	外面上部：ケズリのちナデ。外面下部：ナデ。内面：ナデ。	傾き不明。

図番号	器種	部位	色調・特徴	胎土・磁胎	調整・施文	備考
30-17	壺	底部	外面：淡褐色5Y R 8/4、赤褐色6.5Y R 6/3。内面：淡褐色5.5Y R 5/1。に赤褐色10Y R 7/2。	微細、赤色粒。	外側：ナデ、内面：ユビオサエのちナデ。	底径2.6cm。
30-18	壺	底部	外面：(赤色顔料付着のため)赤褐色10R 4/4、一部黒褐色10Y R 3/1。内面：暗灰色10Y R 3/1。	微細、黒色粒。	内面：ユビオサエのちナデ。	底径(4.1)cm。
30-19	壺	底部	外面：(赤色顔料付着のため)赤褐色5.5R 4/8、一部黒褐色7.5Y R 8/3。内面：暗褐色2.5Y R 2/1。に赤褐色10Y R 7/2、一部黒褐色10Y R 3/1。	微細、角閃石。	外面：横方向のミガキ、内面：ユビオサエのちナデ。	底径3.7cm。
31-1	鉢	体部-底	外面・内面：に赤褐色10Y R 7/4、底面：淡褐色5Y R 6/4。底部：暗褐色10Y R 6/2、一部黒褐色10Y R 3/1。	石英、角閃石を多数含む。	外面：ナデ、内面：ハケのちナデ。	底径4.0cm。
31-2	鉢	底部	外面：(赤色顔料付着のため)赤褐色5Y R 6/4、底部：暗褐色10Y R 6/2、一部黒褐色X 3/1。	砂粒を含む、角閃石、黑曜石(?)、黑色粒。	外面：ユビオサエのちナデ、内面：ナデ。	底径(4.8)cm。
31-3	鉢	底部	外面：赤褐色5B G 2/1。内面：暗褐色2.5Y 3/1。	砂粒を含む、石英、角閃石、白色粒。	外面：ハケ、内面：ナデ。	
31-4	壺	底部	外面：に赤褐色5B G 2/1。内面：暗褐色2.5Y 3/1。底部：暗褐色7.5Y R 7/8。	細砂粒を含む、角閃石、黑色粒。	ユビオサエのちナデ、底部外面：ナデ。	底径5.2cm。
31-5	壺	底部	外面：に赤褐色5Y R 5/4、内面：に赤褐色5Y R 4/4。	砂粒を含む、石英、角閃石、白色粒。	摩滅のため不明。	摩滅している。底径1.3cm。
31-6	鉢	完形品	外面：に赤褐色5Y R 6/4、内面：に赤褐色5Y R 6/3。	細砂粒を含む、角閃石、黑色粒。	ハケのちナデ、底部外面：ナデ。	ナデ調整が粗雑、口径(12.5)cm。
31-7	鉢	口縁部	外面：に赤褐色7.5Y R 7/4、内面：に赤褐色7.5Y R 6/4。	粗砂粒・砂粒を含む、石英、角閃石、白色粒、黑色粒。	外面：ハケ、内面：横方向のミガキ、ハケ(?)のちナデ。	摩滅している。
31-8	鉢	口縁部	外面：淡褐色7.5Y R 8/3、内面：に赤褐色7.5Y R 7/4。	砂粒を含む、角閃石。	口縁部：ミコナデ、外面：ユビオサエ・ハケのちナデ、内面：ナデ・ハケ。	
31-9	鉢	口縁部	外面：赤褐色5Y R 5/2、底部：暗褐色2.5Y R 3/1、内面：暗褐色7.5Y R 5/2。	細砂粒を含む、角閃石、白色粒。	外面：ナデ、内面：ユビオサエのちナデ。	
31-10	鉢	口縁部	外面：に赤褐色10Y R 7/3、内面：に赤褐色10Y R 7/2-暗褐色5Y R 3/1。	細砂粒を含む、黑色粒。	ナデ。	
31-11	壺	口縁部	明褐色7.5Y R 5/6。	細砂粒を含む、黑色粒。	外面：ナデ、内面：ユビオサエのちナデ。	摩滅が苦しい。
31-12	鉢	口縁部	外面：暗褐色7.5Y R 5/2、内面：暗褐色5Y R 3/1。	粗砂粒・細砂粒を含む、石英、角閃石、黑色粒。	ユビオサエのちナデ。	
31-13	鉢	頭部	外面：淡褐色5Y R 8/4、内面：淡褐色5Y R 8/3。	細砂粒を含む、角閃石、白色粒。	ナデ。	頭部に斜位の沈線。
31-14	(手づくね土器)	完形品	外面：赤褐色2.5Y R 4/1、内面：暗褐色2.5Y R 3/1。	細砂粒を含む、白色粒。	外面：ユビオサエのちケズリ、底面：内面：ユビオサエのちナデ。	口径6.9cm、底径3.0cm、高さ5.5cm。
31-15	(手づくね土器)	完形品	灰褐色5Y R 6/2-鉢底、暗褐色5Y R 2/1。	細砂粒を含む、赤色粒。	外面：ユビオサエのちナデ、内面：ユビオサエ。	口径5.9cm、底径2.9cm。
32-1	碗	口縁部-底部	外側：淡褐色7.5Y R 7/6、灰褐色6.5Y R 4/2、内面：暗褐色7.5Y R 7/6。	微細、赤色粒。	圓転台によるナデ、底面：ナデ。	口径12.5cm、底径6.6cm、高さ6.6cm。
32-2	碗	脚-頭部	外側：淡褐色7.5Y R 6/3、内面：明褐色2.5Y R 5/6、一部黒褐色7.5Y R 6/3。	微細。	ナデ。	表面に粘土様の巻跡が見られる。内・外側面に筋スジ(?)状の墨化部が見られる。底径6.8cm。
32-3	杯	完形品	外面：赤褐色2.5Y R 4/6、内面：暗褐色10Y R 3/4。	微細、黑色粒。	圓転台によるナデ。	口径13.4cm、底径8.8cm、高さ4.1cm。
32-4	皿	口縁部	灰白色7.5Y R 8/1。	微細、灰色。	地紋。	
32-5	碗	脚部-底部	施釉された部分は淡オーラー7.5Y S/3弱、無釉の部分は灰褐色2.5Y R 6/2。	灰白色。	地紋。	底径5.5cm。

団番号	岩種	部位	色調・釉調	粘土・磁胎	調整・施文	備考
27-12	巖	口縁部	外面：にぶい褐色2.5 Y R6/4. 内面：褐色7.5 Y R6/8.	粗砂粒-微細な砂粒を含む。石英、角閃石、白色粒。	外面：ハケのちナデ。口唇部・内面：ナデ？	内面：所々剥落している。全体に黒斑している。口径(15.0)cm.
27-13	巖	頭部	外面：にぶい褐色2.5 Y R6/4. 内面：にぶい褐色7.5 Y R7/3.	砂粒-粗砂粒を含む。角閃石、黑色粒。	外面：ハケのちナデ。内面：ユビオサエのちナデ。	内面の摩滅が著しい。
27-14	巖	口縁部	外面：にぶい褐色5 Y R6/4. 内面：にぶい黄褐色10 Y R7/3.	砂粒を含む。石英、角閃石、白色粒。赤色粒、黑色粒。	外面：ハケのちナデ。	
27-15	巖	口縁部	外側：褐色5 Y R7/8-浅褐色7.5 Y R8/3. 一部暗褐色9.5 Y R7/1. 内面：明褐色5 Y R6/4. 黄褐色7.5 Y R7/1.	石英、角閃石、白色粒、黑色粒。	ナデ？	摩滅が著しい。口径(25.3)cm.
28-1	巖	口縁部	淡赤褐色2.5 Y R7/4. 口唇部上層：淡褐色5 Y R8/3.	粗砂粒-粗砂粒を含む。石英、角閃石、黑色粒。赤色粒。	外面：ナデ。ヨコ方向のハケ。内面：ハケのちナデ。口唇部：ナデ。	口径(15.0)cm.
28-2	巖	口縁部	外面：褐色2.5 Y R4/3. 内面：褐色7.5 Y R6/6.	砂粒を含む。角閃石、黑色粒。	口唇部：ヨコナデ。その他：ナデ(?)	
28-3	巖	口縁部	外面：暗赤褐色7.5 R3/3. 内面：にぶい赤褐色2.5 Y R5/4.	砂粒を含む。石英、角閃石。	口縫部：ヨコナデ。全体：ナデ。	
28-4	巖	肩部	外面：褐色2.5 Y R6/6. 内面：にぶい褐色5 Y R6/4.	砂粒-粗砂粒を含む。角閃石、黑色粒。	ナデ。	摩滅が著しい。
28-5	巖	肩部	外面：にぶい赤褐色5 Y R5/4. 内面：にぶい赤褐色2.5 Y R5/4.	粗砂粒を含む。角閃石、黑色粒。	外面：ナデ。内面：ユビオサエのちナデ。	
28-6	巖	肩部	外面：褐色2.5 Y R5/8. 内面：明赤褐色5 Y R5/8.	砂粒-粗砂粒を含む。角閃石、黑色粒。	外面：ナデ？。内面：ユビオサエのちナデ？。	摩滅が著しく調整が難然としない。
28-7	巖	肩部	外面：灰褐色5 Y R5/2. 内面：褐色7.5 Y R6/6. 一部暗褐色7.5 Y R4/1.	砂粒を含む。石英、角閃石、白色粒。赤色粒、黑色粒。	外面：ナデ。内面：ユビオサエのちナデ。	摩滅が著しい。
28-8	巖	肩部	外面：にぶい褐色2.5 Y R6/4. 一部暗褐色2.5 Y R6/1. 褐色2.5 Y R6/1. 内面：褐色7.5 Y R4/3.	砂粒-粗砂粒を含む。黑色粒。	外面：ナデ。突審上部-下部：横方向のナデ。内面：ユビオサエのちナデ。	突審に斜位の割みあり。
28-9	巖	肩部	外面：淡褐色5 Y R6/4. 刮削下部暗褐色5 Y R6/1. 一部褐色5 P B2/1. 内面：にぶい褐色5 Y R7/4.	砂粒を多く含む。石英、角閃石、白色粒。	ハケのちナデ。	肩部径(8.4)cm. 肩部深(20.6)cm.
28-10	巖	頭部-底部	褐色5 Y R6/8.	砂粒を含む。石英、黑色粒。	外面：ユビオサエのちナデ。内面：ユビオサエのちナデ。一部ハケ目残存。接合痕が見られる。	
28-11	巖	肩部	外面：にぶい褐色7.5 Y R5/3-5/4. 一部褐色N-2と明褐色7.5 Y R5/6が斑状になっている。	砂粒-粗砂粒を含む。黑色粒。	外面：ハケのちナデ。内面：剥落のため不明。	
28-12	巖	底部	外面：にぶい褐色5 Y R7/4. 一部灰白褐2.5 Y R7/1. 内面：にぶい赤褐色5 Y R4/3.	粗砂粒を含む。黑色粒。	ユビオサエのちナデ。	
28-13	巖	底部	外面：褐色2.5 Y R7/6. 内面：暗褐色5 Y R8/3.	粗砂粒を含む。黑色粒。	ユビオサエのちナデ。	摩滅が著しい。底径(8.4)cm.
28-14	巖	底部	外面：褐色2.5 Y R6/6. 底面：暗褐色2.5 Y R4/1. 内面：灰褐色5 Y R5/2.	砂粒を含む。石英、白色粒。	ナデ。	
28-15	巖	底部	外面：にぶい赤褐色2.5 Y R4/4. 内面：褐色7.5 R4/4.	粗砂粒を含む。黑色粒。	外面：ナデ。内面：ユビオサエのちナデ。	底径(7.0)cm.
28-16	巖	底部	外面：淡褐色2.5 Y R7/2. 黑褐色7.5 Y R6/2. 黑褐色(褐色5 Y R6/4)。あり。内面：褐色7.5 Y R6/6.	粗砂粒-粗砂粒を含む。角閃石、黑色粒。	ユビオサエのちナデ。	底径(5.1)cm.
28-17	巖	底部	外面：暗褐色10 Y R3/1. 一部にぶい褐色5 Y R7/4. 内面：褐色10 Y R5/1.	粗砂粒-砂粒を多く含む。石英、角閃石、白色粒。	外面：ハケのちナデ。	外面と底面に黒斑あり。底径(5.4)cm.

## II. 鹿児島大学構内遺跡（郡元団地H-11区地域共同研究センター建設予定地）におけるプラント・オパール分析結果

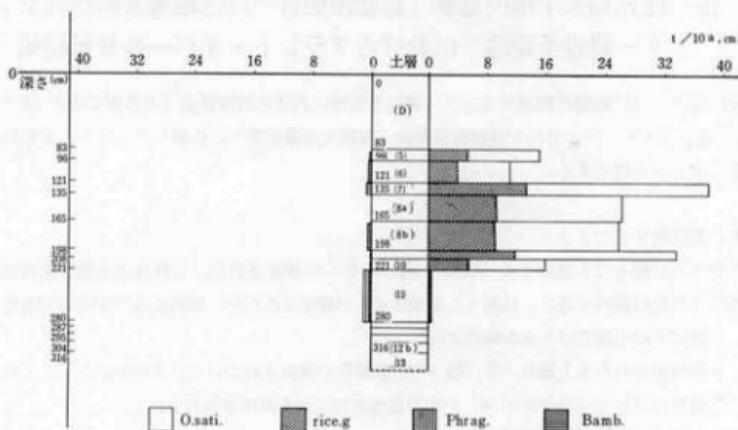
郡元団地H-11区地域共同研究センター建設予定地における試掘調査（本年報第I部 第2章）では、プラント・オパール分析を藤原宏志教授（宮崎大学農学部）に依頼した。以下、分析結果に関するコメントを提示する。

### 分析結果に関するコメント

- 1 5層から10層まで大量のイネ (*Oryza sativa L.*) が検出された。これらの土層が稻作に利用された可能性は極めて高い。11層でも少量のイネが検出されたが、量的にみて流入の可能性が高い。12層以下の土層ではイネが検出されなかった。
- 2 イネが検出された各土層および13層でキビ族植物が検出されている。その形状から、これらのキビ族植物にはヒエ (*Echinochloa*) が相当量含まれていると推定される。
- 3 イネ以外のイネ科植物は全体に少なかった。
- 4 7層から9層で検出されるイネは極めて多量であり、同時代の他遺跡に比較しても不自然と思えるほどである。あるいは、当時、ここで栽培されたイネの系統が特殊なものであったかも知れない。プラント・オパール形状解析を行い、イネ系統の検討を試みる必要もあるう。

表4 プラント・オパール定量分析結果

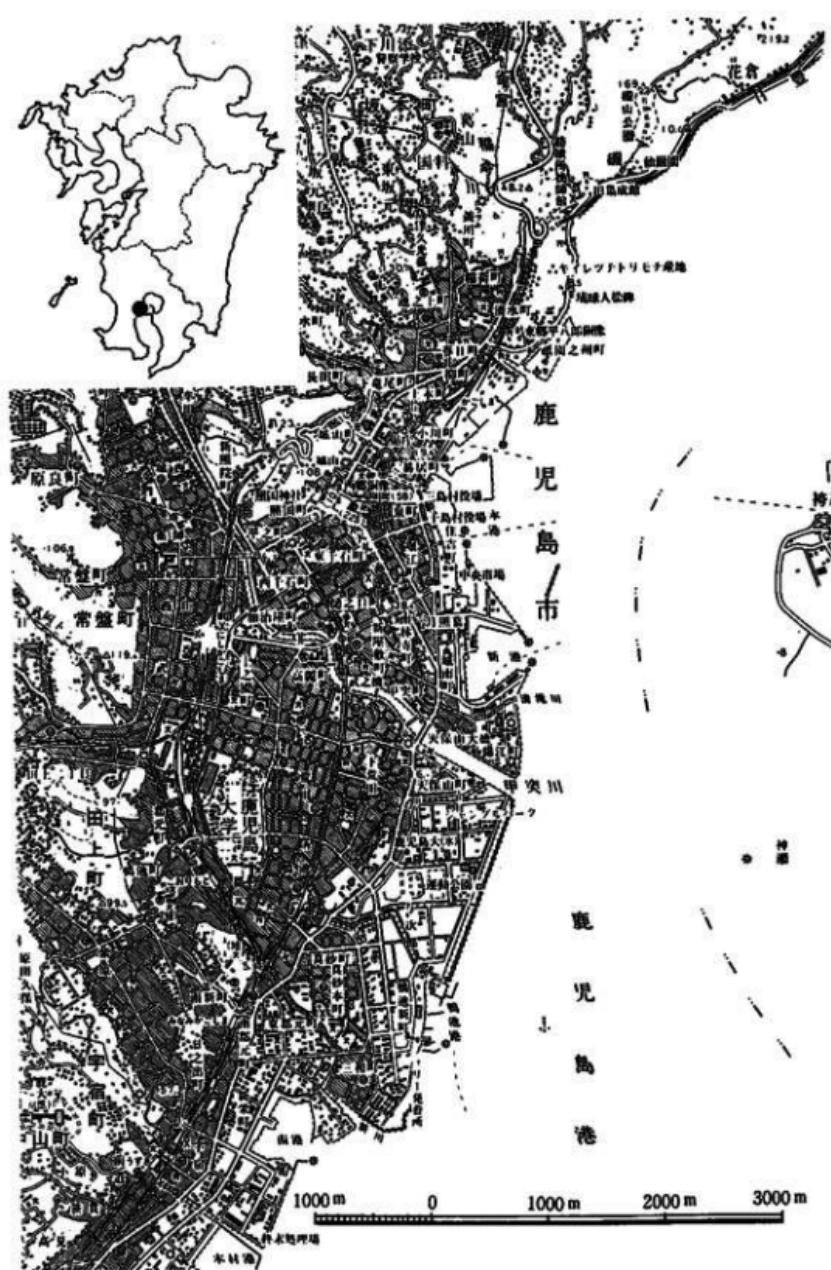
層名	イネ ( <i>O. sati.</i> )	イネ穀 (rice g.)	植物体乾重 (t/10a.c.m)				
			キビ族 (Pani.)	キビ族種実 (Pani. seed)	ヨシ (Phrag.)	タケ亞科 (Bamb.)	ウシクサ族 (Andoro.)
D	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
5	15.090	5.286	2.846	1.292	0.000	0.224	3.471
6	11.156	3.909	9.259	4.205	0.000	0.364	1.882
7	38.002	13.314	3.285	1.492	0.000	0.646	2.337
8 a	26.262	9.200	4.843	2.199	0.000	0.000	0.985
8 b	25.805	9.040	10.447	4.744	0.000	0.514	1.858
9	33.672	11.797	16.768	7.614	0.000	0.110	2.272
10	15.888	5.566	12.362	5.614	0.000	0.081	2.513
11	0.427	0.150	1.773	0.805	1.007	0.140	0.180
12 a	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
12 b	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
12 c	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
12 d	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
13	0.000	0.000	4.163	1.890	0.000	0.000	0.338

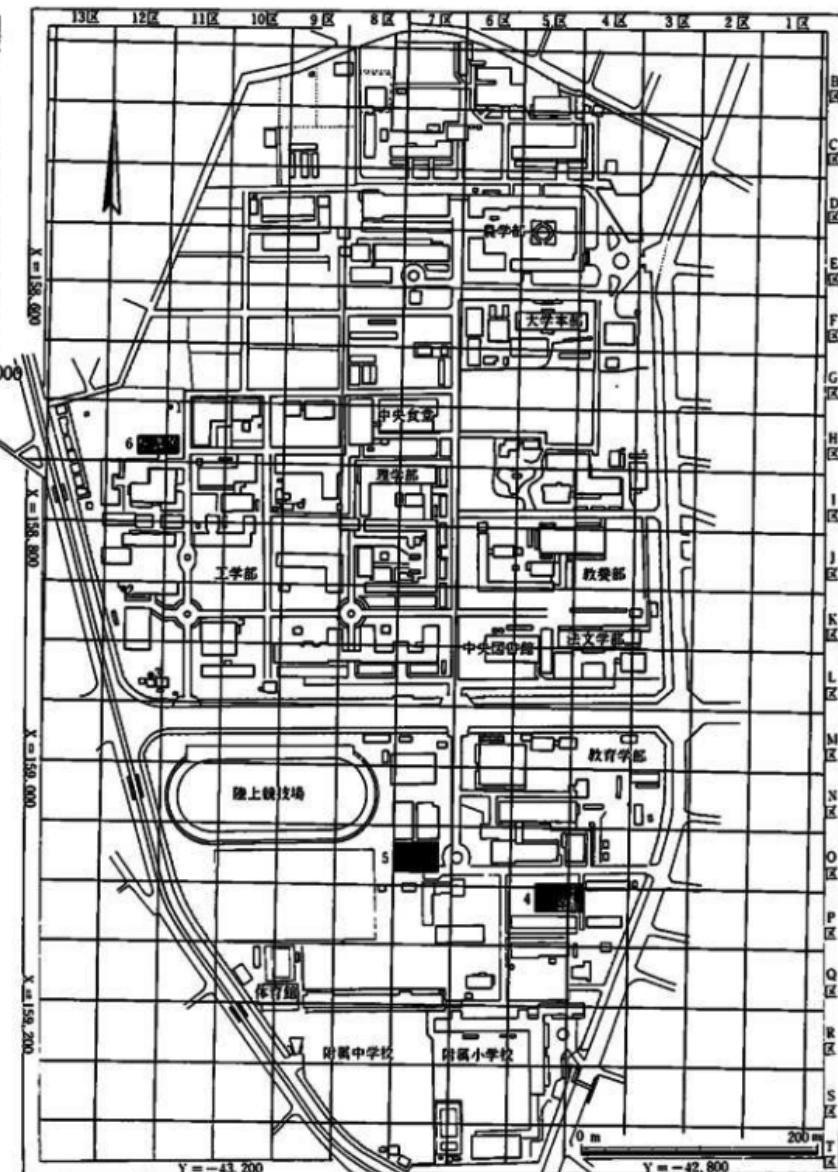


第33図 プラント・オパール定量分析結果

図 版

四版1 鹿児島大学郡元団地位置図





1. 地域共同センター建設予定地
2. 工学部応用化学工学科エレベーター建設予定地
3. 緩衝ホール建設予定地
4. 教育学部音楽美術棟建設予定地
5. 福利厚生施設建設予定地
6. 工学部情報工学科校舎



(1) 調査地点（東から）



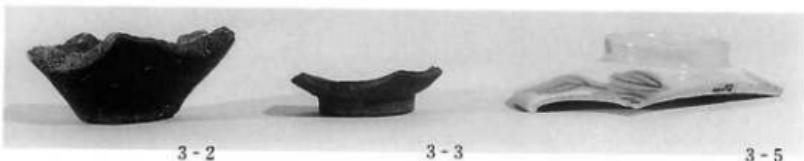
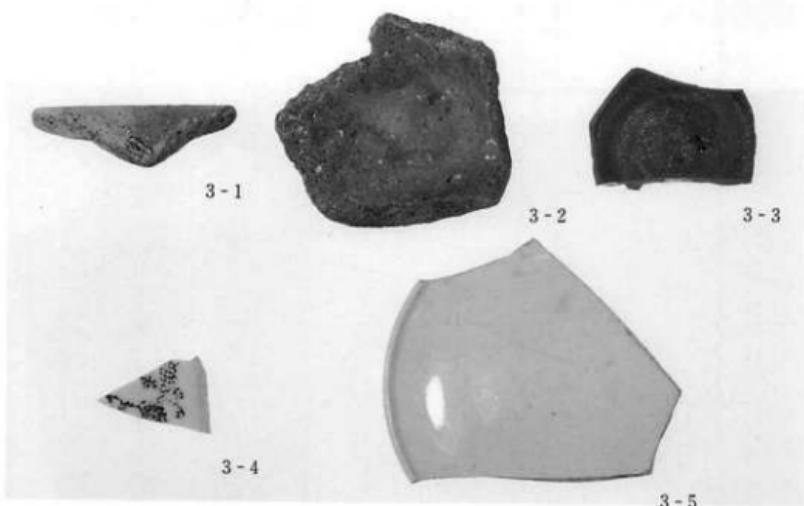
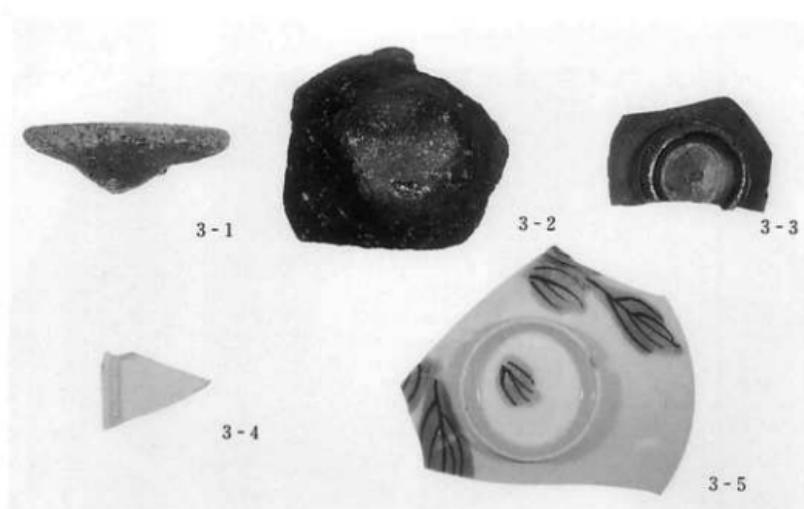
(2) トレンチ完掘状況



(3) 木片出土状況 (真上から)



(4) 木片出土状況 (北から)



出土遺物



(1) 調査地点（北から）



(2) 北壁



(1) 調査地点 (南から)



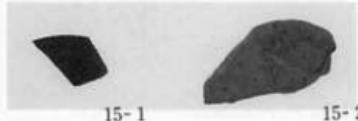
(2) No 1 トレンチ遺構面検出状況



(3) No 2 トレンチ⑩層上面検出状況



(1) No 1 トレンチ東壁



15- 1

15- 2

(3) 出土遺物 (表)



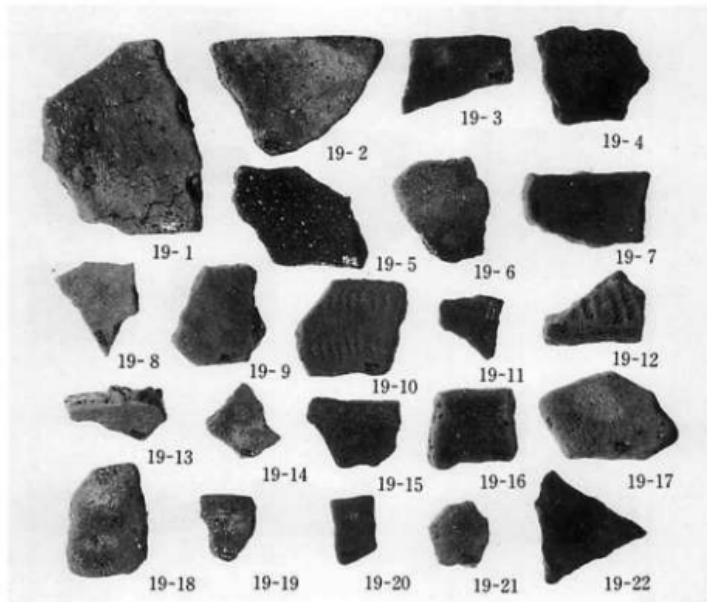
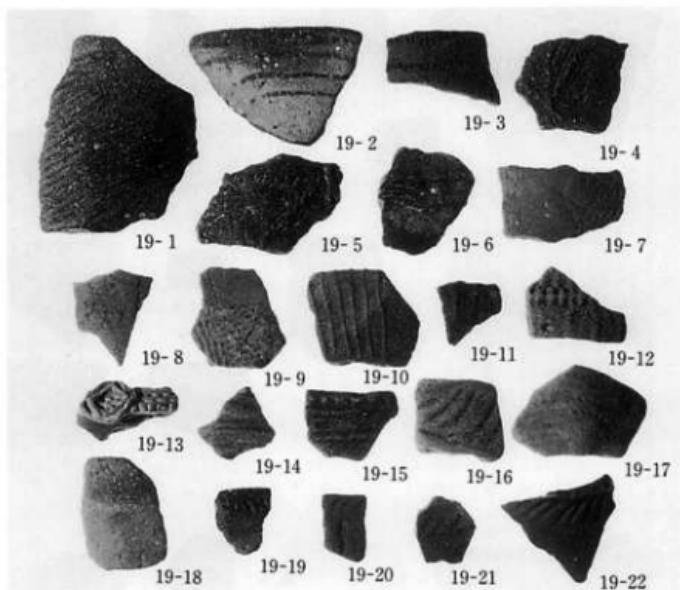
(2) No 2 トレンチ東壁



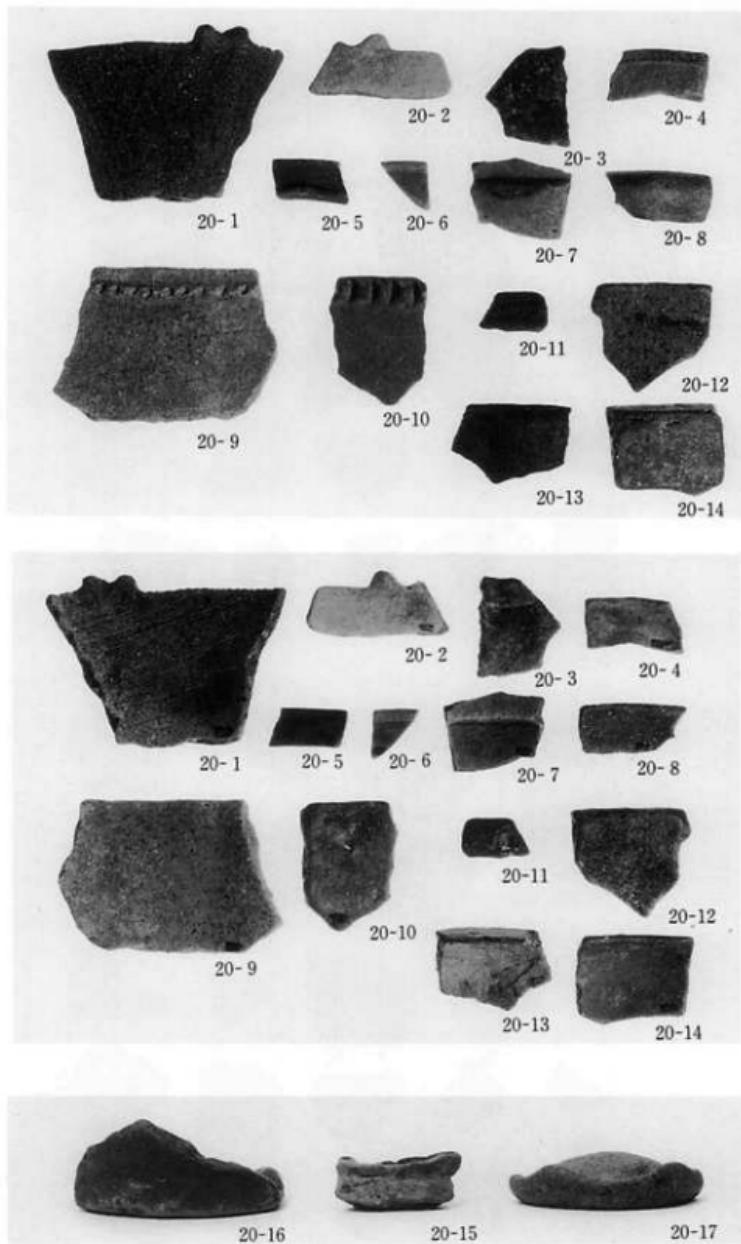
15- 1

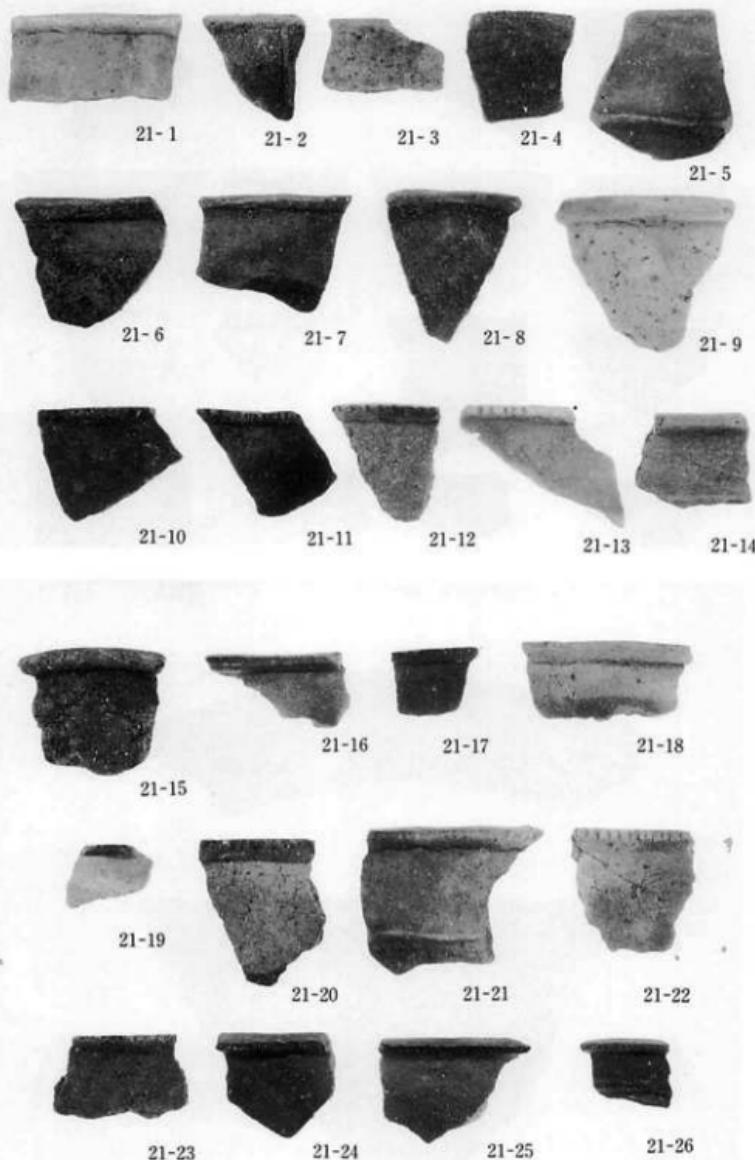
15- 2

出土遺物 (裏)



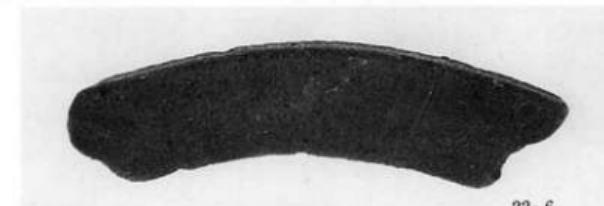
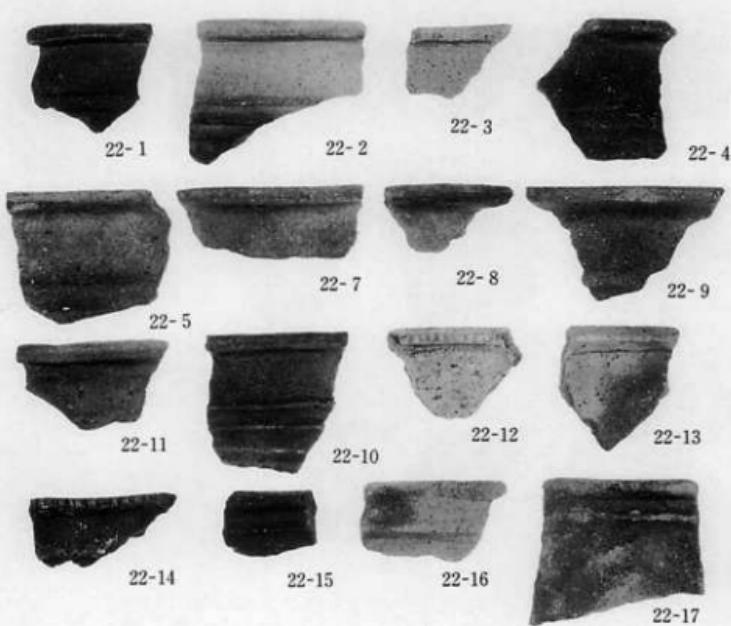
圖版 10  
都元團地 H-11・12 区發掘調查河2出土遺物 (2)

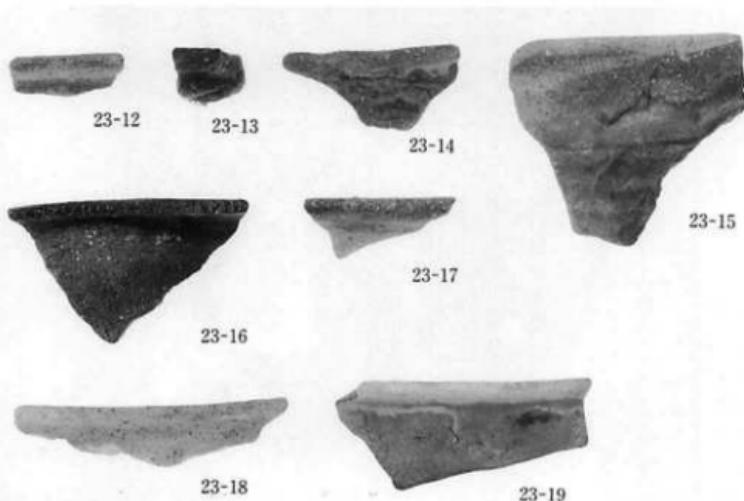
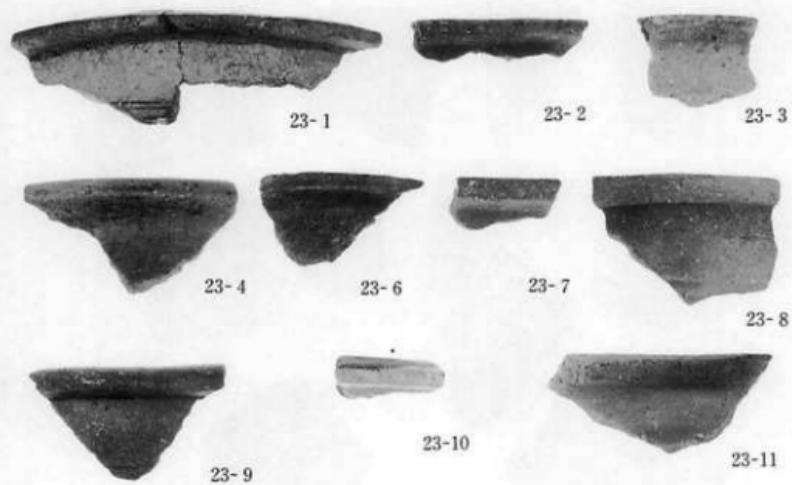




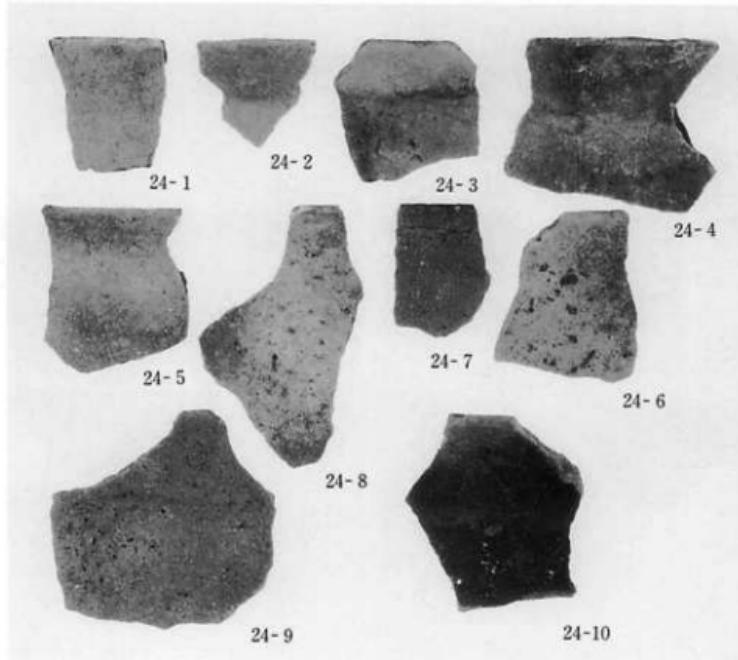
圖版 12

都三元團地 H-11  
12區發掘調查河2出土遺物  
(4)

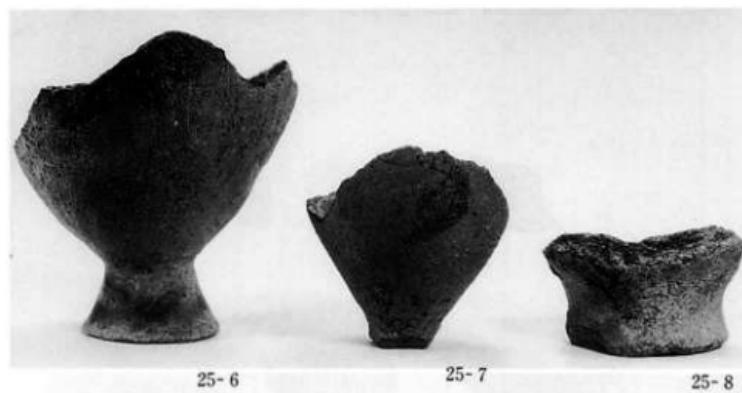
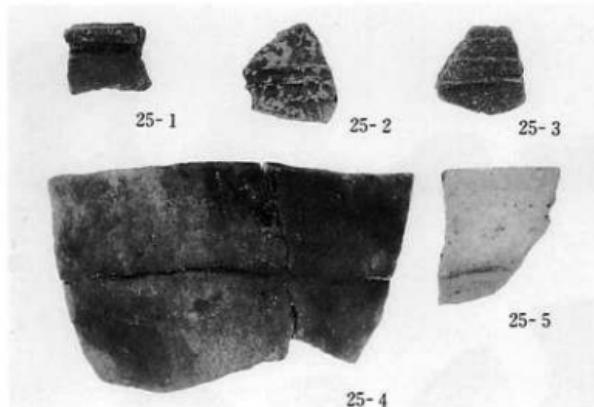


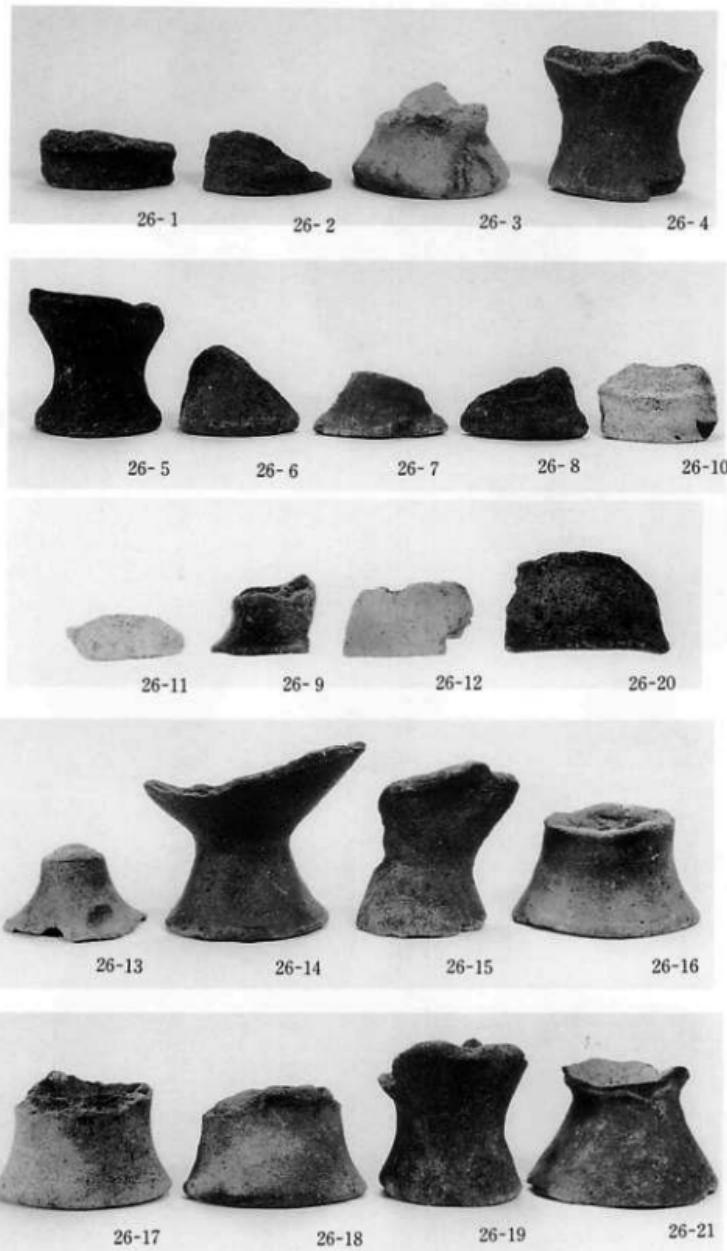


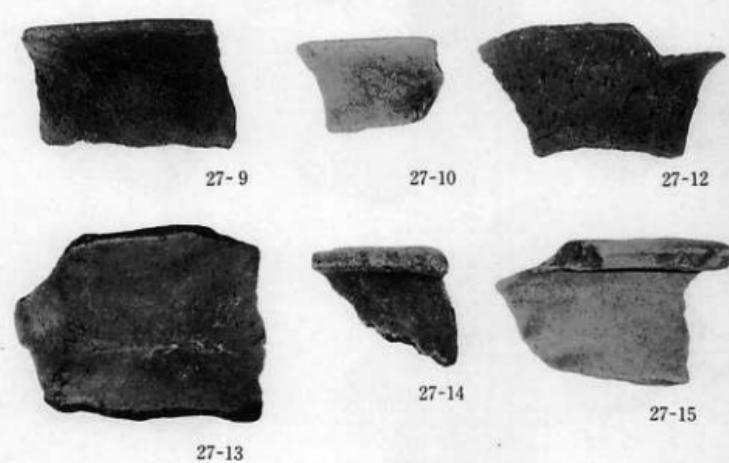
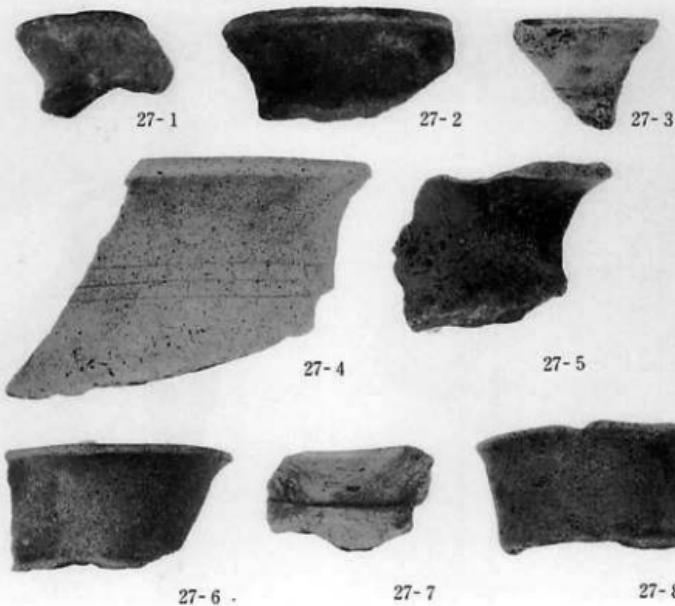
圖版 14  
鄧元團地 H-11·12 区發掘調查河2出土遺物  
(6)



24-11





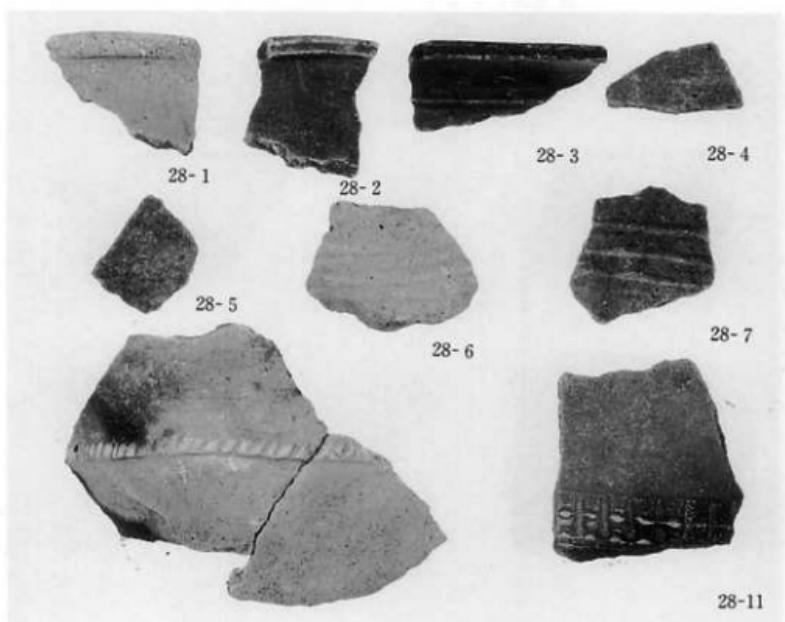




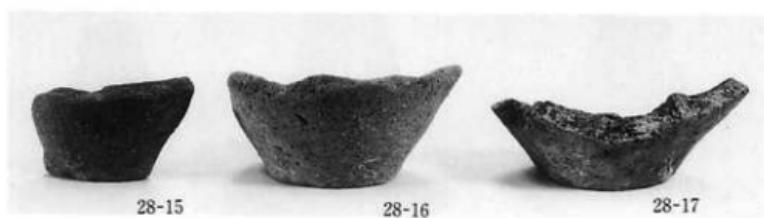
27-11

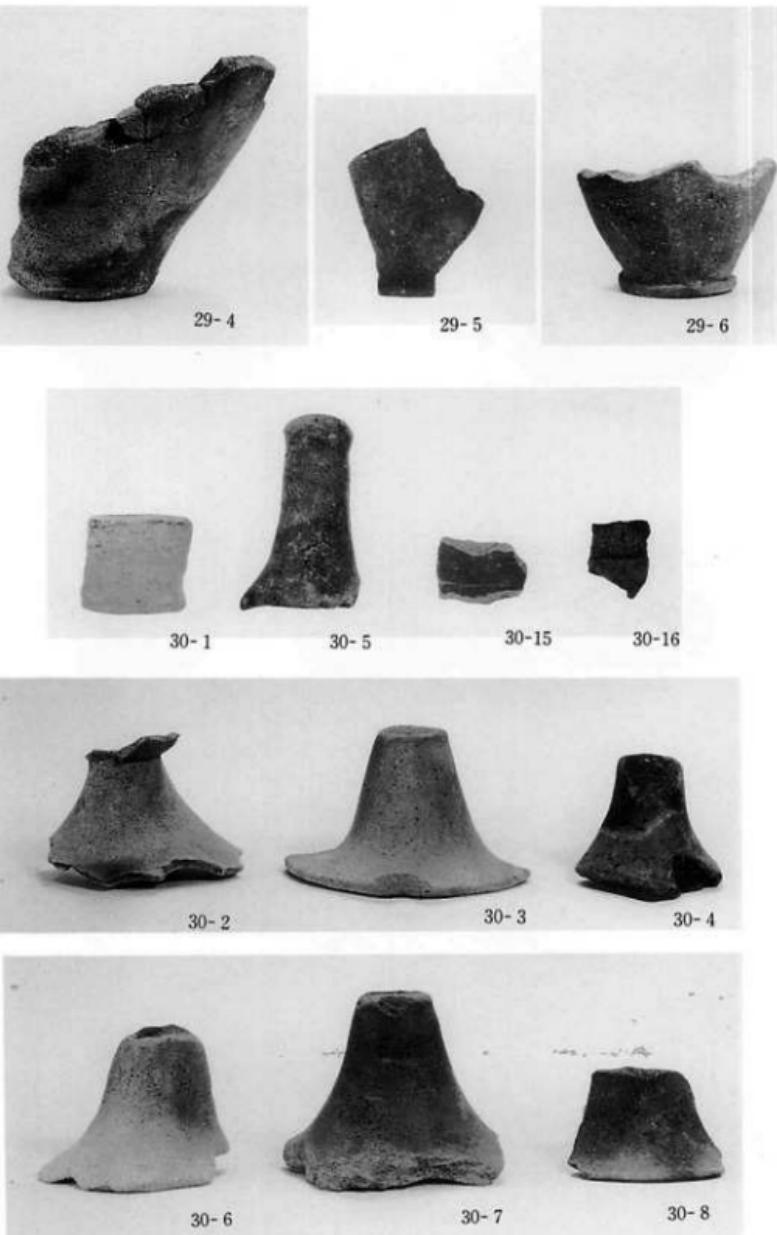


28-9



28-8



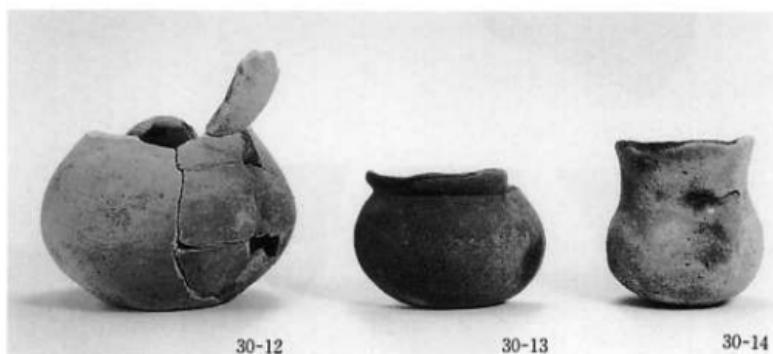




30-9

30-10

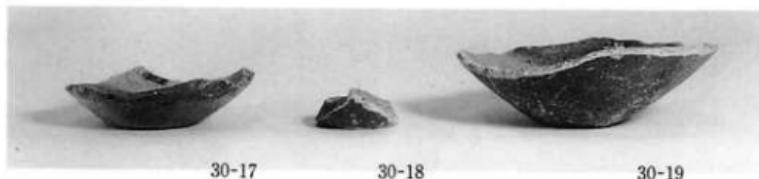
30-11



30-12

30-13

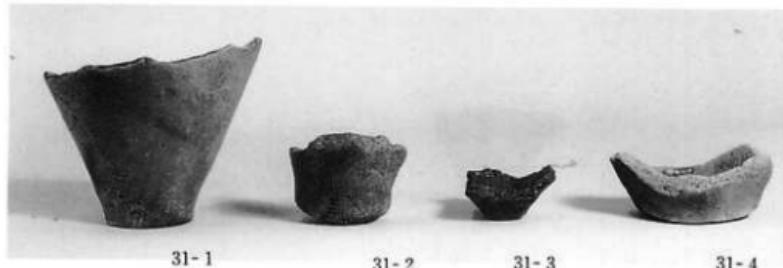
30-14



30-17

30-18

30-19



31-1

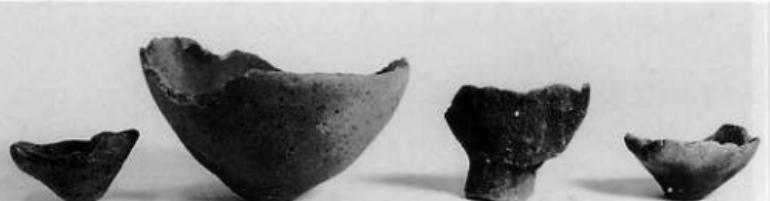
31-2

31-3

31-4

圖版 22

都元团地 H-11・12区発掘調査河2出土遺物  
(14)

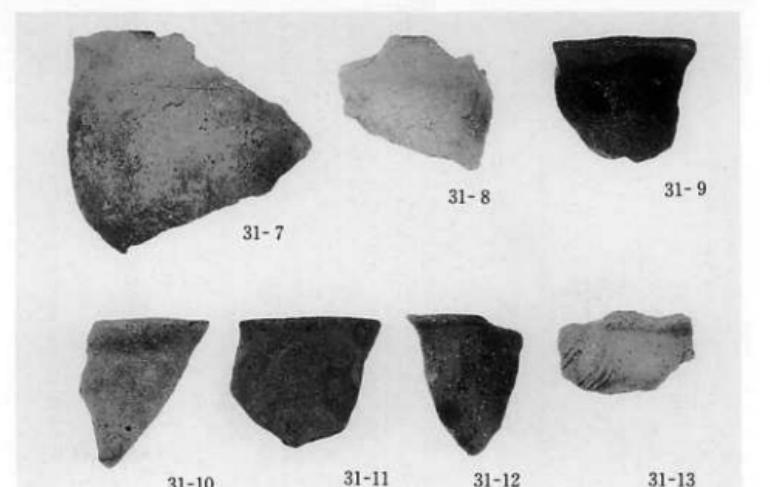


31-5

31-6

31-14

31-15



31-7

31-8

31-9

31-10

31-11

31-12

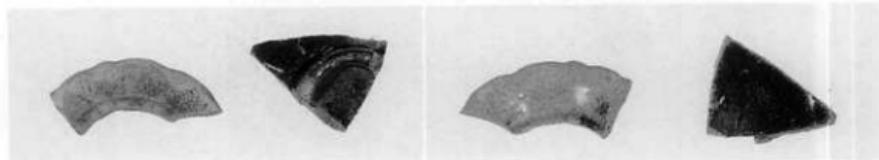
31-13



32-1

32-2

32-3



32-4

32-5

32-4

32-5

鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報Ⅳ

1993年3月

編集発行 鹿児島大学埋蔵文化財調査室  
鹿児島市郡元一丁目21-24  
電話 (0992) 85-7270